

研究テーマ： 高等学校保健体育の学習評価に関する研究 ～ 指導と評価の一体化を目指して～

久保寺 忠夫（研修指導室）郡山 強（研修指導室）白井 功（研修指導室）落合 浩一（研修指導室）
林 ますみ（研修指導室）大越 正大（研修指導室）中村 ふじ（生涯スポーツ推進室）中川 裕志（県立綾瀬高校）

はじめに

新しい学習指導要領は、完全学校週5日制の下、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することを基本的なねらいとして、小学校・中学校では平成14年度に全面実施され、高等学校では平成15年度より学年進行で実施されている。

このねらいを実現するため、平成12年12月に教育課程審議会から「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」の答申が出され、これを受けて国立教育政策研究所・教育課程研究センターから、平成14年2月に小学校及び中学校における「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料 評価規準、評価方法等の研究開発（報告）」が示された。さらには、平成15年6月には、中間整理として高等学校における教科目標・評価の観点及びその趣旨が示され、高等学校においても指導と評価の一体化を目指したより一層充実した授業実践が求められている。

しかしながら、現在、高等学校の授業実践においては、評価規準の設定及び評価の方法等について課題が多いのが現状ではないだろうか。

そこで、これからの学習指導と評価の方向性を見据え、また一昨年度行った「中学校保健体育の学習評価に係る調査研究」の成果を土台としながら、高等学校の学習評価に関する研究を行うこととした。

本研究では、まず高等学校保健体育における学習評価及び評価資料の活用方法について理論的研究を行い、その理論を基に授業実践を行うことで、その成果と課題を整理することを目的とした。さらには、それらを基にして、各学校が学習評価計画を作成する際に活用できる学習指導と評価の具体的な方法を示した「学習評価ハンドブック」を作成するための資料とすることを目的とした。

研究の方法

1 理論の研究（平成15年度）

文献研究を行い、指導と評価の一体化を主眼とした新学習指導要領の趣旨に基づいた学習評価方法の要点と手順を整理する。（学習評価ハンドブック理論編の作成）

2 授業実践（平成16年度）

理論の研究を基に、科目「体育」（体づくり運動・バドミントン）と科目「保健」（社会生活と健康）について授業実践を行い、学習評価に関する成果と課題を整理する。（学習評価ハンドブック、全編の作成）

（1）学習評価に対する整理の視点

- ア 評価規準は適切であったか
- イ 評価の場面は適切であったか
- ウ 評価方法は適切であったか

（2）授業実践の計画

ア 日時と実践校

《 科目「体育」 》

（ア）体づくり運動

日時：平成16年9月24日（金）
～11月30日（火）

実践校：県立A高等学校

対象：2年生女子1クラス（22名）

（イ）バドミントン

日時：平成16年10月1日（金）
～12月13日（月）

実践校：県立B高等学校

対象：1年生 3クラス1展開（24名）

《 科目「保健」 》

（ア）社会生活と健康「環境と食品の保健」

日時：平成16年10月15日（金）
～11月26日（金）

実践校：県立C高等学校

対象：2年生 1クラス（39名）

イ 学習開始前の診断的評価における作業手順

（ア）学習のねらい・評価規準の作成

（イ）学習開始前の評価（アンケート）項目の決定

ねらい・評価規準から項目立てをし、項目ごとに1つずつ質問を設定する。（3段階自己評価形式）

（ウ）アンケートの実施

（エ）結果を集計・分析し、本学習の重点項目を決定

この学習で教師側が重点化する項目は、分析結果（%）を基に今までの取り組みを加味し、授業者が総合的に判断する。

（オ）学習のはじめの段階で確認する項目

アンケートだけでは十分に分析できなかった部分について、確認する。

- (カ) 学習指導等を工夫
 - 重点項目の決定ができたところで、ねらい・内容を確認し、学習指導等の工夫をする。
- (キ) 実施した診断的評価についての振り返り
- ウ 学習のはじめの診断的評価における作業手順
 - (ア) アンケートでは確認できなかった項目を記録
 - (イ) 見取る場面の決定
 - (ウ) 結果及び学習内容・評価規準等の見直し
 - (エ) 実施した診断的評価についての振り返り
- エ 形成的評価における作業手順
 - (ア) 見取る場面と方法、第何時かを確認
 - 具体の評価規準の観点ごとに、評価計画で設定した場面と方法を確認する。
 - (イ) 結果及び見直し内容の記録
 - 1 単位時間の中で、全ての観点を評価できないので、数回にわたり調査、記録する。
 - (ウ) 実施した形成的評価についての振り返り
- オ 総括的評価における作業手順
 - (ア) 具体の評価規準の観点ごとに見取る場面とその方法を評価計画に基づいて確認する。
 - (イ) 学習の達成状況を記録
 - 1 単位時間の中で、全ての観点を評価できないので、評価計画に基づき数回にわたり調査する。(最後の授業で判断したもの、単元を通して評価したものを総合的に判断し記入する)
 - (ウ) 実施した総括的評価についての振り返り
- オ 総合的なまとめと振り返り
 - 授業者の学習評価記録の内容を、評価規準ごとに整理し、成果と課題についてまとめる。

結果（理論研究のまとめ）と考察

1 理論研究のまとめ

(1) 学習評価の基本的な考え方

ア 学習評価は何のために行うのか？

新しい学習指導要領により、「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことが目指されている。これに先立ち、教育課程審議会は「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について（答申）」（平成12年12月）（以下答申）によって、これからの学力観・評価観の改善事項について提言した。答申では、「学習の評価を行うことは公の教育機関である学校の基本的な責務である。」とした上で、評価の機能と役割について学校や教師にとっての評価は、「各学年、各学校段階等の教育目標を実現するための教育実践に役立つもの」と述べている。

学校・教師にとっての評価は、学校・学年・単

元等で立てた教育目標を実現するために、生徒がその目標に照らしてどのように変容しているかを明らかにするために行うものである。

評価とは生徒が何をどのように身に付けているのか、また、どのような点でつまずき、困難を感じているかを知り、それを解決・改善するために教師はどのように指導や支援をしていけばよいのかを明らかにするものであるという考え方が必要である。

生徒にとっての評価は「生徒の一人ひとりのよさや可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つようにするもの」であり、自分は何ができて、何が不十分なのか、次にどのような学習をすれば現在抱えている課題を解決できるのかなどを理解できるとともに、今行っている学習を振り返り、次に行う学習に意欲を持って取り組めるようにするために行われるものである。このように学習評価の大切な役割は自己理解の支援にある。

したがって、学習の評価とは、「児童生徒のための評価であると同時に、学校や教員が進める教育自体の評価である。」（答申）といえる。

イ 何を評価するのか？

何を評価するのか？は生徒にどんな学力を身に付けさせたいかと同義であると考え。したがって、何を評価するのかを明らかにするには、学力の内容を明らかにする必要がある。

答申では学力について、次のように定義付けている。

単なる知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す**基礎的・基本的な内容**（ 1 ）を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの**「生きる力」**（ 2 ）が育まれているかどうかによってとらえる必要がある。

1 基礎的・基本的な内容とは...

学習指導要領に示されている目標・内容として定められているもの全体を指す。

2 「生きる力」とは...

21世紀に求められる力

獲得した知識を保持しているだけでなく、絶えずリフレッシュする力
時々の状況に応じて、考えたり、判断する力
入手した知識や情報を使って新しいものを生み出す創造性

「生きる力」

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心
たくましく生きるための健康や体力

何を評価するかとは、このような**学力（学習指導要領に示されている目標や内容と「生きる力」）**を生徒に**育成できたかどうか**であり、学校がその役割を果たしているかどうかを明らかにすることと言える。（図1）

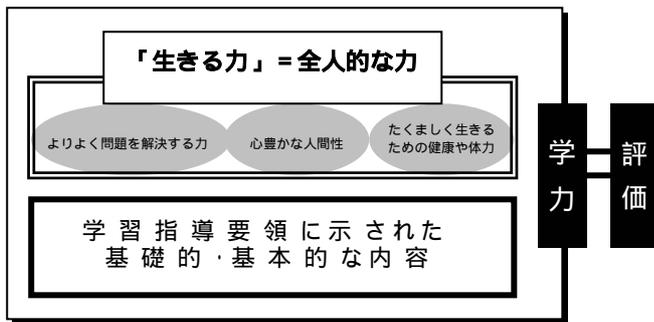


図1 答申における学力の定義と学習評価

ウ 観点別学習状況の評価とは何か？

観点別学習状況の評価(以下観点別評価)とは、1つの教科の成績を1つの数値等で評価する総合判定に対して、1つの教科について複数の観点を設け、観点ごとに評価する方法である。

高等学校の科目「体育」では、「**関心・意欲・態度**」「**思考・判断**」「**運動の技能**」「**知識・理解**」の4つの観点が、科目「保健」では、「**関心・意欲・態度**」「**思考・判断**」「**知識・理解**」の3つの観点が示されている。これらの観点は独立したものではなく、相互に関連しあっているもので、総合的に捉えることも大切である。生徒一人ひとりの学習状況を観点別に捉えることによって、教師も生徒も学力を多面的に捉え、何ができて何が不十分なのかを明らかにし、次の指導や学習に生かしていくことが必要である。各観点の内容を次に示す。

関心・意欲・態度

生徒たちの学習場面での取り組み状況は、誉められたり、自分が教師や友達から認められたりすることで非常に高まる。逆に、叱責されたり、期待にそぐわなかったりすると、やる気を失ったり、投げやりになったりすることがある。このように日々の変動が大きいので、単元全体を対象とし、ある特定の時間のみの評価を代表値としてその単元の評価とすることは避ける必要がある。²⁾

関心・意欲・態度の観点の特徴

一般的に変化しやすく、安定した能力になりにくいので日々の観察の積み重ねが必要。

具体的な内容

興味・関心・学習意欲・学習への取り組み姿勢・態度(協調性、公正、責任感、積極性、安全など)

評価規準の表記例

(~しようとする) 体育で使用

(~しようとしている) 保健で使用

- ~楽しさを味わおうとする
 - ~協力しようとする
 - ~健康・安全に注意しようとする
 - ~課題について調べようとしている
 - ~発言・発表しようとしている
 - ~記録しようとしている
- など

思考・判断

思考力・判断力は、生徒が課題解決的な学習を行う学習過程の中で培われていくものであると考える。そのためには「どうしてだろう」「なぜだろう」「どうやればいいだろう」等の疑問を持てるような学習過程や教材の提示の仕方、発問の仕方を工夫することが必要である。また、教師と生徒、生徒同士が互いに考えを発表し合う場を意図的・計画的に計画し、学習に組み込んでいくことが重要である。そして、「何についてどのように考えさせるか」「どの程度の考えをまとめさせるのか」「どのような思考を求めるのか」等のねらいを明確にして指導し、それに応じた評価規準を設定することが必要である³⁾と考える。

思考・判断の観点の特徴

課題解決的な学習を行う中で培われていく。習慣化すると定着し、比較的安定した能力となる。

判断力は見取る規準が必要となる。

具体的な内容

学習状況の把握、課題の発見と設定、課題解決への計画性・方法の工夫、学び方の習得と実践、自己評価や相互評価での判断力

評価規準の表記例(～している)

- ~見つけている
- ~選んでいる
- ~まとめている
- ~比べている
- ~整理している
- など

運動の技能

従来、この観点の指導や評価は、「指導者が与えるもの」といった要素が強かったように思える。これからは、教員の指導の下、生徒自身が自分のものとして習得し、経験した中から身に付けた「技能」、課題解決的な学び方やものの考え方から体得した「技能」が求められる。

この評価を適切に行うためには、学習目標(単元、1単位時間)を分析し、評価項目を抽出して、評価規準を明確にすることが必要である。評価規準は単元ごとに、1単位時間ごとに設定する必要がある。その上で習得すべき技能の内容を明確にし、いくつかの視点で見えていくことが大切である。

また、継続的、多面的に評価することも大切である。「技能」の観点から見える能力は、学習を積み重ねることによって次第に習得されていくものである。したがって、指導方法と一体化して、どのように評価するのかを具体化していくことが大切である。この観点の評価の見取りは、主として観察法によると考えられる。前述したように評価規準に照らして行うことになるが、評価する教師の推測や感情に左右されないことが肝要である。生徒一人ひとりの学習状況の事実に着目して、補助簿等に記録をとることによって、習熟度を捉えていくことが大切である。また、教師の観察だけではなく、生徒自身による自

己評価や相互評価を取り入れることによって、評価の正確度をより高めていくことも必要である。⁴⁾

技能の観点の特徴

一度習得すると安定した能力として定着する。科目によっては、単元の後期に最も高い能力を発揮する。

具体的な内容

合理的な運動技能の習得、運動の補助やゲームの時の動き、体力を高める運動の体得と実践

評価規準の表記例（～できる）

- ～することができる
 - ～動作ができる
 - ～高めたりすることができる
- など

知識・理解

これまでは、ペーパーテストを中心に「知識の量」を評価することが一般的であった。しかし、知識を大量に身に付けても「生きて働く知識」にはなりにくいと考えられる。

答申では、『知識・理解については、単に覚えこむものと捉えるのではなく、児童生徒が自ら体験して実感を持って学ぶことにより、学習や生活に生きて働くものと捉える必要がある。』と解説している。

従来からのペーパーテスト中心の評価観から脱却し、口頭試問を行ったり、覚えた知識を使って表現させたり、討論をさせたりするなど、知識を生きて働く形にして表現する学習活動を多く取り入れ、様々な角度から評価できるようにすることが大切であると考えられる。

知識・理解の観点の特徴

生徒が自ら体験して実感を持って学ぶことにより、学習や生活に生きて働く。

具体的な内容

運動の特性の理解、運動技能の知識や理解、健康の保持増進の知識、安全に関する知識、運動のルール、ゲームの進め方

評価規準の表記例（～している）

- ～言っている
 - ～書き出している
 - ～具体例を挙げている
 - ～説明している
- など

エ 目標に準拠した評価とは何か？

目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）とは、学習指導要領に示す目標に照らして生徒の学習の実現状況を見る評価のことである。

生徒一人ひとりの学習展開に応じて、あらかじめ教育目標を分析し、設定した評価規準に照らして、その目標がどの程度実現されたかを評価するものである。評価規準を事前に設定し、日常の授

業の中で直ちにフィードバックして指導や支援に役立てることが重要である。目標に準拠した評価は生徒の学習の実現状況を他者と比較するものではない。

小学校や中学校では今回の学習指導要領から、指導要録の評定・観点別評価とともに集団に準拠した評価から、目標に準拠した評価に改められた。その理由を答申では次のように説明している。

自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力などの評価を重視する必要から、児童生徒一人ひとりの進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことができる。

学習指導要領に示す内容を確実に習得したかどうかの評価を一層徹底する必要がある。

上級の学校段階の教育との円滑な接続に資する。

児童生徒の学習の習熟の程度に応じた指導などの、個に応じた指導を一層重視する。

少子化等により、学年・学級の児童生徒数が減少してきており、評価の客観性や信頼性を確保する。

高等学校は、従来から目標に準拠した評価（絶対評価）が行われており、今回の改訂でも踏襲されている。

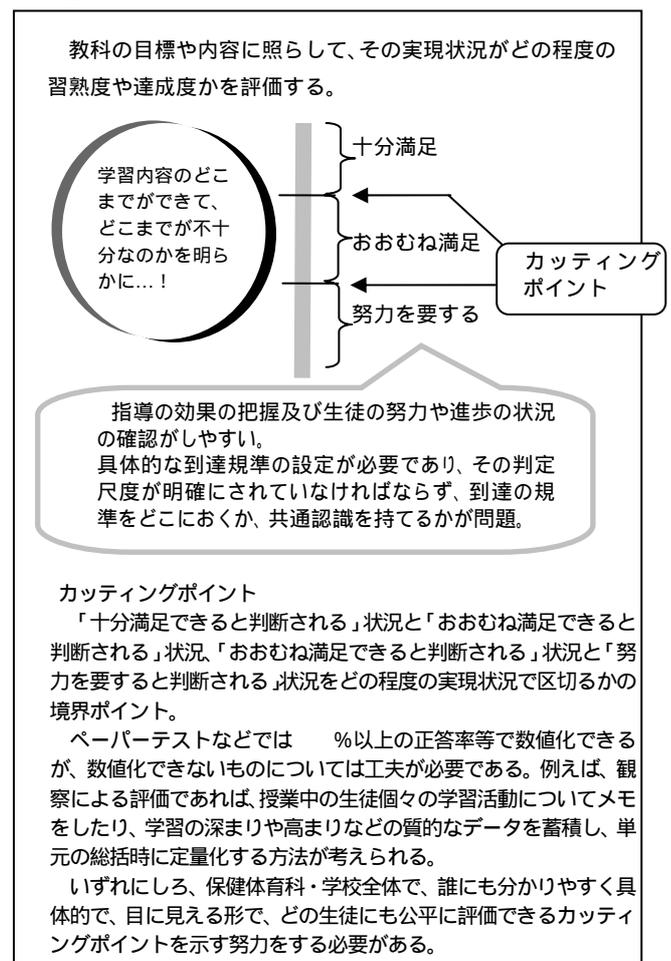


図2 目標に準拠した評価（絶対評価）⁵⁾

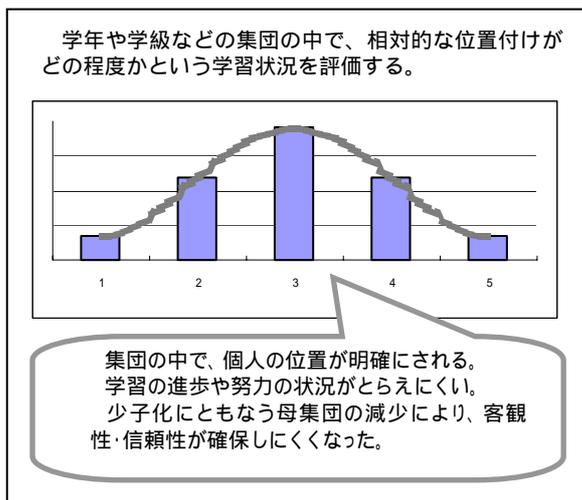


図3 集団に準拠した評価（相対評価）⁵⁾

一方、集団に準拠した評価（相対評価）は、ある時点での習熟度や達成度を個人間で比較したり、集団の中で位置付けを見たりする評価である。この集団に準拠した評価（相対評価）が生徒にとって全く不必要であるとはいえない。集団内での自分の相対的位置付けを知ることは、自分の適性を知る手がかりになり、これにより自分の目標を定めて学習に取り組む動機付けにもなる。将来の進路を考える際の情報として活用することも考えられる。集団に準拠した評価も必要に応じて行なうことが必要である。

これに対して、個人内評価とは、生徒一人ひとりの状態を他者と比較することではなく、個人のよさや可能性を評価することである。個人内の差異に注目した横断的解釈と個人内の時系列的変化に着目した縦断的解釈がある。例えば、「国語より体育のほうが得意である」とか、「去年の50m走の記録より今年は0.5秒も速くなった」などである。（図4）

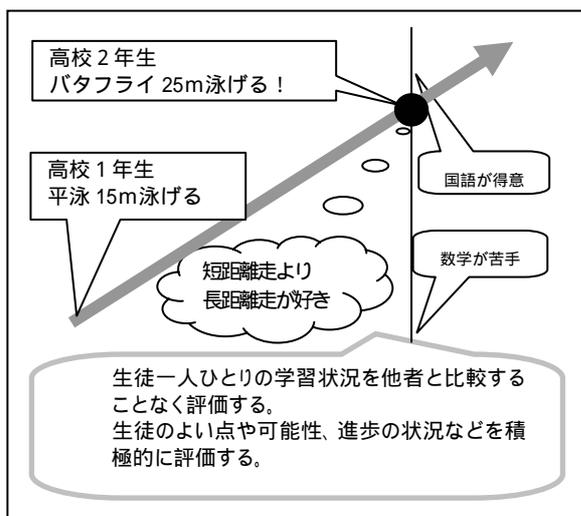


図4 個人内評価

答申においては、「**自ら学ぶ意欲や問題解決能力、個性の伸長などに資するよう、個人内評価（児童**

生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを評価）を工夫することも大切である。」としている。

個人内評価は、生徒一人ひとりを多面的な視点で捉えることが必要であるため、教師自身も多様な見方を持つことが必要である。そのためには、生徒の学習プロセスにおける学習活動、製作物、考えたこと、自己評価、相互評価、作文等をファイルし、学習中はもとより、単元や学期、学年終了時に全体を振り返り、生徒の学びを捉え、進歩や可能性を見取る評価の工夫が大切である。

新しい学習指導要領の下では、「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」がより一層重視され、「個人内評価」の工夫が求められている。

「集団に準拠した評価」と併せたこの3つの評価の特色を生かして、生徒のよさや可能性を伸ばす評価のあり方を教師一人ひとりが考え、学校として共通理解を図った上で、教育活動を行っていくことが重要である。

オ 学習評価はいつ行うのか？

学習評価は、「診断的評価」と「形成的評価」によって進められる。診断的評価によって、これから始めようとする学習に関する能力や感想・経験等を生徒・教師ともに理解し、連続的な形成的評価によって生徒の変容等を確認し、必要に応じて学習指導の方向性を修正する。

つまり、どんな課題を持って学習したらよいかを診断的評価によって知り、その学習が予想（期待）通りにうまくいっているかどうかを判断するために形成的評価を行う。¹⁾

また、単元の終わりや学期末等に学習指導の一部あるいは全過程について、当初の目標に照らして、どの程度学習成果が得られたかどうかを把握するために「総括的評価」を行う。

これらの学習評価で得られた資料を学習の成果として成績に表したり（通知表）、指導要録に記載する評価に生かす配慮が必要である。

診断的評価

授業の開始時に生徒がこれから学習する領域・科目に関して、どの程度の学力（観点別に）があるかを把握したり、授業の展開にあたって生徒の学習上の難点を発見したりすることを目的に実施する評価のことをいう。

- 〈教師〉 単元目標等を設定するために、生徒が学習するのに必要な能力や技能をどの程度身に付けているか知るために診断する。
単元に対する準備状況を把握し、目標を具体化し、実態に応じた指導過程を設定するために診断する。
- 〈生徒〉 自分が現在持ち合わせている能力や技能を理解し、学習の出発点を確認する。
これから学習する単元等の見通しを立てるための情報を得る。

形成的評価

授業の過程で生徒の学習内容の習得状況（観点別に何ができて、何ができていないか）を明らかにして、ねらいが達成できる授業を実施するために行う評価をいう。

- 【教師】 生徒が単元の、どこまで達成しているか、どこに困難を感じているのか等を明らかにする。
習得されていない技能や内容は何なのかを明らかにする。（何をどのようにすればよいのか情報を得る）
- 【生徒】 自分の学習の仕方が予想（期待）通りうまくいっているか、修正・改善を加える。

総合的評価

学習の終了時（単元・学期・学年）に学習のねらいに照らして、指導の経過や結果のまとめを行うものである。つまり生徒の学習の達成度を確認し、その結果が満足できない場合は、その問題点が生じた理由を追求して、指導法の工夫・改善を行い、次の学習に役立てるための評価をいう。

- 【教師】 生徒が単元目標等をどの程度達成したかを確認し、次の指導に役立てる。また、達成度が十分でない場合は、補充指導を行う。
指導計画及び学年や単元目標等にそって、望ましい結果が得られたかどうかを確認し、目標・計画・方法の改善に役立てる。
次の単元等の準備状況の確認に役立てる。
- 【生徒】 生徒自身が単元等の全体を振り返り、その目標に照らしての学習の実現状況を把握し、その後の学習に役立てる。

形成的評価や総合的評価は生徒をランク付けするためのものではなく、「教師の指導及び生徒の学習過程の改善、修正」、また、「生徒の学習への動機付けや学びの実態の把握」のために用いる。

カ どんな方法で評価するのか？

全人的な力である「生きる力」の育成を目指す新しい学習指導要領の下では、児童生徒の学習状況を、単一の時期や方法によって評価するのではなく、(中略)児童生徒の成長の状況を総合的に評価することが一層重要であると「答申」は示している。

生徒の学習状況を単元の終了時に限らず、単元の途中や1時間の授業中に多面的に見取ることが一層求められている。

評価の方法としては、ペーパーテストやスキルテスト以外に観察・面接・質問・レポート・学習ノート・発言などがあるが、それぞれの特徴を考慮し、どんな方法で評価することが生徒の成長や教師の授業の振り返りに役立つかを理解する必要がある。(表1、表2を参照)

例えば、教師の観察は生徒の学習活動を評価するという最も基本的な方法だが、先入観に影響されないことが必要である。特に「思考・判断」や「関心・意欲・態度」などの見えにくい部分を評価していくためには、生徒が外に表していない部分を読み取っていかなくてはならない。

そのためには、観察する観点を明確にし、具体的な目標とそれに予想される行動をあらかじめ明確にしておけば、授業の中での見取りも容易になる。

また、学習ノートや感想文などの記述内容も生徒の思考過程を知るために有効な評価方法である。どのような記述から生徒の学習状況が読み取れるか、学習過程のどの時期に評価を行えばよいか等を工夫する必要がある。
(学習評価計画作成の手順編参照)

参考：「ポートフォリオ・アセスメント」

ポートフォリオは、もともと芸術家が自分の業績を示すために、長期間にわたり本人が自分の代表作品を紙バサミなどに集録したもの。
教育の分野では、生徒の学習における達成を証明するために生徒の成果を集めたものを指す。
ポートフォリオ・アセスメントとは、このポートフォリオを用いて生徒の進歩の状況の評価をすることであり、生徒自身も責任ある一員として自分の学習を評価する役割を果たす。
集録には目的に応じて、日誌・学習ノート・ゲーム記録カード・感想文・テスト等々、日常の学習にかかわるものを全て含む。それらから生徒自身に各段階における成果を検討させ、学習の過程や総括時において、目標の実現状況を振り返らせることが必要である。

辰野千尋著：「学習評価基本ハンドブック」図書文化 2002.2

表1 観点別学習状況の評価と評価方法の適合関係

評価法	使い方
観察法	生徒の観察記録を資料として評価する。毎日あるいは毎月、一定の日時で観察する時間見本法と観察すべき行動の種類をあらかじめ規定しておく行動見本法(チェックリスト)がある。
質問紙法	あらかじめ調査する項目を印刷しておき、生徒に記入させる方法。「ハイ」「イエ」のどちらかに付けさせるもの、文章や語句等で答えさせるものなどがある。簡単、具体的に記入しやすいように配慮する。
口頭試験	教師が口頭で質問し、生徒も口頭で答える。あらかじめ、発問内容を整理しておくとうい。
実技試験	実地技術や運動技能などの水準を調べる方法。専門家の主観的評価によることが多い。数人の評価で妥当性を高める。
パフォーマンスアセスメント	「何を知っているか」ではなくパフォーマンス(作業や動作)により「何ができるか」を見るアセスメントをいう。
教師作成学力テスト	教師が自分で問題を作成して行う検査。全国的な基準に照らして優劣を知ることができないが、教師が教えた内容について学習の結果を測定することができる。
標準学力テスト	一定の標準集団から一定の標準問題と標準方法と標準成績を作り、それによって個人を検査し、その成績を標準に照らし合わせて学力を診断する。個人の成績を他人と比較して区別する集団準拠検査と目標に達したかどうかをみる目標準拠検査がある。

辰野千尋：「学習評価ハンドブック」, 図書文化, 2002

表2 評価方法の種類とポイント

	関心・意欲 態度	思考 判断	技能・表現		知識 理解
			(1)	(2)	
観察法 (行動・発言)					
作品法 (ノート・プリント・作品)					
評定法					
自己評価法・相互評価法 (自己評価表・自己記述)					
テスト法 (ペーパーテスト)					

評定法は数量的に測定できないものに対して価値判断を行い、仮に量的

もしくは段階的に表す方法
 技能・表現の(1)は読み・書き・計算・資料活用等、(2)は作品・表現・実験・運動技能など
 ...最も適した方法 ...やや適した方法 ...あまり適さない方法
 北尾倫彦・鈴木良隆：「観点別学習状況の評価の評価基準表」図書文化 1994

キ 評価の際、注意する点は何か？

「目標に準拠した評価を重視する」これからの評価活動においては、客観性と信頼性を確保していくことが重要である。評価者によって大きな差が生じたり、どの事実をもってそういえるのかが明確でなかったりすると、生徒にも保護者にも納得を得られず、場合によっては説明を求められる。評価規準を設け、評価の観点によって方法を工夫する必要がある。

同じように見える出来ばえも、学習のねらいや評価の観点によって評価が異なることもある。学習目標に照らして、実現していると認められる具体的な状況を教師間で共通理解をして、授業に臨むことが大切である。

また、教科・学年・単元・1単位時間等のねらいと評価規準をあらかじめ、生徒や保護者に提示し、学習や評価に関して、共通理解を得ることも重要である。

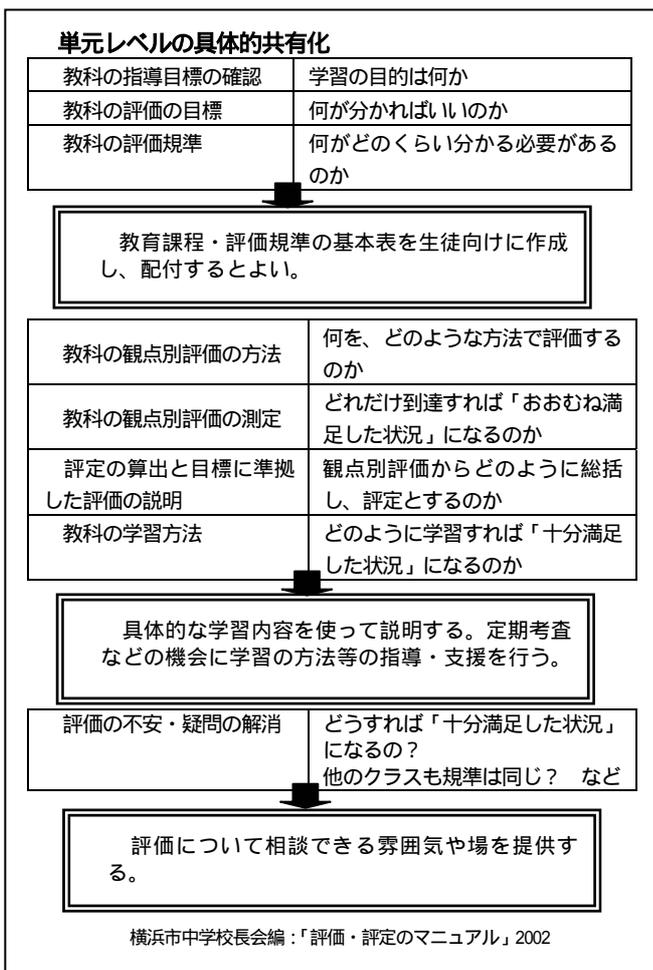


図5 生徒と教師の評価の共有化（説明責任）

数値化された尺度がなく、評価者が規準に照らして解釈し判断する評価は、なるべく主観を排する努力をする必要があるが、客観的な評価を心掛けていても陥りやすい傾向があると従来より指摘されている。例えば、何か目立つ良い(悪い)特徴を持っている生徒を実態よりも良く(悪く)判断してしまうといった「ハロー効果」や感じの良い好意の持てる生徒の判断が甘くなったり、あまり好きではない生徒の判断が厳しくなりがちといった、教師が生徒に抱く感情によって判断が左右されてしまう「寛容効果」などである。⁶⁾

ク 評価を組み入れた年間授業計画(シラバス)の作成方法は？

シラバスとは各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことである。シラバスには、教科、科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載される。

シラバスは、生徒にとって履修科目を選択する際の重要な資料となり、生徒を主体的な学びに導く。シラバスに評価規準を記載することにより、教員も生徒も教科・科目等で扱う学習内容について、評価の視点となる評価規準をしっかりと意識することができる。そのことにより目標に向けた学習が実現しやすくなり、生徒がより意欲をもって学習に取り組むことになる。

シラバスは詳細な授業計画として生徒が利用するだけでなく、教員相互の授業内容の調整、さらには家庭や地域への情報提示方法の一つとして、開かれた学校づくりに活用できる。⁷⁾

シラバス作成のポイント

内容の工夫 生徒・保護者及び教員が学習計画や展開等の見通しを持ちやすくする。

視覚面の工夫 絵や図表を用いて、読みやすく、視覚的に捉えやすくする。

学習目標を明らかにする 生徒のモチベーションが高まり、持続できるようにする。

計画変更の際の対応を示す 実施過程での変更もあることに触れ、変更への対応の仕方が分かるようにする。

評価・改善の資料とする 授業の評価・改善の重要な資料として、学校教育の新たな方向性を示すことができるようにする。

シラバスに記載すべき内容(保健体育科)

保健体育科の構成等の全体像 学年や系・系列に応じた設置科目の一覧、科目の設置学年と単位数等の記載。

保健体育科の学習到達目標 学習の終了後に到達すべき学力等についての記載。

保健体育科の指導計画 学習のねらい、学習内容、学習形態、進捗等に関する記載。

保健体育科の評価の観点・方法 評価の観点や評価規準等の具体的な内容についての記載。

シラバスに盛り込みたい内容

学校目標 教科の目標 年間計画、配列(学習内容・時数) 学習のねらい 評価の観点・方法

ゆる指導と評価の一体化)が重要である。評価は、学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の過程における評価の工夫を一層進めることが大切である。また、生徒にとって評価は、自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義がある。自ら学び自ら考える力などの「生きる力」は、日々の教育活動の積み重ねによって生徒に育まれていくものである。そのためには、日常の指導の中で、評価が生徒の学習の改善に生かされることが重要である。

また、目標に準拠した評価においては、生徒の学習の到達度を適切に評価し、その評価を指導に生かすことが重要である。そのため評価活動を評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって、指導の質を高め、よりよい授業を実現することが重要である。

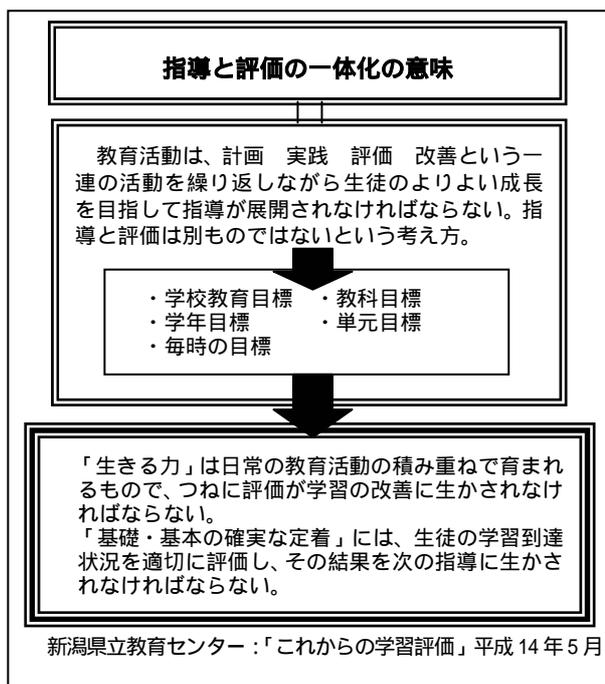


図7 指導と評価の一体化の考え方

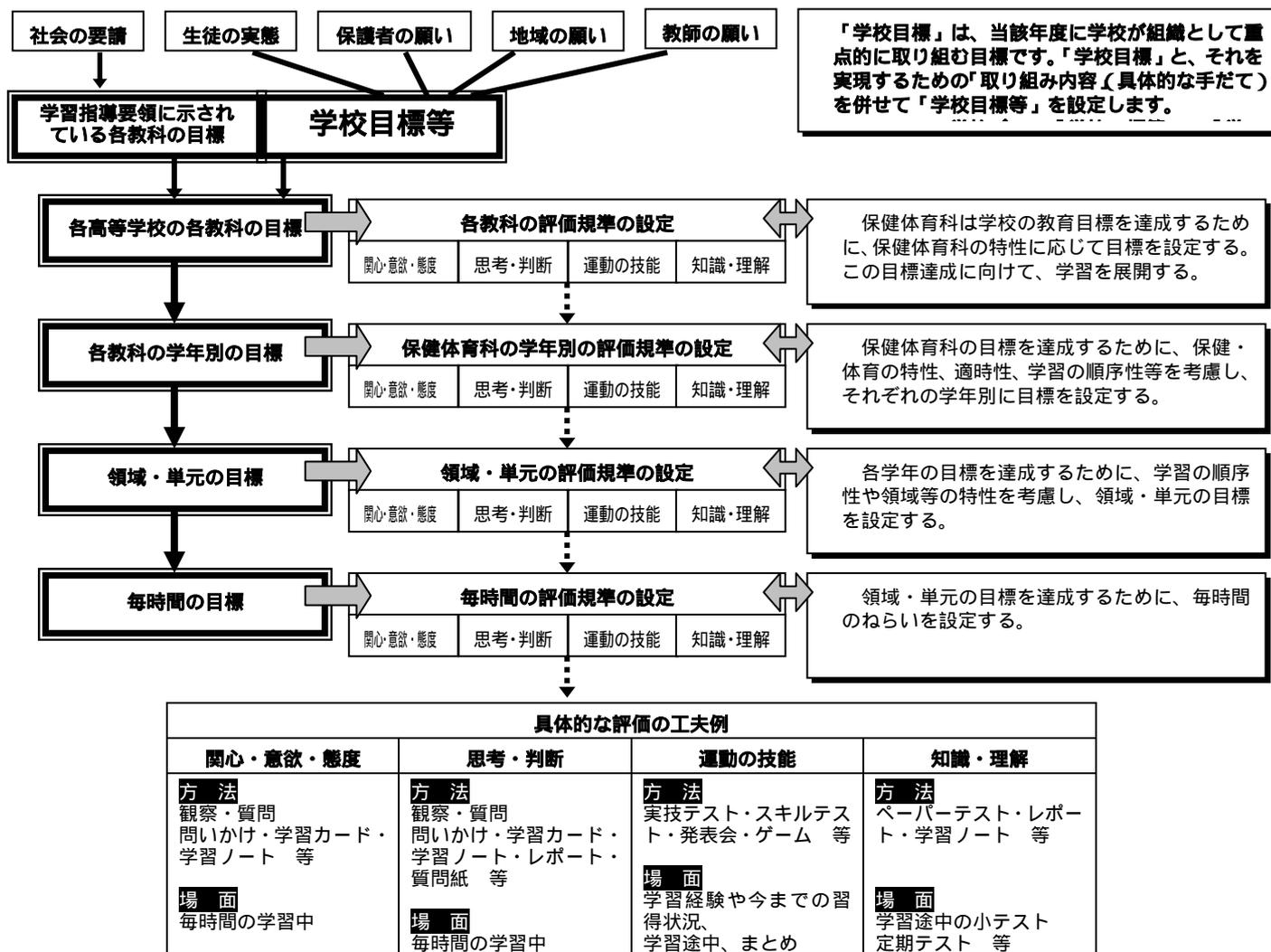


図8 評価規準作成の手順

(2) 評価計画作成の手順

ア 保健体育科の目標作成はどう進めていくのか？

(ア) 各学校では、学校教育目標を達成するために各教科の特性に応じて目標が設定され、その目標達成に向けた教育活動が展開される。保健体育科が学校目標等を受け、心と体を一体として捉えることを重視しながら、保健体育科が学校目標等のどの部分を担っていくかを吟味して教科の目標を設定する。そして、その目標を達成できるような学習内容を組み立て、その実現状況を評価していく必要がある。

(イ) 保健体育科の目標を設定する際に、学校の状況や生徒の状況等を把握するためのアンケート調査や身体状況調査などを行い、学習指導要領に示されている目標を踏まえ、各学校における保健体育科の目標作成に反映させていくことが大切である。

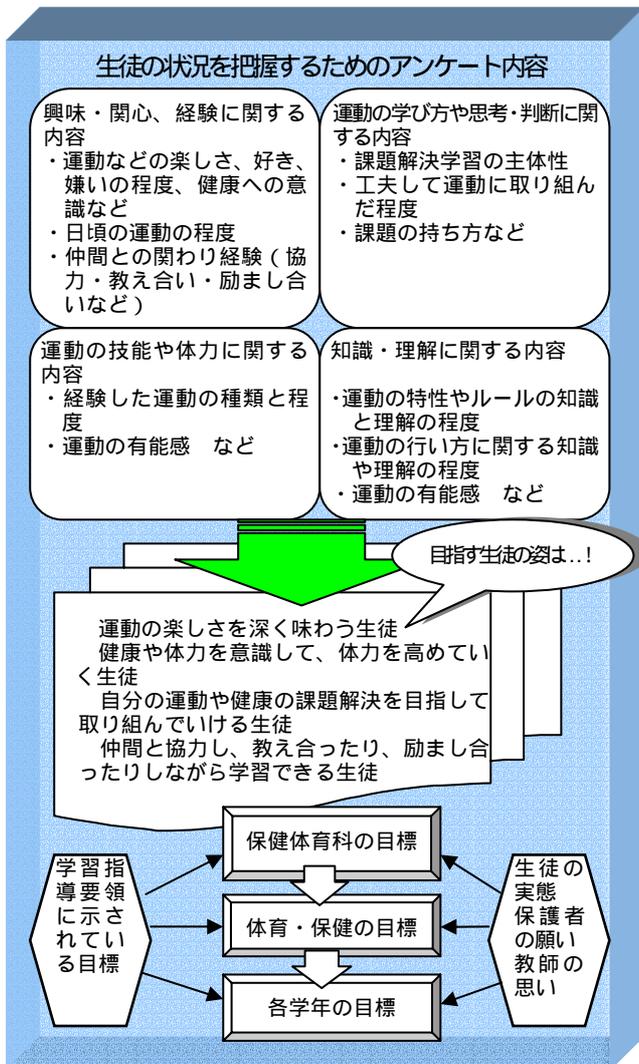
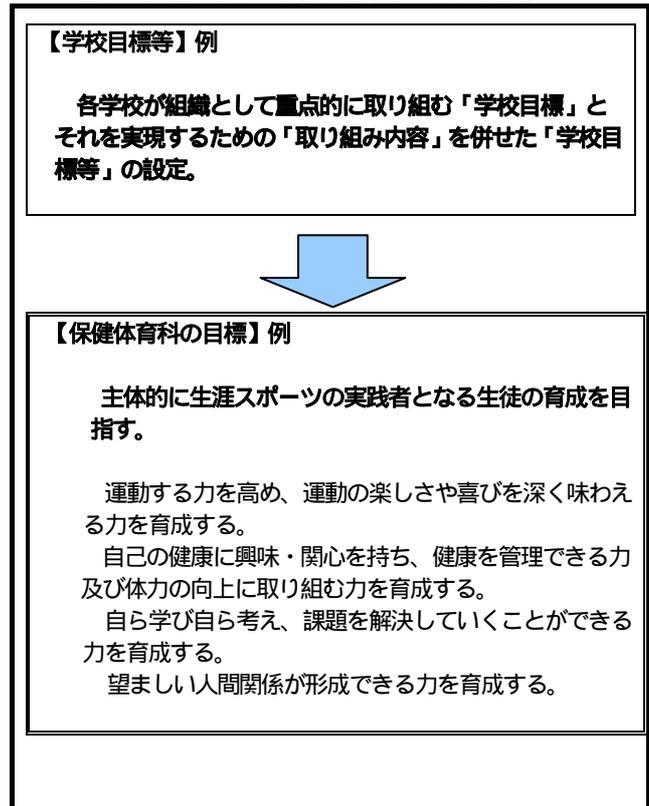


図9 目標作成の手順例

表3 学校教育目標から保健体育科の目標を導く例



イ 保健体育科の評価規準を作成していく手順は？

設定した保健体育科の目標に対して指導したことが、生徒にとって効果的なものであったかどうか、目標は目指す生徒像を反映してのものであったか等を見取るために、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」を基に、各学校で設定した保健体育科の目標と生徒の状況との結び付きを持たせ、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4観点で目標に準拠した評価規準を作成し、保健体育科が果たさなければならない教育の実現を目指して観点別に評価していくことが大切である。

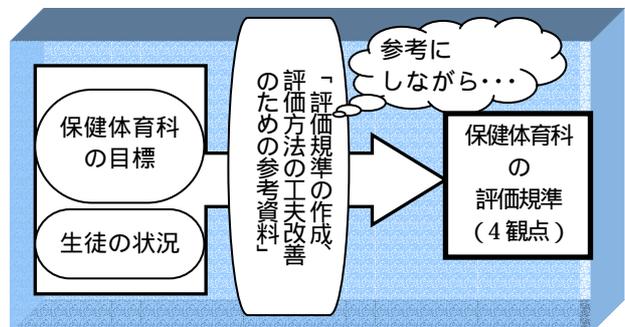


図10 保健体育科の目標から評価規準を作成していくポイント

ウ 目標と評価規準をどう結び付けるか？

各学校で設定した保健体育科の目標と生徒の状況を結び付け、次に示すように4観点で評価規準を作成していく。

表4 保健体育科の目標と評価の観点

【保健体育科の目標】例
主体的に生涯スポーツの実践者となる生徒の育成を目指す。
 運動する力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わえる力を育成する。
 自己の健康に興味・関心を持ち、健康を管理できる力及び体力の向上に取り組む力を育成する。
 自ら学び自ら考え、課題を解決していくことができる力を育成する。
 望ましい人間関係が形成できる力を育成する。

<評価の観点及びその趣旨>

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行いや計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、身に付けている。

(国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」より)

表5 目標と評価規準の結びつき例

目標	評価の観点
運動の楽しさや喜びを深く味わえる力の育成	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。 (関心・意欲・態度)
課題を解決していくことができる力の育成	・運動の楽しさや喜びを味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 (運動の技能)
自己の健康を管理できる力の育成	・課題の解決を目指して、運動の合理的な行いや計画的な活動の仕方を考え、工夫している。 (思考・判断)
	・個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、身に付けている。 (知識・理解)

エ 学年ごとの体育・保健の目標作成はどう進めるか

- (ア) 保健体育科の目標を受けて、学習指導要領に示されている目標、体育・保健の科目の特性、各学年で取り扱う内容等に照らし合わせて、**3年間の系統性と発展性**を考慮して体育・保健の目標と評価規準を作成することが大切である。
- (イ) 体育・保健の目標を設定する際に、学校の状況や生徒の状況等を把握するためのアンケート調査や身体状況調査などを行い、**3年間を見通した**学年ごとの体育・保健の目標を設定していくことが大切である。(P9の目標作成の手順図

参照)

表6 保健体育科の目標から学年別の体育・保健の目標を導く例

【保健体育科の目標】例
 主体的に生涯スポーツの実践者となる生徒の育成を目指す。
 運動する力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わえる力を育成する。
 自己の健康に興味・関心を持ち、健康を管理できる力及び体力の向上に取り組む力を育成する。
 自ら学び自ら考え、課題を解決していくことができる力を育成する。
 望ましい人間関係が形成できる力を育成する。

【1学年の目標】例
 基礎的な運動技能を身に付け、運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。
 自己の健康に興味・関心を持ち、体力の高め方を身に付けながら、運動できるようにする。
 学び方を身に付け、適切な意思決定、行動選択の重要性と活動の仕方を工夫して運動できるようにする。
 自分やグループの課題解決を目指して、教え合い、励まし合いながら運動できるようにする。

【2学年の目標】例
 身に付けた技能を高めながら、運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。
 健康を意識し、自分に合った体力の高め方を身に付けながら、運動できるようにする。
 自分やグループの課題解決を目指し、健康について科学的に思考したり、活動の仕方を工夫して、運動できるようにする。
 自分の役割を意識し、仲間と教え合い、励まし合いながら運動できるようにする。

【3学年の目標】例
 自分が選択した運動の特性に応じた楽しさや喜びを深く味わいながら運動できるようにする。
 身に付けた高め方で、自分の体力や生活に応じて運動できるようにする。
 運動の特性に応じた課題解決の仕方を工夫し、計画的に運動できるようにする。
 身に付けた力を発揮しながら、仲間と協力し、教え合い励まし合いながら運動できるようにする。

オ 体育・保健の評価規準の作成手順(各学年)

評価規準作成の手順に沿って立案した各学年ごとの体育・保健の目標に基づいて、体育の評価規準は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点で、保健の評価規準は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3つの観点で、目標に準拠した評価規準を作成していく。そして、それらの観点それぞれについても目標の達成状況を評価していくことが大切である。(図8 評価規準作成の手順参照)

カ 各学年の目標と評価規準をどう結び付けるか?

各学校で設定した保健体育科の目標と生徒の状況を結び付け、次に示すように評価規準を作成して

いく。

表7 目標と評価規準の結びつき例

【1学年の目標】例
 基礎的な運動技能を身に付け、運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。
 自分の健康に興味・関心を持ち、体力の高め方を身に付けながら運動できるようにする。
 学び方を身に付け、適切な意思決定、行動選択の重要性と活動の仕方を工夫して運動できるようにする。
 自分やグループの課題解決を目指して、教え合い、励まし合いながら運動できるようにする。

各科目の評価の観点及びその趣旨

科目名	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
体育	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動の技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事象を理解し、知識を身に付けている。
保健	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について課題の解決を目指して考え、判断している。	/	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事象を理解し、知識を身に付けている。

(国立教育政策研究所教育課程部研究センター「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」より)

表8 目標と評価規準の結びつき例

目標	評価の観点
自分の健康に興味関心を保ち……	・(保健) 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
適切な意思決定、行動選択の重要性について理解する。	・(保健) …適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。(思考・判断)
課題解決を目指して、	・(保健) 健康・安全の意義を理解するとともに…課題の解決に役立つ基礎的な事象を理解し、知識を身に付けている。(知識・理解) ・(保健) …心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して…(思考・判断)
学び方を身に付け…	・(体育) …能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。(思考・判断)
…教え合い、励まし合いながら…	・(体育) …公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに…(関心・意欲・態度)
体力の高め方を身に付けながら、…	・(体育) …体力の高め方に関する基礎的な事象を理解し知識を身に付けている。(知識・理解)

キ 目標の振り返りはどのように行うのか？

学校における教育活動は、計画(P L A N) 実践(D O) 評価(S E E)という一連の活動を伴って展開される。したがって、学習指導の過程における具体的な評価を工夫し、目標に対しての生徒の到達度を適切に評価し、評価の結果によってその後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価することが求められる。

設定した目標の振り返りにおいても、それぞれの目標に照らして行っていく指導の中で、生徒にどのような成果を身に付けさせることができたか、学習の組み立てはどうであったか等を把握するために、形成的授業評価として、学期ごとや単元ごとに観察からの状況をまとめたり、アンケート調査等を行う。また、3年間の総括的な授業評価として、学期ごとや年度ごとに観察からの状況をまとめたり、アンケート調査等を行う。そしてそれらを多面的、多角的に分析して振り返り、その結果を目標設定や学習指導計画に反映させ、生徒への支援のあり方や学習の組み立て等の改善を図っていくことが大切である。このような一連の評価活動のサイクルを示すと図11のようになる。

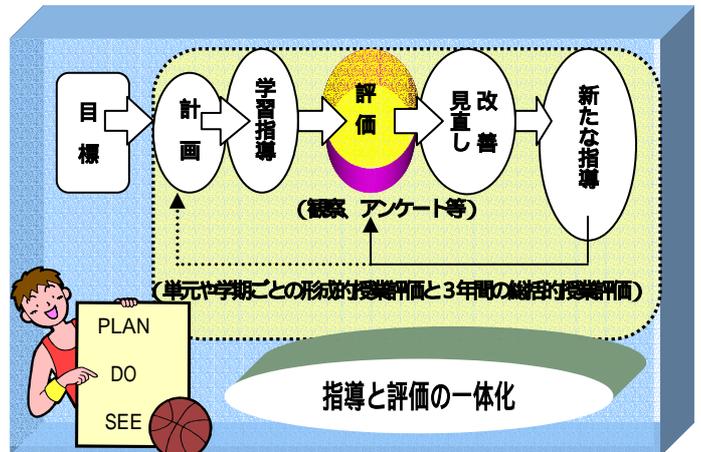


図11 評価活動のサイクル

(3) 体育について

ア 学年の目標から領域・単元の目標を設定するには？

各学年の目標を設定したら、その目標を実現させるために、学年別の目標を具体化し領域・単元の目標を設定する。その際、確認すべきことは図 10 のようになる。

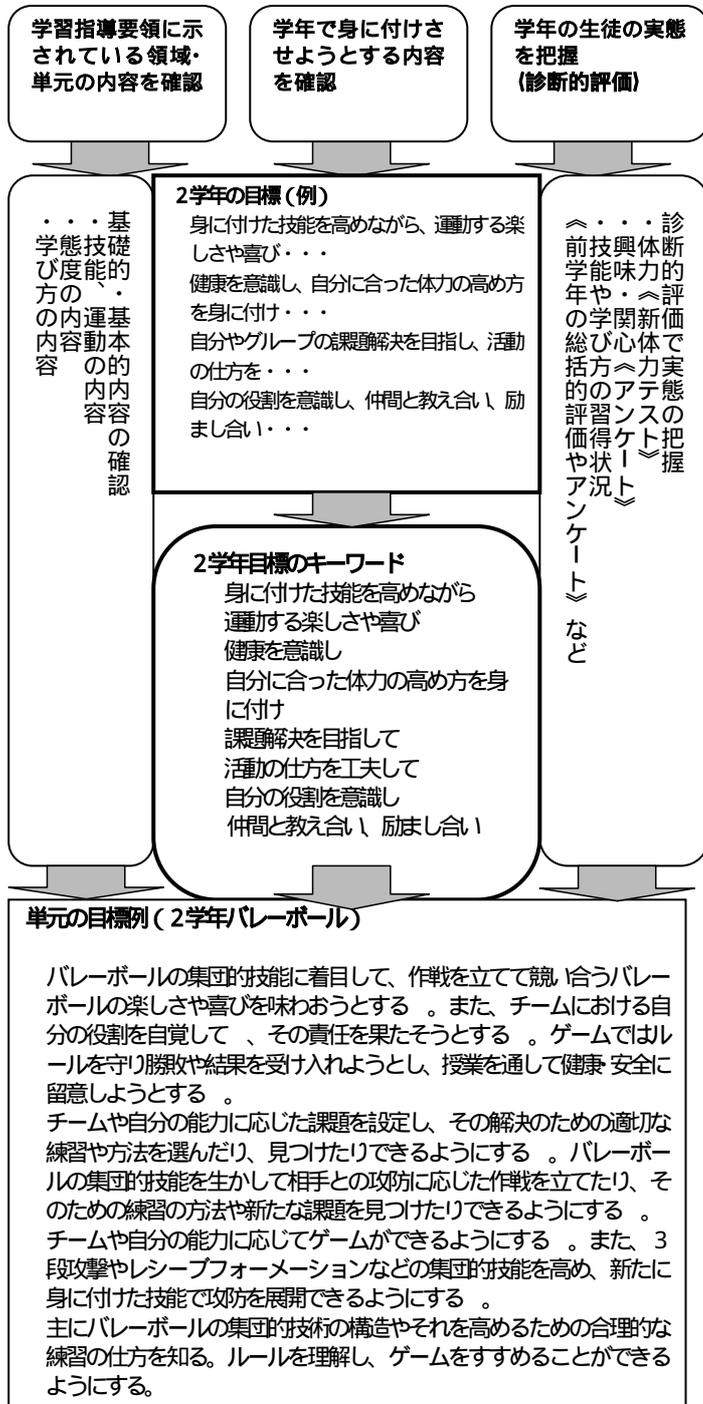


図 12 単元目標設定の手順

イ 単元の評価規準を作成していくためには？

領域の評価規準(国立教育政策研究所の「内容のまとめりごとの評価規準」を参考)をもとに、単元

の目標を学習活動に当てはめ、単元の評価規準を設定し、次のことに注意する必要がある。

目標に対する実現状況を見るために、目標を具体的に表現する。

指導にフィードバックできるように学習の組み立てを考慮する。

国立教育政策研究所の評価規準例を参考にする。

表9 評価規準の作成

<p>単元の目標例(2学年バレーボール) バレーボールの集団的スキルに着目して・・・ チームや自分の能力に応じた課題を設定・・・ チームや自分の能力に応じてゲームが・・・ 主に、バレーボールの集団的技術の構造・・・</p>											
<p>↓</p>											
<p>国立教育政策研究所 「内容のまとめりごとの評価規準」(球技)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">関心・意欲・態度</th> <th style="width: 25%;">思考・判断</th> <th style="width: 25%;">運動の技能</th> <th style="width: 25%;">知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>球技の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるようチームにおける・・・</td> <td>チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して・・・</td> <td>チームの課題や自分の能力に応じて、選択した球技種目の特性に応じた・・・</td> <td>選択した球技種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための・・・</td> </tr> </tbody> </table>				関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	球技の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるようチームにおける・・・	チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して・・・	チームの課題や自分の能力に応じて、選択した球技種目の特性に応じた・・・	選択した球技種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための・・・
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解								
球技の特性に関心を持ち、楽しさや喜びを味わえるようチームにおける・・・	チームや自分の能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して・・・	チームの課題や自分の能力に応じて、選択した球技種目の特性に応じた・・・	選択した球技種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための・・・								
<p>↓</p>											
<p>単元の評価規準例(バレーボール)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">運動への関心・意欲・態度 《目標のより》</th> <th style="width: 25%;">運動についての思考・判断 《目標のより》</th> <th style="width: 25%;">運動の技能 《目標のより》</th> <th style="width: 25%;">運動についての知識・理解 《目標のより》</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 ・練習やゲームで、チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったりしようとする。 ・練習やゲームで審判の判定や指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・練習やゲームの場所の安全を確認し、危険なプレーをしないなど健康・安全に留意しようとする。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定している。 ・チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んだり、見つけたりしている。 ・技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立てている。 ・チームや自分の課題達成をとりえ、練習やゲームの仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自分の能力に応じて、選択した種目の特性に応じた技能を身に付け、ゲームをすることができる。 ・身に付けた個人的スキルを高めたり、新たに身に付けた技能で攻防を展開したりしてゲームをすることができる。 ・技能の段階に応じて、相手との攻防に合った作戦で練習やゲームをすることができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ・技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方について、具体例を挙げている。 ・ルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。 </td> </tr> </tbody> </table>				運動への関心・意欲・態度 《目標のより》	運動についての思考・判断 《目標のより》	運動の技能 《目標のより》	運動についての知識・理解 《目標のより》	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 ・練習やゲームで、チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったりしようとする。 ・練習やゲームで審判の判定や指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・練習やゲームの場所の安全を確認し、危険なプレーをしないなど健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定している。 ・チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んだり、見つけたりしている。 ・技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立てている。 ・チームや自分の課題達成をとりえ、練習やゲームの仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自分の能力に応じて、選択した種目の特性に応じた技能を身に付け、ゲームをすることができる。 ・身に付けた個人的スキルを高めたり、新たに身に付けた技能で攻防を展開したりしてゲームをすることができる。 ・技能の段階に応じて、相手との攻防に合った作戦で練習やゲームをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ・技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方について、具体例を挙げている。 ・ルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。
運動への関心・意欲・態度 《目標のより》	運動についての思考・判断 《目標のより》	運動の技能 《目標のより》	運動についての知識・理解 《目標のより》								
<ul style="list-style-type: none"> ・技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさや喜びを味わおうとする。 ・練習やゲームで、チームにおける自分の役割を果たし、協力して教え合ったりしようとする。 ・練習やゲームで審判の判定や指示に従い、ルールを守り、勝敗や結果を受け入れようとする。 ・練習やゲームの場所の安全を確認し、危険なプレーをしないなど健康・安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームや自分の能力に応じた適切な課題を設定している。 ・チームや自分の課題を解決するための適切な練習方法などを選んだり、見つけたりしている。 ・技能の段階に応じて相手との攻防に合った作戦を立てている。 ・チームや自分の課題達成をとりえ、練習やゲームの仕方を見直したり、新しい課題を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題や自分の能力に応じて、選択した種目の特性に応じた技能を身に付け、ゲームをすることができる。 ・身に付けた個人的スキルを高めたり、新たに身に付けた技能で攻防を展開したりしてゲームをすることができる。 ・技能の段階に応じて、相手との攻防に合った作戦で練習やゲームをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの特性に応じた集団的技術や個人的技術の構造について、言ったり、書き出したりしている。 ・技能を高めるための合理的な練習の仕方、練習計画の立て方について、具体例を挙げている。 ・ルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。 								
<p>↓</p>											
<p style="text-align: center;">評価の信頼性を高めるためにさらに具体化する。</p>											

ウ 具体的評価規準を作成していくためには？

評価の信頼性を高めるために、単元の評価規準を学習のねらい、生徒の実態等に合わせて、さらに具体化していくことが必要であり、次のことに注意す

の必要がある。

評価場面を意識しながら、評価規準をより具体的にしていく。

評価に追われることのないよう、学びの姿のポイントを表現する。

どのような状況が「十分満足できる状況」なのかをはっきりさせる。

「どんな方法で」評価していくのか、計画を立てることが必要であり、次のことに注意する必要がある。

授業のねらいに合わせて評価場面を設定し、指導と評価の視点を絞る。

学習の進行途中で実現状況を確認し指導の見直し、改善に役立てる。(形成的評価)

発表会や記録会、アンケート等により目標実現状況を把握する。(総括的評価)

表10 具体的評価規準の作成

《単元の評価規準例(バレーボール)》

関心・意欲・態度 《目標のより》	思考・判断 《目標のより》	運動の技能 《目標のより》	知識・理解 《目標のより》
・技能の段階に応じて... ・練習やゲームでは... ・練習やゲームでは審判の... ・練習やゲームの場所の...	・チームや自分の能力... ・チームや自分の課題... ・技能の段階に応じて... ・チームや自分の課題...	・自分の能力や課題... ・身に付けた個人的... ・技能の段階に応じて...	・バレーボールの特性に... ・技能を高めるための合理的な... ・ルール、審判法及び...



《学習活動における具体的評価規準例(球技)「Bおおむね満足できると判断される状況」》

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
集団的技能に着目して、段階に応じた作戦を立てて勝敗を競い合うバレーボールの楽しさを味わおうとする。 練習やゲームを通して、教え合ったり励まし合ったりしようとする。 審判の判定や指示に従おうとする。 準備運動に目を向け安全に配慮するとともに、安全上の約束事に注意し、練習やゲームに必要なマナーを身に付けようとする。	試しのゲームや練習場面からチームや自分の課題を見つけている。 発見した課題を解決するための方法を、練習やゲームの中から選んでいる。 技能の段階に応じ、チームにあった組織的な攻守(フォーメーション)の実現に向けた練習法や作戦を、提示したものの中から選んでいる。 学習をもとに自分やチームの課題を捉え、練習の見直しやゲームでの新たな作戦を提示したものの中から選んでいる。	パスとレシーブではボールをコントロールすることができる。 サーブで、コースをねらい相手コートに入れることができる。 スパイクやブロックの動作ができる。 練習やゲームで直上トス、オーブントスを使った攻撃フォーメーションの動きができる。 練習やゲームで相手のサーブやスパイクに合わせた守備フォーメーションの動きができる。	バレーボールはネットをはさみ攻防を楽しむ特性があることについて、言ったり、書き出したりしている。 バレーボールの技能を高める練習法について、具体例を挙げている。 バレーボールのルール、審判法について、言ったり、書き出したりしている。 ラリーポイント制、タッチネット、ローテーションなどの基本的なルールについて、言ったり、書き出したりしている。

- 《十分満足できると判断される状況例》
「自ら進んで」「認め合い」「仲間と働きかたて」等の表現
- 《十分満足できると判断される状況例》
「より適切な修正や改善」等の表現
- 《十分満足できると判断される状況例》
「タイミングよく」「的確な動き」等の表現
- 《十分満足できると判断される状況例》
「具体例を挙げて」「説明している」「等の表現

単元計画に評価をする場面を組み込み、評価計画を作成する。

エ 評価計画を作成していくためには？

評価の妥当性を高めるために、「いつ」「何を」

《学習活動における具体的評価規準例(バレーボール)「おおむね満足できると判断される」状況(B)》

関心・意欲・態度 《目標のより》	思考・判断 《目標のより》	運動の技能 《目標のより》	知識・理解 《目標のより》
バレーボールの攻撃の～練習やゲームでは、～ゲームでは、審判の～活動場所の安全を～	自分やチームの課題～解決するための練習方法～相手との攻防にあつた～課題の達成状況を～	パスとレシーブ～サーブで、スパイクや～決めた攻撃～	バレーボールは～攻撃や防御の仕方～ルール、審判法～

《単元の評価規準》

時数	ねらい・学習活動	評価の計画と判断する手がかり及び方法			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
1	《初めーション》 学習のねらいや道すじ、具体的な進め方を理解する。 学習上の約束と用具の準備やマナー・安全への配慮について理解する。 学習ノートの使い方と活用方法について理解する。				バレーボールは～【学習カード】
2 5	ねらい1 「今できる技能を使って、他のチームと対戦してゲームを楽しむ」 試しのゲーム ゲームの振り返り(ゲーム記録表・発問カード) 課題解決に向けた練習及び各種のドリルゲーム チームの課題解決に向けたゲーム	活動場所の安全を～【観察・学習カード】	自分やチームの～【観察・学習カード】 解決するための	パスとレシーブ～【観察・記録表】	評価の方法 観察・学習カード・問いかけなど
6 11	ねらい2 「チームに応じた攻撃や防御を考え、集団的技能を身に付けながら、互いに協力してゲームを楽しむ」	ゲームでは審判～【観察学習カード】	課題の達成状況	決めた攻撃～	ルールや～

評価活動を位置付けるため、学習内容が分かるように記述する。

それぞれの具体的評価規準をもとに、生徒の学習行動に合わせて、判断する手がかりを作成する。
学習内容に応じて、評価を精選し、位置付ける。
客観性を高めるために、多様な評価方法を活用する。

図13 具体的評価規準の作成

オ 評価方法にはどのようなものがあるか？

評価の客観性を高めるために、どの観点も複数の評価方法を用いて評価が適正であるか比較することが必要であり、次のことに注意する必要がある。

自己の学習状況の確認や次の学習の意欲をもつためにも自己評価を大切にする。

評価をすることが目的ではなく、どのように評価を生かしていくのかを考える。

評価資料を蓄積しておくために、教師用補助簿を観点別に作成しておく。

(ア) 学習カードによる評価例

[学習カードの自己評価・相互評価による評価方法例]

評価項目			
準備や片付けを行おうとした(協力して=A)			
審判や記録係等に取り組もうとした(進んで=A)			
練習やゲームを行おうとした(意欲的に=A)			
仲間に声をかけて取り組もうとした(アドバイスしたり=A)			

やABCで自己評価

ここでは例として十分満足できる状況をA(), おおむね満足できる状況をB(), 努力を要する状況をC()とする。

[スモールステップカードによる自己(相互)評価例]

オーバーハンドパス	できそう だ	できる	10回以上 できる
自分で投げ上げボールを相手がパスできる			
2~3m離れたパスを続けることができる			
ケンケンでパスを続けることができる			
「直上パスから相手がパス」を続けることができる			

内容を絞り込む指示、内容の読み取り方、コメントの返し方をあらかじめはっきりさせておく。

[学習カードの記述例]

反省課題	私たちのチームはサーブレシーブで失点することが多かった。で、サーブレシーブとカバーリングを課題とします。(分析と課題) 練習方法は3人でサーブレシーブ隊形をつくり、声をかけ合い、自分がレシーブしない時もボールの方向に体を向け、カバーできるようにする練習をします。(課題解決方法)
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

「努力を要する状況」にある生徒に対してはこまめに声かけやアドバイスをします。

(イ) 観察による評価例

[観察による評価方法例]

評価項目 生徒氏名	関心・意欲・態度					
	A) いつも大きな声でアドバイスするなど、大変意欲的にゲームに取り組もうとする。C) 取り組みなかつたりする。			A) 自ら進んで協力して準備、片付け、記録係などを行う。C) 準備、片付け、記録係などを行わなかつたりする。		
A	2/15	2/24				
C			2/27	2/21		
A				2/15		
C	2/21					
A						
C						

「努力を要する状況」にある生徒に対してはこまめに声かけやアドバイスをします。
A) またはC) と評価した日付を記入する。

(ウ) ペーパーテストによる評価例

[ペーパーテストの問題場面テストによる評価例]

Aチームの特徴

Aチームはセッターが上手でいろいろな方向にトスを上げることができるが、みんな身長が低いので、アタックが相手のブロックに阻まれてしまう。

【問】上の特徴からAチームにふさわしい攻撃方法とその練習法を考えなさい。

()

それぞれの評価資料は、単元末にまとめ、次の学習や指導に活用する。

カ 評価資料はどのようにまとめるのか？

単元終了時には、教師用補助簿にそれぞれの観点別の評価をまとめ、次の学習の目標や計画の見直す。その際の留意点は以下の通りである。

個人カードや一覧表等を工夫し、集計しやすい教師用補助簿を作成する。

評価を総括する方法を決めておく。例えば「パターン化」「数量化」等がある。

必要に応じて、生徒・保護者に説明し、次の学習の課題を考える手立てを提供する。

パターン化: 観点内にA(B・C)が 個以上ある場合は、総合評価をA(B・C)とする。

数量化: Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、 点(%)以上なら総合評価をA(B・C)とする。

(ア) 個人評価集計カードを使用した例

2年 組 番 氏 名		評価資料					総合評価
観点	2年バレーボール おおむね満足できる状況	自己評価	相互評価	ノート記述	観察記録	観察テスト	
関心 意欲 態度	集団活動に楽しさを味わおうとする。	A	A			A	A
	練習やゲーム、励まし合ったりしようとする。	A	A			A	A
	審判の判定や指示に従おうとする。	B	A			A	A
	準備運動に..マナーを身に付けようとする。	A	A	B			A
							A
思考 判断	試しのゲームや..課題を見つけている。	A		B	B		B
	発見した課題を..の中から選んでいる。			A	A		A
	チームにあった..作戦を選んでいる。			B	B		B

(イ) 評価集計一覧表を使用した例

2年バレーボール		関心・意欲・態度					知識・理解					総合評価	
観点	2年バレーボール おおむね満足できる状況	集団活動に楽しさを味わおうとする。	練習やゲーム、励まし合ったりしようとする。	審判の判定や指示に従おうとする。	準備運動に..マナーを身に付けようとする。	自己評価	相互評価	ノート記述	観察記録	観察テスト	観察テスト		
1	君	A	B	A	B	B	A	A	A	A	A	A	B
2	さん	B	B	B	C	B	C	B	B	B	A	B	A

評価を学習活動や指導等に生かすために、生徒や教師自身にフィードバックする。

(4) 保健について

ア 保健学習に求められている内容は？

(ア) 保健学習のねらい

「ヘルスプロモーションの考え方を生かし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、生活行動や環境を改善していく資質や能力の基礎を培い、実践力を育成する。」

人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセスのこと。健康的な生活を実践する能力を十分与えた上で、さらに環境面からもその実践を容易にするようなサポートを行うという発想。1986年のWHO オタワ会議で提唱。

(イ) 内容を構成する上でのポイント

健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
健康的なライフスタイルを確立する。
深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。

心の健康の保持増進に関する理解を図る。

(ウ) 学習指導要領改訂のポイント

健康を保持増進するためには、単なる知識・理解にとどまらず、個人の適切な「意志決定」「行動選択」が重要であることについて取り扱う。

生活習慣病の予防やエイズ及び腸管出血性大腸菌感染症など、感染症の新たな課題についても取り扱うとともに薬物乱用防止に関する内容を充実させる。

心の健康については、自己の可能性を最大限に生かして自己を高めていくことの大切さや欲求、ストレスの対処を重視する。

(エ) 保健学習の内容と具体的事項

(1) 現代社会と健康	「ア 健康の考え方」「イ 健康の保持増進と疾病の予防」「ウ 精神の健康」「エ 交通安全」「オ 応急手当」
(2) 生涯を通じる健康	「ア 生涯の各段階における健康」「イ 保健・医療制度と地域保健・医療機関の活用」
(3) 社会生活と健康	「ア 環境と健康」「イ 環境と食品の保健」「ウ 労働と健康」

(オ) 学習方法の工夫

指導に当たっては、心肺蘇生法、ロールプレイング(役割演技法)などの実習やディスカッション、必要な実験を取り入れる、課題学習を積極的に導入する、地域や学校の実情に応じて養護教諭や学校栄養職員など専門性を有する教職員等の参加・協力を推進するなどの多様な指導方法の工夫を行うことにより、学習効果を高める。また、それぞれの学習活動に応じた評価の工夫をする。

イ 単元の評価規準の設定の手順は？

- 1 保健の目標を確認
- 2 保健の評価の観点及びその趣旨を確認
- 3 学習指導要領に示されている内容を確認
- 4 内容のまとまりごとの評価規準と単元の評価規準を設定

学習指導要領の内容:(1)現代社会と健康 - ウ 精神の健康の例

現代社会と健康	我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が適切な生活行動を選択し実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解できるようにする。
精神の健康	人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があること。また、精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。

これらの「評価の観点及びその趣旨」と「学習指導要領の内容」を踏まえて内容のまとまりごと及び単元ごとの指導目標を設定する。その際、生徒にどのような資質や能力を身に付けさせようとしているのかを明確にすることが重要。各学校・学年の教育目標、生徒の実態、地域の実情等を考慮することも必要である。

そして、それらの内容のまとまりごと及び単元の目標について、評価の観点ごとに具体化した評価規準を

設定する。

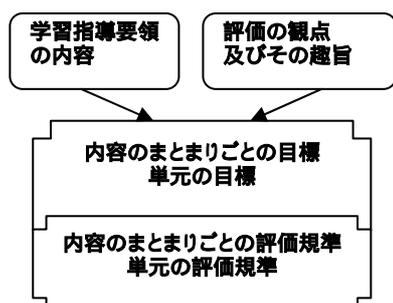


図 14 単元の評価規準の設定の手順

表 11 内容のまとめりごとの評価規準と単元の評価規準の例

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準	健康の保持増進に必要な事柄について、仲間と協力して資料を集めたり意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や経験をもとにした見方や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断している。	健康の保持増進に必要な事柄について、健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。
単元の評価規準	「精神の健康」人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や仲間との意見交換、資料などをもとに、課題について調べ、記録したり、発表したりしようとしている。	「精神の健康」人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、資料や仲間との意見をもとに、課題を見付けたり、解決方法をまとめたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。	「精神の健康」人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。

(参考資料: 評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料)

教師や他の生徒同士で観察できるものとそうでないものを想定し、双方を意識して複数設定する。それらを指導方法や学習形態も勘案して、選択したり組み合わせたりして評価する。

エ 各観点の具体的評価規準の表現のポイントは？

関心・意欲・態度

多面的に評価できるようにする。

〈見える姿・・・観察等〉

「聞こうとしている」、「発言・発表しようとする」、「調べようとする」等の具体的な姿を表現する。

〈内面に関すること・・・ワークシート等の活用〉

内面にかかわる見えないものを評価する規準は、ワークシート等を活用するとともに、できるだけ生徒の姿を思い浮かべて表現する。

思考・判断

適切な意志決定・行動選択ができるような思考・判断は、「課題を見付けている」「予測・予想している」「分析している」「選んでいる」等の視点を重視し、生徒の姿(行動や活動)に置き換える。課題を解決している状況、その思考経過をワークシート等で見ることもできる。

知識・理解

知っている、分かっているレベルを、学習した事柄を自分の生活や行動に適用したり、事柄の意義や事柄同士の関係や構造を「言ったり、書き出したりしている」「具体例を挙げている」「説明している」など、表現を工夫したりする。具体例は次のとおりである。

具体的な事例に即して、傷害の要因が挙げられる。
健康により生活の仕方が説明できる。
喫煙、飲酒、薬物乱用の健康の影響や心理社会的な要因などが挙げられる。
心の健康に必要なものが挙げられる。
病気の原因と予防の仕方を関連させて説明できる。

ウ 具体的評価規準の設定のポイントは？

目標の実現状況を判断するために観点別評価規準の具体例を設定する。設定するときは、「できるだけ行動目標的な表現にする」「生徒の学習活動がイメージできる表現にする」の2点に留意する。

「関心・意欲・態度」や「思考・判断」については、その場面を教師自らが学習活動の中に仕組み、そこで現れる具体の姿を評価する。

具体例としては「～している」(自分の意見を発表しようとしている)「～できる」(適切な対処の必要性について説明できる)など、「おおむね満足できる状況」の生徒の学習の姿(行動、活動等)を、行動目標的に示す。

オ 学習活動における具体的評価規準を作成するには？

内容のまとめりごと及び単元の評価規準を作成したら、さらに学習活動における具体的評価規準を作成し、実現状況をより具体的に捉えられるようにする。

まず、学習指導要領の目標と内容に則して、各観点ごとに「おおむね満足できると判断される状況」を設定し、項目ごとに「十分満足できると判断される状況」を設定する。

表12 (1)「現代社会と健康」ウ「精神の健康」の例

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
おおむね満足できると判断される状況	人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、課題や指示に注目して、調べようとしている。 適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、教科書や与えられた資料をもとに、調べた内容を記録しようとしている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や調べたことをもとに、自分の意見を発表しようとしている。	適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、精神の健康の保持増進について、自分の経験や資料から問題点や課題を見付けている。 人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、資料や仲間の意見などをもとに課題の解決方法をまとめている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の生活に当てはめたり、事例をもとにしたりして、適切な行動を選んでいる。	適応機制には様々な種類があことについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。 精神と身体には密接な関連があることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出した入りしている。 精神の健康を保持増進するには自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。
十分満足できると判断される状況	人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、課題や指示に注目して、気付いたことや考えたことをメモしながら、調べようとしている。 適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、与えられた資料だけでなく、集めた資料をもとに、記録しようとしている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の考えに納得できる仲間の考えを取り入れ、発表しようとしている。	適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があることについて、精神の健康の保持増進について、仲間の意見や資料などをもとに、整理・分析し、問題点や課題を見付けている。 人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、資料をもとに予想し、課題の解決方法を自らの経験などを参考にまとめている。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の生活に当てはめたり、事例をもとにしたりして、適切な行動を見付けている。	適応機制には様々な種類があことについて、具体的に説明したり、内容の要点を具体例を挙げて説明したりしている。 精神と身体には密接な関連があることについて、具体例を挙げて説明している。 精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、具体例を挙げて説明している。 精神の健康を保持増進するには自己実現への努力が必要であることについて、具体例を挙げて説明している。

力 努力を要すると評価した生徒への指導の手だては？

努力を要すると評価した生徒には、その生徒の状況に即して、より具体的な資料を提示したり、学習の進め方について助言したり、生徒と共に具体的な生活場面を想起したりして「おおむね満足できる状況」になるように支援する、つまり個に応じた指導と支援を充実させることが必要である。各観点における「努力を要する状況」とそれに対する「手だて」の具体例は次のとおりである。

〈関心・意欲・態度〉

生徒の状況 課題に対する意識が高まらず、自分で調べようとしない。

自分の生活を振り返らせる。課題となる場面を具体的に提示する。考えるヒントを与える。

〈思考・判断〉

生徒の状況 問題点や課題が選択できず、予想したり、整理したりできない。

別の具体的な資料を提示する。仲間の意見を参考にさせる。

〈知識・理解〉

生徒の状況 学習したことの用語を挙げられる程度に止まっている。

各班の発表資料の見直し・確認をすることによって再度整理させ、生徒の理解の程度に応じて補足説明をする。

キ 評価の実施者、方法等は？

「いつ」、「だれが」、「どのような方法で」評価するかを決定し、学習指導計画に位置付ける。

評価の結果が次の学習に生かされるようにする。

ワークシートなどの記録、自己評価や相互評価なども取り入れる。

表13 指導と評価の計画例：(1)「現代社会と健康、ウ「精神の健康」

時	ねらいと学習活動	学習活動における具体的評価規準
1	<p>「適応機制」 【ねらい】 行動の根源が欲求にあることに気付き、精神機能が主として大脳によって統一的・調和的に営まれていることや人間には様々な欲求があることを理解できるようにする。</p> <p>【学習活動】 人間の行動と欲求について話し合う。 人間の欲求と大脳の働きについて調べる。 現在の自分が「～したい」という事柄を挙げ、発表し合う。 自分と仲間の欲求を整理し、分類する。 発表し合い、学習のまとめをする。</p>	<p>【 】・・・評価の観点 《 》・・・評価の方法</p> <p>【関心・意欲・態度】《観察》 人間の欲求には様々な種類があること、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、課題や指示に注目して、調べようとしている。(毎時)</p> <p>【知識・理解】《ワークシート》 適応機制には様々な種類があることについて、具体例を挙げたり、言ったり、書き出したりしている。(2時)</p> <p>【思考・判断】《ワークシート・テスト》 人間の欲求には様々な種類があることや、精神の健康を保持増進するにはストレスへの適切な対処が必要であることについて、資料や仲間の意見などをもとに課題の解決方法をまとめている。(2時)</p>
2	<p>【ねらい】 欲求不満から生じる不安や悩みがあるときに現われる適応機制には、様々な種類があることを理解し、日常生活では様々な適応機制を用いていることに気付かせる。</p> <p>【学習活動】 欲求不満から生じる不安や悩みがあるときに現われる適応機制について話し合う。 教科書や資料をもとに、適応機制の種類とその内容について調べる。 自分の行動傾向について、分類された適応機制に当てはめて分析し、自分の行動の問題点を考える。 グループで話し合い、学習のまとめをする。</p>	<p>【思考・判断】 【知識・理解】 《定期テスト》 単元終了後に実施する定期テストにおいて、評価規準に照らした内容を問う問題を作成し実施する。</p>

「満足できる」「十分満足できる」状況を示すキーワードやキーセンテンスをあらかじめ決めておく、評価のぶれ幅が少なくなるとともに、より効率的になると考えられる。

【関心・意欲・態度】《観察》
毎時間行うよう設定してあるが、これは特に目立つ生徒を整理する程度とし、全員を毎時間評価しようとするものではない。例えば、積極的な学習活動がうかがえる生徒や、逆に促しても学習活動に参加しない生徒を記録しておき、授業後や単元終了後に評価する。

ク 評価の記録はどうするのか？

評価（学習）カード、補助簿等を準備し、記録しながら評価する。

評価の結果を次の学習に生かすために、学習の経過や結果が分かる記録の蓄積を重視する。

【学習カードの具体例】

自己評価表		・・・はい、・・・どちらでもない、・・・いいえ					
項目	時	1	2	3	4	5	6
今日の学習が楽しかったですか。(関心・意欲・態度)							
自分から進んで学習できましたか。(関心・意欲・態度)							
「あっ、わかった」「ああ、そうか」と思ったことがありますか。(知識・理解)							
自分の意見を述べてきましたか。(思考・判断)							
学習を振り返って一言	先生から						
1							
2							

【ワークシートの具体例】

保健学習プリント-1 年 組 番 氏名

(1) Q1 「私は_____である」という文章の下線部に思いつく言葉を記入しなさい。
 私は_____である 私は_____である
 私は_____である 私は_____である
 私は_____である 私は_____である

(2) Q2 「私にとって大切な人は_____である」という文章の下線部に思いつく人を例にしたがって記入しなさい。
 (例) 私 _____ (あなた) _____

(3) Q3 「あなたは何歳くらいまで生きられると思いますか、_____歳
 人間にとっての「健康」を考えるキーワードは何か。
 _____ _____ _____
 (キーワード1) (キーワード2) (キーワード3)
 (中田各)

(6) 今日の授業を振り返っての感想 また日頃の自分の生活を振り返り改善点などを「～する」「～したい」といった文で記入してみましょう。

(参考資料：「意志決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習のプラン」平成13年日本学校保健会)

【補助簿の具体例】

生徒	評価の観点	十分満足	おおむね満足	努力を要する	単元ごとの観点の評価	単元ごとの得点
		第1・2時	第3・4時	第5・6時		
1	ア 関・意・態				A	7
	イ 思・判				B	
	ウ 知・理				B	
2	ア 関・意・態				B	6
	イ 思・判				B	
	ウ 知・理				B	

2 授業実践の結果と考察

ここでは、はじめに各実践校の生徒の実態及び学習指導計画(学習の道すじ、学習評価計画、使用した主な学習資料)を示し、その後、協力者(授業者)が記入した授業実践の記録票を基に、診断的評価、形成的評価、総括的評価のそれぞれの評価時期で「評価規準の設定」「評価の場面」「評価の方法」の視点について適切であったかどうか分析・考察した。

記録票の記入方法についてはアンケート結果及び現在までの授業の取り組み状況等の現状分析から総合的に判断し、本学習の重点とした項目に「=最重要、=重点」を記入してもらった。さらに、その結果を基に学習指導について工夫した内容を記入し、評価終了時に前述の視点で評価が有効に機能したかどうかについて、「=非常に適切であった =おおむね適切であった =適切でない部分があった =評価できなかった」を記入してもらった。またC「努力を要すると判断される生徒」(C)への手立ての振り返りについても記述してもらった。

保健の診断的評価については、今回は授業前に「保健の授業に関するアンケート」を実施し、1学期の評価の総括と併せて生徒の実態把握を行ったため、この方法は使用しなかった。

なお、このアンケートは、平成14年度県立体育センター長期研修員佐々木が作成したものを参考に、今回の単元に合った内容に作成し直したものである。

<科目「体育」の結果と考察>

(1) 体づくり運動(A高校)

ア 学習評価の計画(単元計画)の立案

(ア) 生徒の運動・体力・健康に関する現状分析

a 運動(体育の授業)への取り組み方

(a) 得意、好きな種目に関しては積極的に取り組むことができるが、不得意な種目には消極的になってしまうことがある。

(b) 自分達でグループづくりを行うことが困難で、仲の良い友達とは一緒に活動できるが、あまり接点のない友達と一緒に活動を行うことが難しい。

(c) 発展的な目標を立てることや、課題の設定については経験不足の面が見られる。

b 体力に関して(H15年度新体力テスト結果)

(a) 体格面は、全国平均と殆ど同様である。

(b) 上体起こし、握力、ハンドボール投げは、全国平均に近い。

(c) 長座体前屈、50m走、反復横とび、立ち幅とび、持久走は全国平均を下回っている。

c 健康に関して(平成15年度アンケート結果から)

(a) 一日の運動実施時間が30分未満の生徒が56%いることから、運動を行う習慣がない生徒が多いと思われる。

(b) 朝食を毎日食べている生徒は54%で、それらの生徒は、毎日規則正しく食事を摂っている。栄養のバランスを考えている生徒は、50%である。

(c) 体力に自信が「ある」と答えた生徒は7%である。逆に「ない」と感じている生徒は、52%いる。

(d) 1日の自宅での勉強時間は1時間未満の生徒は81%である。

d A高校の生徒の運動・体力・健康について(まとめ)

運動について、男子は活発に運動できるが、目標を設定して計画的に学習したり、自らの課題の解決を目指して学習したりすることについて課題が見受けられる。女子は運動に対して積極的になれない生徒が多い。男女共通しての課題は、リーダー的な行動がとれる生徒が少ないことが挙げられる。また友達との関わり合いについて、課題が感じられる生徒が多く、グループ編成によって運動の意欲や、運動量が変わってしまうことがある。

体力については、新体力テストの各種目の平均値を全国平均と比較すると、握力以外の種目は下回っており、特に、反復横とび・立ち幅跳び・50m走、持久走長座体前屈が顕著に下回っている。また、女子の投力不足も目立っている。

健康については、授業以外の運動・スポーツは殆ど行っていない状況である。自分の健康や体力状況について把握し、向上させようと考えている生徒は少ないと思われる。

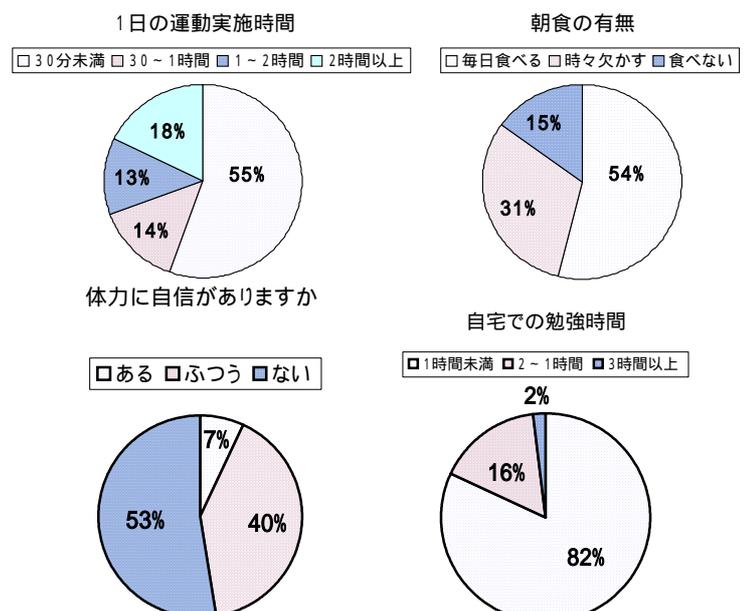


図15 生活実態調査アンケート結果(平成15年度)

(イ) 学習のねらい(評価規準)の設定

国立教育政策研究所より提示されている「体づくり運動」の評価規準に則り、「体力を高める運動」の評価規準を設定した。(表14)

表14 体力を高める運動の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元の評価規準	体力を高める運動に対する関心や意欲を高めるとともに、楽しさや心地よさを味わえるよう互いに協力して進んで運動をしようとする。また、健康や安全に留意して運動をしようとする。	自分の体力や生活に応じて体力の高め方を工夫している。	自分の体力や生活に応じて、体力を合理的に高めるための運動ができる。	体力を高める運動の意義や適切な行い方、心身への効果を理解するとともに、ねらいに即した体力を高める運動の組み立て方を理解し、知識を身につけている。
学習活動における具体の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 体力を高める運動の必要性を意識して、取り組もうとしている。 仲間と協力したり、励まし合ったりしながら運動に取り組もうとしている。 自分の体の調子を確かめたり、場所や用具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。 効率性を考えて運動の内容を選んだり構成したりして運動に取り組んでいる。 運動の内容やその効果をとらえ、運動の内容や方法を見直したり、新たな内容を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持久力を高めるペースで走ることができる。 柔軟性を高める運動を行うことができる。 筋力を高める運動を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力を高める運動の意義を言ったり書き出ししたりしている。 体力を高める運動の行い方及び体力の高め方を書き出ししたりしている。 体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を書き出ししたりしている。

(ウ) 学習の道すじと評価計画の作成

学習のねらいの達成に向けて学習の道すじを立て、その道すじに沿って評価計画を作成している。今回、「体力を高める運動」の中の、「持久力を高める運動」を中心とした取り組みを計画した。

表15 「体力を高める運動」の学習の道すじ

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
日	9/24	9/27	9/28	10/8	10/12	10/15	10/25	10/26	10/29	11/1	11/2	11/5	11/8	11/15	11/16	11/19	11/22	11/29	11/30	
学習内容	【オリエンテーション】 今の自分の健康・体力状況に気付くとともに体力を高める運動の必要性を理解する。 1 ウォーミングアップの方法 2 正確なストレッチの方法 3 筋力トレーニングの方法				【ねらい1】 自己の課題を設定し、体力を高めるためのトレーニング方法を実践する。 <ストレッチ・ストレングスマニュー> 1 自己の体力に応じたストレングスマニューの計画・実践 2 自己の体力に応じたストレッチメニューの計画・実践 <持久力メニュー> 1 ペース走(2~3周) 2 目標設定(3周) 3 時間走(トライアル)							【ねらい2】 自ら計画を立てて取り組む。 1 トレーニングメニューの立案 2 コンディショニング方法 3 持久走タイムトライアル 4 ミニニスポートテスト								
0	本時の学習内容の確認 本時の目標設定																		持	ミ
10	ウォーミングアップの方法を理解する。				自己の体力に応じたストレッチ・ストレングスマニューを計画し実践していく。							長い距離・時間を走りつづ			自分で学習内容を計画し実践をしていく。			走	ニ	
20	正確なストレッチの方法を理解する。							2~3周を一定のペースで走れるようになる。		3周以上を自分の目標で走りきれようとする。			タイムトライアル・ミニニスポートテストに向けて各自調整をしていく。			タ	ス			
30	様々な部位の筋力トレーニングを理解する。				1周のペースをつかむ											イ	ポ			
40	本時の振り返り(ノート記入)																		ム	ー
50	次回の確認・目標設定																		ト	ラ
																			イ	アル
																			ス	ト
																			学	習
																			の	振
																			り	返
																			り	記
																			(ノ
																			ー	ー
																			ト	記
)	

表 16 形成的評価の評価計画表

評価計画表		観点	関心・意欲・態度			思考・判断		技能		知識・理解				
		おおむね満足 できる状況	体力を高める運動の必要性を認識して、取り組もうとしている。	仲間と協力したり、励まし合ったりしながら運動に取り組もうとしている。	自分の体の調子を確かめたり、場所や用具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとしている。	自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。	効率性を考えて運動の内容を選んだり構成したりして運動に取り組んでいる。	運動の内容やその効果をとらえ、運動の内容や方法を見直したり、新たな内容を選んでいる。	持久力を高めるペースで走ることができる。	柔軟性を高める運動を行うことができる。	筋力を高める運動を行うことができる。	体力を高める運動の意義を言ったり書き出したりしている。	体力を高める運動の行い方及び体力の高め方を書き出したりしている。	体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を書き出したりしている。
		十分満足 できる状況	体力を高める運動の必要性を認識して、自ら進んで取り組もうとしている。	自ら積極的に仲間と協力したり、励まし合ったりしながら運動に取り組もうとしている。	自分や仲間の体の調子を確かめたり、場所や用具の安全を自ら進んで確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとしている。	自分の体力のレベルや健康状態をもとに適切な課題を設定している。	効率的な運動の内容を選んだり構成したりして運動に取り組んでいる。	運動の内容やその効果を的確にとらえ、運動の内容や方法を見直したり、新たに内容を工夫したりしている。	持久力を効果的に高めるペースで走ることができる。	柔軟性を効果的に高める運動を行うことができる。	筋力を効果的に高める運動を行うことができる。	体力を高める運動の意義を具体例を挙げて説明している。	体力を高める運動の行い方及び体力の高め方を具体例を挙げて説明している。	体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を具体例を挙げて説明している。
回数	月日	学習の進捗												
1	9/24	<オリエンテーション>今の自分の健康・体力状況に気付くとともに体力を高める運動の必要性を理解する。												
2	9/27													
3	9/28	1 ウォーミングアップの方法 2 正確なストレッチの方法												
4	10/8	3 筋力トレーニングの方法												
5	10/12	【ねらい1】自己の課題を設定し、体力を高めるためのトレーニング方法を実践する。												
6	10/15	<ストレッチ・ストレッチメニュー>												
7	10/25	1 自己の体力に応じたストレッチメニューの計画・実践												
8	10/26	2 自己の体力に応じたストレッチメニューの計画・実践												
9	10/29	<持久力メニュー>												
10	11/1	1 ベース走(2～3周)												
11	11/2	2 目標設定(3周) 3 時間走(トライアル)												
12	11/15	【ねらい12】自ら計画を立てて取り組む。												
13	11/18	1 トレーニングメニューの立案												
14	11/15	2 コンディショニング方法 3 持久走タイムトライアル 4 ミニミニスポーツテスト												
15	11/16													
16	11/19													
17	11/22													
18	11/29													
19	11/30													
評価方法		【観察・ノート】 自己の体力を高めることに 対して必要感が読み 取れる言動や記述(健康 的な生活・部活動の競 技力向上に役立てたい 等) 【観察】 トレーニングに積極的に 取り組む行動	【観察】 協力・励まし合いながら 運動に取り組む行動	【観察】 体調に合わせて安全に 運動しようとしたり、体調 の悪い仲間に声をかける 行動 【学習カード】 自分・仲間の体の状態 を記録	【観察・ノート】 自分の体力のレベルや 健康状態をもとに課題を 設定している	【観察・ノート】 運動の内容や構成が、 決められた時間内で、 適切に行われている	【観察・ノート】 振り返りをもとに運動の 内容や方法を見直したり、 新たな内容を選んでいる 【学習カード】 運動の内容・効果の 記述	【観察・ノート】 目標心拍数を算出し、適 時に脈拍を取り、走る ペースを調整して効果 的に走ることができる	【観察・ノート】 正しいやり方(適正な フォーム・静止の秒数・ 呼吸の仕方)でストレッチ を行うことができる	【観察・ノート】 正しいやり方(適正な フォーム・呼吸の仕方)で トレーニングを行うこと ができる	【学習カード】 体力を高める運動の意 義に関する記述	【学習カード】 体力を高める運動の行 い方(運動の一つ一つの やり方)及び体力の高め 方(反復回数や組み合わせ) についての記述	【学習カード】 目的に合った運動の組 み立て方、活用の仕方 についての記述	

16時間目	月	日	曜日	天気	体調			
学習内容								
今日の目標								
学習計画	自分で計画を立てるのは2時間目です。前回の課題をもとに体力向上を目指して計画を立てましょう。							
時間								
0分	集合・本時の確認							
	トレーニング内容			注意点・目標など				
10分								
20分								
30分								
40分	ノート記入							
50分	集合・解散							
自己評価						よい	ふつう	わるい
1	積極的に活動に参加することができましたか。					3	2	1
2	トレーニング計画をしっかりと考えましたか。					3	2	1
3	計画どおりに学習できましたか。					3	2	1
計画で良かった点や問題点を書きましょう！								
心拍数から運動強度を学ぼう！				心のスタミナは？		1	もうダメ	
運動前心拍数	目標心拍数	運動後心拍数		2		まだいけるぞ		
今日の振り返り				次回の目標				
				先生から				

【思】自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定しているか。
(おおむね満足)
 自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。
(十分満足)
 自分の体力のレベルや健康状態をもとに適切な課題を設定している。

【知】目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方についての記述することができたか。
(おおむね満足)
 体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を書き出したりしている。
(十分満足)
 体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を具体例を挙げて説明している。

【技】各自の運動に適した心拍数に到達することが出来たか。
(おおむね満足)
 目標心拍数に近づく取り組みができた。
(十分満足)
 目標心拍数を意識してペースを考えて走ることができた。

【関】トレーニングに積極的に取り組む行動がみられたか。
(おおむね満足)
 体力を高める運動の必要性を認識して、取り組もうとしている。
(十分満足)
 体力を高める運動の必要性を認識して、自ら進んで取り組もうとしている。

【思】運動の内容や構成が、決められた時間内で、適切に行われているか。
(おおむね満足)
 運動の内容やその効果をとらえ、計画通りに学習をすすめることができています。
(十分満足)
 運動の内容やその効果を的確にとらえ、計画通りに学習をすすめることができています。

図 17 学習カード

イ 各評価時期における学習評価の結果と振り返り

(ア) 診断的評価

表 17 授業者による診断的評価の記録 < 学習開始前の評価結果と振り返り >

	具体的評価規準 < アンケート項目 > (結果%)	本学が重視 確認する項目 学習はじめて	評価結果を基に工夫する 学習指導の内容等	評価の振り返り	
				評価の方法は適 切だったか 評価規準は適切 だったか	診断的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)
関心・意欲・態度	健康保持・増進、体力向上の意欲 「普段の体育の授業で、体力を高める運動の必要性を意識して、自己の体力を高めようとしている。」 (A:22% B:52% C:26%)		新体力テストの本校の平均は全国平均より下回っている項目(持久走・柔軟性)が多い。また、運動に対して積極的に関わっている生徒が少ない。このような現状を踏まえ、現在の自己の体力と学習のねらいを把握させ、目標を具体的に設定させ、学習はじめの段階での評価結果を受けて工夫する学習指導等を具体化する。		評価規準はこの時点ではおおむね適切であると判断した。評価の方法は、アンケートに必要な内容を書いてもらえば詳しく把握できた。新体力テストの数値は全国的な数値と比較でき、有効であった。体力の必要性を認識している生徒が多くいることから、今後の学習に対して、意欲的に参加していけると判断できる。
	学習における協力 「普段の体育の授業で、仲間と協力したり、励まし合ったり、競争したりしながら進んで運動に取り組もうとしている。」 (A:39% B:52% C:9%)		アンケートの結果では、おおむね取り組んでいるという自己評価結果であるが、普段の授業の様子を見ると課題を感じる。ペアやグループでの活動場面を設定し、協力や励ましあうことの大切さを伝えていく。		評価規準は現時点ではおおむね適切と判断した。評価の方法については、自己評価と実際の普段の取り組み状況にギャップがあり、その部分も参考になった。ここでは、普段の取り組みを主に見ていき、アンケート結果は参考とした。
	健康・安全 「普段の体育の授業で、自分や仲間の体の状態を考えて、安全に運動しようとしている。」 (A:36% B:56% C:8%)		アンケートの結果では、おおむね取り組んでいるという自己評価結果であるが、普段の授業の様子を見ると、課題を感じる。自分のみではなく周囲に対しても、安全に配慮して活動が出来るようにしていく。		評価規準はこの時点ではおおむね適切と判断した。評価方法はアンケート結果と普段の取り組み状況にずれが見受けられた。
思考・判断	運動の選択 「普段運動しようとするときに、自分の体力のレベルや健康状態に適した運動を選んでいる。」(A:33% B:51% C:15%)		アンケートの結果ではおおむね取り組んでいるという自己評価結果であるが、実際見取ることが難しい規準であるため、新体力テストの結果から、自分の現在の体力レベルや健康状態を的確に把握することを重点とする。		評価規準が適切かどうか、現時点では判断できなかった。評価方法についてはアンケートで運動の選択という観点を現時点で評価することは難しいので、「現在の自分の体力や、健康状態を正確に把握することが出来ているか」という質問項目に代えても良かった。
	効率的な運動の実践 「普段運動するとき、効率的に運動をしようとしている。」 (A:23% B:51% C:26%)		アンケートではおおむね取り組んでいるという自己評価結果であるが、実際見取ることが難しい規準であるため、自分の目標やねらいに適した運動を選択できるようにしていく。		評価規準が適切かどうか、現時点では判断できなかった。アンケート結果は、意識的に活動しているかどうかの目安にはなるが、実際の取り組み状況を見なければ正確に判断できず、学習はじめの段階の評価で見取っていく。
	運動内容の選択 「普段運動するとき、運動内容やその効果をとらえ、運動内容や方法を見直したり、新たな内容を選んでいる。」 (A:14% B:53% C:34%)		アンケートの結果ではあまり取り組めていないという自己評価結果であり、普段の授業を見てもPLAN-DO-SEE という学習サイクルを作り上げていくことが困難で受動的な場面が多く、このねらいは最重点化する。学習ノートを活用し、現在の自己の状況に応じた運動を具体的な目標をもってできるように支援していく。		評価規準はおおむね適切と判断した。アンケート結果と普段の授業の様子で、重点課題と判断した。個々の目標設定を立てやすいこと、数値による測定が可能なことで具体的な目標設定がしやすく、効果的に学習できる。
技能	持久力向上のトレーニング 「持久力を高めるペースで走ることができる。」(A:9% B:47% C:44%)		自己評価ではかなり取り組めていないという結果であり重点化する。学習のはじめの段階でも見ていく。心拍数・歩数などからも自分の記録が伸びるように目安を持たせる。走る時間や距離を徐々に伸ばし、体力面・精神面に成長を促していく。		評価規準は適切と判断した。半数近くの生徒が苦手意識もっている。技能的な部分も身に付いていない可能性が高いと判断した。段階的に指導していく必要があると判断できる。
	柔軟性向上のトレーニング 「柔軟性を高める運動を行うことができる。」(A:15% B:50% C:35%)		アンケートの結果ではあまり取り組めていないという自己評価結果であったため、重点化する必要がある。運動に合った、ストレッチングができるように意識をさせていく。		評価規準はおおむね適切であったと判断した。評価方法はアンケートだけではわからず、学習のはじめの段階で見取る場面を設定すべきであった。前単元などで事前に、どの程度、自分たちでできるのか把握することも方法として考えられる。
	筋力向上のトレーニング 「筋力を高める運動を行うことができる。」(A:13% B:58% C:29%)		アンケート結果と普段の取り組み状況から、トレーニングをすることは出来るが、効果的にできるかという事は難しいと判断できる。トレーニング部位を意識させて実施させる。		評価規準はおおむね適切であったと判断した。評価方法も、アンケート結果と、普段の取り組み状況から判断できた。
知識・理解	体力を高める意義の理解 「体力を高める運動の大切さを理解している。」(A:23% B:54% C:23%)		理解度はそれほど高くないという自己評価結果であった。手立ては必要であると思われる。日常生活習慣の中から運動の大切さを理解させていく。		評価規準はおおむね適切であったと判断した。アンケート結果では、体力を高める必要性は漠然と理解していると分かったが、具体的にどのように理解をしているか、文章で書かせても良かったと思われる。

体力を高める方法の理解 「体力を高める運動の行い方及び体力の高め方を知っている。」 (A:7% B:55% C:38%)		自己評価結果は低く、普段の授業の様子からも、運動経験が少ない生徒が多く見受けられるため、ねらいを最重点化した。自分にあったトレーニング方法を身に付けられるように様々なトレーニング内容を提供していく。		評価規準はこの段階では判断できなかった。生徒が理解しやすいような、 <u>具体的な例示が必要であった</u> 。知識・理解度テストを行うことも必要であった。
運動処方知識・理解 「体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を知っている。」(A:5% B:48% C:47%)		自己評価結果は低く、普段の授業を見ても運動に対する意識が低く、漠然と運動をしてしまう場面が多くあり、ねらいを最重点化した。自分に適した運動を、自ら考え効率的かつ自発的に運動に取り組めるように促していく。		評価規準はこの段階では判断できなかった。生徒が理解しやすいような <u>具体的な例示が必要であった</u> 。知識・理解度テストを行うことも必要であった。

表 18 授業者による診断的評価の記録<学習のはじめの段階での評価結果と振り返り>

	具体的評価規準 (アンケートだけではつきりと確認できなかった項目)	見取る場面(方法)	評価結果を基に工夫する 学習指導の内容等	評価の振り返り			
				評価規準は適切 だったか	評価の場面は適切 だったか	評価の方法は適切 だったか	診断的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)
関心 意欲 態度	健康保持・増進、体力向上の意欲 「普段の体育の授業で、体力を高める運動の必要性を意識して、自己の体力を高めようとしている。」	学習への積極的な参加状況(観察) 適切な目標設定の記入(学習ノート)	実際、意欲的に参加できる生徒は少なかった。出来ることから、出来ないことへと、 <u>スモールステップを踏みながら実施</u> していくことにより、 <u>積極的に参加できる場面を増やす</u> 。				観察と学習ノートで十分見取ることができた。その内容から、評価規準も適切であることを確認した。この観点を学習のはじめでしっかりと見取ることができ、動機付けのきっかけを作る手がかりを得られた。
思考 判断	効率的な運動の実践 「普段運動するときに、効率的に運動をしようとしている。」	目標設定・計画的にトレーニングを実践している(観察・学習ノート)	評価できなかった。回数、タイムなど数値的な目標設定をしていくことにより、積極的な参加を促していく。				初めて行う内容が多かったため、内容の提示で終わってしまい、トレーニングを自ら実践する場面の設定が出来なかった。一斉指導になってしまい、個々に対する設定も困難であった。
技能	持久力向上のトレーニング 「持久力を高めるペースで走ることができる。」	自己に適した安定したペースで走ることができる(観察)	十分評価できなかった。距離・時間を計画的に伸ばしていけるように、目標を明確に立てさせる。				見取する方法についてはよかったが、場面は継続的に見ていく必要がある。
知識 理解	体力を高める意義の理解 「体力を高める運動の大切さを理解している。」	講義の時の状況(観察) ポイントを的確に把握できているか(学習ノート)	十分評価できなかった。資料を有効に活用し、時間的にゆとりのあるときに講義をする必要がある。				トレーニングの前後は時間的に余裕がなく、学習効果が薄れてしまった。生徒から発言させるなどの工夫をしたほうが良かった。
	運動処方知識・理解 「体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を知っている。」	目標に応じたトレーニング計画を作成できる(学習ノート)	十分評価できなかった。経験した内容から、次に自分で目標を設定できるようにしていく。				あらかじめ用意した学習ノートの見取りの観点が思考・判断になってしまった。運動処方的な知識・理解度は、簡単に具体的な且つ生徒の現状にあった発問をし、学習カードの記入を促していけば良かった。

評価規準は適切であったか

思考・判断の「運動内容の選択」と技能の「持久力向上のトレーニング」の観点はアンケートの結果と普段の取り組み状況から考えて、適切な規準であると判断した。

思考・判断の「効率的な運動の実践」と、知識・理解の「体力を高める方法の理解」「運動処方知識・理解」の観点については、アンケートで、生徒に具体的な表現で示すことができず、判断ができなかった上、生徒自身も評価規準について十分理解できなかった。

評価の場面は適切であったか

関心・意欲・態度の「健康の保持増進・体力向上の意欲」については、アンケートの自己評価結果から推察することができ、学習のはじめの段階での評価として、容易に確認することができた。

思考・判断の「効率的な運動の実践」については、

個々に対する指導場面が設定できず、内容提示だけで終わってしまい、評価することができなかった。ここでは、アンケートの段階で具体的な場面を課題を例示し、生徒に判断方法で評価する方法が考えられる。

技能の「持久力向上のトレーニング」については、学習のはじめの段階では、持久力を高めるペースで走ることができているかを判断することが困難なので、アンケートによる意識調査の結果を参考にした。

「柔軟性向上のトレーニング」については、アンケートと普段の取り組み状況からは判断できず、学習のはじめの段階で観察できる場面を設定する必要があった。また、ストレッチは、各単元でほとんど毎時間準備運動として行っているため、どの程度できるか前単元で把握しておくとうまいと思われる。

知識・理解の「体力を高める意義の理解」については、授業の最後に説明する時間しかとれず、個々の学習ノ

ートの記述を判断材料とした。

評価方法は適切であったか

生徒の自己評価(アンケート結果)と実際の普段の取り組み状況にずれが感じられる部分では、生徒の自己評価を参考にしながら観察で見取った。

また、思考・判断の「運動内容の選択」と、技能の「持久力向上のトレーニング」については、普段の授業の中で行っていた補強的な運動の取り組み状況とアンケート結果を参考にした。

今回のアンケートは、評価規準に沿って一問一答形式にすることより、生徒の意識の状況を観点別に大まかに把握することはできたが、質問内容が漠然としている部分があったため、具体的な実現状況を把握できないところがあった。目標に照らした生徒の実現状況を、今までの取り組み状況から判断し、その状況に見合った質問項目を作成するとともに、生徒が具体的に分かりやすい表現にするなどの工夫が必要と考えられる。

思考・判断の「効率的な運動の実践」については、具体的な例をいくつか挙げ、生徒に判断させる形式で

記述させるような工夫が有効だと思われる。

知識・理解については、アンケートにより、意識を問う調査だけではなく、知識・理解の度合いを直接見取る問題形式にする必要があった。

診断的評価はどうであったか(まとめ)

以上のように分析・考察を進めてきた結果、診断的評価について、次のことが明らかになった。

- 学習前のアンケート調査は、生徒の全体的な傾向を把握する上で有効である。しかし、生徒の意識だけでなく、実態を把握するためには具体的に詳細な質問項目が必要である。
- 学習はじめての段階で、短時間で効率的に評価するためには、学習開始前の評価と合わせて見直しを持って計画する必要がある。学習開始前の段階でできる限り評価しておき、学習はじめての段階で確認できるように場面と方法を系統的に仕組むことも大切と考える。

(イ) 形成的評価

表 19 授業者による形成的評価の記録<評価結果と振り返り>

	具体的評価規準	見取る場面【方法】	評価場面	結果及び見直し内容	評価の振り返り					
					評価規準に基づいて評価できたか	評価の方法は適切だったか	評価の場面は適切だったか	評価の方法は適切だったか	形成的評価が有効に機能したか(具体的内容・理由・その他)	C「努力を要する生徒」への手立てはどうだったか
関心・意欲・態度	健康の保持・増進、体力向上の意欲 「体力を高める運動の必要性を意識して、取り組もうとしている。」	自己の体力を高めることに対して必要感が読み取れる言動や記述(健康的な生活に役立てたい等) 【観察・学習ノート】	1	学習ノートの記述に運動不足の感想が多く、運動に対して消極的な部分も多く感じ取れたため、日常生活の運動量が少ない現状を説明する。					必要感を読み取るには学習ノートが有効であったが、 <u>意図的に答えを引き出すような工夫が必要であった</u> 。運動の重要性を理解させることで、 <u>意欲的に取り組む生徒が増えた</u> 。	運動が身体に与える影響や日常生活のリズムの乱れる原因について説明し、改善点についてアドバイスをすることにより、必要感を高めることができた。
			2	日常生活の大切さがあまり意識されていなかったの						
			3	で、資料を活用して、身近な生活上の問題に対して提示する。						
			4							
			5							
			6							
	トレーニングに積極的に取り組む行動【観察】	1	運動経験が少なく自ら取り組める生徒は少なかったため、最初はこちらからの提示した内容を実践した。					観察で十分見取ることができた。真新しい運動については、興味を持って取り組む姿勢が見られた。	常に言葉をかけて活動するように促し、具体的なやり方が分からない生徒には個別に指導することにより、積極性が現れてきた。	
		2								
		3								
学習における協力 「仲間と協力したり、励まし合ったりしながら運動に取り組もうとしている。」	協力・励まし合いながら運動に取り組む行動【観察】	10	自ら協力することが困難だったため、ペアでのトレーニングを重視した。					全体的な傾向は観察で判断した。ペア活動により協力する学習場を設定したが <u>具体的な活動の設定が十分でなかった</u> ので、仲の良い友達とは協力できたが、「誰とでも」という所まで至らなかった。	グループを指定して取り組ませたり、状況を判断させるような言葉で促したりした。グループでの取り組み内容にもう少し	
		11								

			12	自分から仲間を励ますことが出来なかったため、まずは見学の生徒に声を掛けるよう促した。					観察によりある程度、見取ることができたが、ランニングの最中は難しかった。実際に走っている生徒も少しずつ前向きに声を掛けられるような場面が見受けられた。	工夫が必要であった。	
	健康・安全 「自分の体の調子や場所や用具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとしている。」	自分・仲間の体の状態を記録【学習ノート】 体調に合わせて安全に運動しようとしていたり、体調の悪い仲間へ声をかける行動【観察】	13 14 15 16	場所・用具などの安全面を確認することができているかを見取ることができず、教師側からの指導・注意をした。 体調面については自分の状態までにとどまり仲間への配慮までは至らなかった。			×	×	×	こちらが用具等の安全を確かめる場面を仕組むことができなかったため、観察では見とれなかった。 体調の判断は生徒の気分的な要素に左右されることが多かったため、客観的な評価材料があれば良かった。	場所・用具の安全面の必要性を再確認させ、体調面は生活面から改善できるように言葉で促したが、目に見える効果はあがらなかった。
思考判断	課題の設定 「自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。」	自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している【観察・学習ノート】	17 18 19	自分の健康状態を考えながら課題を設定することはほとんどの生徒が出来ていた。					学習ノートで十分見取ることができた。	具体的な課題を設定できるように学習ノートで促したが、効果があった。	
	効率的な運動の実践 「効率性を考えて運動の内容を選んだり構成したりして運動に取り組んでいる。」	運動の内容や構成が、決められた時間内で、適切に行われている【観察・学習ノート】	20 21	時間を有効には使いきれていない。効率的な運動になっていない生徒には、必要に応じて個別にアドバイスをした。					一人ひとり十分見取れなかった。学習ノートに生徒の活動と計画が一目でわかるような工夫があれば良かった。	学習ノートを記入する際に個別に指導をしたが効果的であった。	
	運動内容の選択 「運動の内容やその効果をとらえ、運動の内容や方法を見直したり、新たな内容を選んでいる。」	運動の内容・効果の記述【学習ノート】 振り返りをもとに運動の内容や方法を見直したり、新たな内容を選んでいる【観察・学習ノート】	22 23 24 25 26 27 28	運動の内容を知らない生徒が多かったため、運動量を少なくしてリズムカルな動きを取り入れ、達成感を大切にしながら取り組みやすい内容を提示した。 課題設定が現実的ではなかったため、現状認識をさせるように分かりやすく説明をした。 今迄の実践から記録向上のために前向きな課題を設定することが出来るようになってきた。					学習ノートの記入で十分見取ることができた。見直し内容で、生徒の取り組みは良かった。 学習ノートの記入で十分見取ることができた。 学習ノートの記入で十分見取ることができた。4月の記録を更新するための課題を設定できた。	数回に渡り記録をとらせることにより平均的な目標を設定するように促した。必要な生徒には個別に指導をした。その結果、計画性を持たせて取り組めるようになってきた。	
	持久力向上のトレーニング 「持久力を高めるペースで走ることができる。」	目標心拍数を算出し、適時に脈拍を取り、走るペースを調整して効果的に走ることができる【観察・学習ノート】	29 30 31 32 33 34	ペースが不安定であったので、ペースを意識できるように常に声をかけた。 ほぼ全員ペースの調整ができるようになってきた。心拍数を見ることで自分のペースが効果的なトレーニングになっているかを確認させた。					観察・学習ノートである程度見取ることができた。回数を重ねるごとに安定して走れるようになってきた。 観察・学習ノートで見取ることができた。心肺機能では問題がなく筋力など他の要因があるなど、新たなトレーニングのめやすがわかった。	楽なフォームなどについてアドバイスをしたり、目標心拍数の意義について、言葉や学習ノートで理解させるようにした。	
	柔軟性向上のトレーニング 「柔軟性を高める運動を行うことができる。」	正しい行い方（適正なフォーム・静止の秒数・呼吸の仕方）でストレッチを行うことができる【観察・学習ノート】	35 36 37 38	興味が薄かったため、一人でやる方法や、ペアで行う方法など、今まで経験のないストレッチ方法と正確な行い方を紹介した。 ストレッチを自ら実践することが出来たので、時間配分やストレッチ部位を自分で考えさせて実施した。					観察中心で、学習ノートは参考にならなかった。 学習ノートの記述では見取りが不十分であった。自分で考えると不適切な動きしてしまう生徒がいたので、助言が必要であった。	ストレッチの重要性を再確認させ、するため、個別に声を掛け正しい方法について指導した。	
	筋力向上のトレーニング 「筋力を高める運動を行うことができる。」	正しい行い方（適正なフォーム・呼吸の仕方）でトレーニングを行うことができる【観察・学習ノート】	39 40 41 42 43	興味が薄かったため、今まで経験のないトレーニング方法と正確な行い方を紹介した。 トレーニングを自ら実践することが出来た。					観察中心で学習ノートは参考にならなかった。手立てにより楽しんで参加することが出来た。 学習ノートでは見取りが不十分であった。不適切な動きになってしまう生徒もあり、手立てを講じる必要があった。	トレーニングの必要性を再確認した。個別に声を掛けやるように促した。	

知識理解	体力を高める意義の理解 「体力を高める運動の意義を言ったり書き出したりしている。」	体力を高める運動の意義に関する記述[学習ノート]	44 45 46	体力を高める運動の意義については理解させることができた。					評価規準は適切と判断できた。学習ノートで見取ることができた。意義を理解させることで、取り組みの向上にもつながった。	個別に理解させるように指導した。
	体力を高める方法の理解 「体力を高める運動の行い方及び体力の高め方を書き出している。」	体力を高める運動の行い方(運動の一つ一つの行い方)及び体力の高め方(反復回数や組み合わせ)についての記述[学習ノート]	47 48 49 50	運動の行い方については理解させることができた。					学習ノートで見取ることができた。提示した内容についてはほぼ理解できた。	個別指導を行った。
	運動処方への知識理解 「体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を書き出している。」	目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方についての記述[学習ノート]	51	提示した内容から実践するようにした。					学習ノートで見取ることができた。提示した内容についてはほぼ理解できた。	理解できていない部分については個別に指導をした。
			52							
			53 54 55	十分に見取れなかった。自分の課題にあった運動の組み立て方、活用の仕方を各自に設定させた。					学習ノートに計画を大まかにしか記入できなかったので記入方法に工夫が必要であった。	記入できない部分については会話の中から記入できるようにした。

評価規準は適切であったか

生徒のねらいに対する実現状況からほとんどの評価規準において、おおむね適切であったと判断できたが、次に示すように規準の設定において若干修正が必要な点もあった。

【**関心・意欲・態度**】…「学習における協力」

グループ内での協力から発展できなかった。

【**思考・判断**】…「運動内容の選択」

4月の記録から記録を更新するための課題と目標を設定することはできたが、効果的な内容を選ぶことは難しかった。

【**技能**】…「持久力向上のトレーニング」

この規準をタイム等の量的なものとしてとらえるのではなく、「体力を高めるための技能」としてしっかり捉えさせておく必要があった。

また、フォームやストライドも無理のない走り方という点で指導する必要もあった。

評価の場面は適切であったか

関心・意欲・態度の「健康の保持増進、体力の向上の意欲」の評価では、グループでの活動を中心に見取る場面を設定した。ここでは個々の課題に取り組む場面設定も十分取る必要があった。「学習における協力」については、ペア活動により、協力する学習場面を設定したが多くの生徒と協力し合う場面設定も必要であった。ランニング中の励まし合いの状況の観察は困難であった。

「健康・安全」については、用具等の安全を確かめる学習場面を具体的に設定できなかった。ねらいに即し、ルールを設定して、自己評価をさせる等の活動を設定しても良かった。

知識・理解の「体力を高める意義の理解」についての評価は学習ノートの記述で判断したが、学習活動としては、トレーニング学習の前後ということで、時間

的に余裕がなかったようだ。

評価方法は適切であったか

関心・意欲・態度の観点は、学習ノートを参考にしながら観察で見取ることによって効果的に判断できたと思われる。「健康の保持増進・体力の向上の意欲」については、学習ノートの記述による判断という方法は適していたが、意図的に答えを引き出せるようにするためには、学習ノートの自己評価項目の設定をさらに工夫することが必要であった。「健康・安全」については、学習ノートの記述で体調のチェックを行ったが、実際は生徒の「その日の気分」の記述が多く、より客観的に自己評価ができるような工夫が必要と思われた。よって思考・判断の「健康状態をもとにした課題の設定」については、学習ノートの記述から見取ることについては適していたが、基本となる健康状態の客観的な把握が必要であった。「効率的な実践」については、一人ひとりを十分評価するために、学習ノートに生徒が考えた活動と計画が具体的に分かるフォーマットの工夫が必要と思われた。

技能の「持久力向上のトレーニング」については、ランニングの場合、観察と学習ノート等の心拍数等の記録で判断した。「柔軟性向上のトレーニング」については、学習ノートの記述では評価できず、全員を観察することも困難であった。「筋力向上のトレーニング」についても学習ノートでは評価できず観察で判断した。

知識・理解の「体力を高める意義の理解」及び「体力を高める方法の理解」については学習ノートで判断した。「運動処方への理解」については、学習ノートを詳細な計画を記入できる形式にし、さらに簡単で具体的に且つ生徒の実態に即した発問をしながら、学習カードの記入を促していく必要もあると思われる。

形成的評価はどうであったか(まとめ)

形成的評価の計画は、学習内容と、学習の道すじに沿って、効率的に授業改善を図り、ねらいの実現にむけて見通しを持って評価できるよう立案する必要がある。観察では具体的行動例をもとにわかりやすい評価規準をあらかじめ設定しておくことが基本となる。取り組み状況の観察で見取った内容と、学習ノートの

記述内容が主な評価材料となるが学習ノートは、よりねらいに即した答えを引き出すような形式の工夫と、記入の際の支援が必要である。

(ウ) 総括的评价

表 20 授業者による総括的评价の記録<評価の結果と振り返り>

	具体的評価規準 (生徒の事後調査結果)	見取る 場面 (方法)	学習のねらいの達成 状況	評価の振り返り				総括的评价が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)	C「努力を要する生徒」 への手立てはどうだったか
				たか 評価規準は適切だったか	つたか 評価の場面は適切だったか	つたか 評価の方法は適切だったか	評価できたか 評価規準に基づいて評価できたか		
関心・意欲・態度	健康の保持・増進、体力向上の意欲 「体力を高める運動の必要性を意識して、取り組もうとしている。」(A:43% B:48% C:9%)	観察・学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	意識が高まった生徒が増えたことから効果があったと考えられる。(全)					生徒の感想と教師側の観察による評価については、多少差があるものの全体的には概ねよく取り組んでいたと思われる。	見学者の対応は体調不良の原因が日常生活や精神的な部分が多く、もっときめ細やかな指導が必要であった。
	学習における協力 「仲間と協力したり、励まし合ったりしながら運動に取り組もうとしている。」(A:57% B:41% C:2%)	観察記録の蓄積・事後アンケート	半数以上の生徒が積極的にかかわったという回答であったので、生徒の意識には変化が見られてきたと思われる。(全)					評価は問題なく出来た。誰でも仲良く取り組むことをねらいとしたが、仲の良いグループ内での活動が多かった。より効果的に目標を達成させるためには体ほぐしの時間をもう少し多く取り入れ、協力する場面設定を増やし、生徒の変化を多く見取る場面設定が必要であった。	個々への指導としては仲の良い生徒に積極的に声を掛けるように促してから、徐々に誰でもコミュニケーションが取れるように促し出来るようになった。
	健康・安全 「自分の体の調子確かめたり、場所や用具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとしている。」(A:47% B:47% C:6%)	観察・学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	生徒の意識は向上した。(全)					自分の体調を客観的に見れるように工夫すればよかった。実際の活動では状況を判断する力がない生徒がいるので簡単なルールを設定して守れたかどうかの自己評価をしても良かった。	自分本位の考え方が多いので、話す中で改善できるようにしたが、性格的な部分もあるため継続した指導が必要であると感じられる。
思考・判断	課題の設定 「自分の体力のレベルや健康状態をもとに課題を設定している。」(A:39% B:51% C:10%)	観察・学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	概ね満足出来る生徒は51%いることから効果はあったものと思われる。(後)					評価についてはおおむね良かったと思われるが、健康状態を客観的に把握できるような指導の工夫が必要であった。	具体的な課題設定が出来ないので聞き取りながら一緒に設定することにより出来るようになった。
	効率的な運動の実践 「効率性を考えて運動の内容を選んだり構成したりして運動に取り組んでいる。」(A:24% B:63% C:13%)	観察・学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	概ね満足出来る生徒は63%いることから効果はあったものと思われる。(後)					計画を前時に立てさせたため、当日の体調との関係で変更することがあったので当日に計画させるようにしたほうが良かった。	具体的な計画が立てられないので聞き取りながら一緒に立てることにより出来るようになった。
	運動内容の選択 「運動の内容やその効果をとらえ、運動の内容や方法を見直したり、新たな内容を選んでいく。」(A:20% B:67% C:13%)	観察・学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	時間毎に目標を設定することにより学習に対する意識は高まったと思われる。(全)					目標を設定することはできるが、生徒が効果的な内容であったかどうかの検証をすることについては難しいようであった。	当日の気分で大きく左右されることがあるので、全体的な見直しの中で、その日の状況に応じた計画を立てさせる必要がある。
技能	持久力向上のトレーニング 「持久力を高めるペースで走ることができる。」(A:35% B:48% C:17%)	観察・学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	前回の記録を更新した生徒の割合は64%いることから効果があったと思われる。(全)					記録が向上したことは技能的な側面もあるが、意欲的な部分も関わっている。フォームやストライド等についても無理のない走り方という点で指導しても良かった。	安定して走ることが難しいのでゆっくりのペースで歩かないように伴走した。

	柔軟性向上のトレーニング 「柔軟性を高める運動を行うことができる。」 (A:29% B:53% C:18%)	ケート	前回の記録を下回った生徒の数は41%いることから効果的な指導ができない部分があった。(全)				内容を生徒に任せる部分が多かったのでもう少し教師側から指導をする時間を多くしていくほうが効果があったと思われる。	個別指導により活動への参加は見られるようになった。
	筋力向上のトレーニング 「筋力を高める運動を行うことができる。」 (A:32% B:55% C:13%)		前回の記録を現状維持した生徒の数は41%いることから指導ができない部分があったと思われる。(全)				持久力を高めることが中心になることにより生徒の意識も筋力向上という観点に立つことが難しいようであった。	個別指導により活動への参加は見られるようになったが、自主的な活動までには至らなかった。
知識・理解	体力を高める意義の理解 「体力を高める運動の意義を言ったり書き出したりしている。」(A:35% B:63% C:2%)	学習ノート記録の蓄積・事後アンケート	意義を理解している生徒がほとんどなので効果はあったと判断した。(全)				学習ノートへの記述と実際の活動の差が感じられる部分もあるので、こちらの質問項目の更なる工夫が必要であると感じられた。実践できているかの確認方法には工夫が必要であった。	学習ノートに「簡単でもよいから書くように」と促すことにより、書けるようになった。
	体力を高める方法の理解 「体力を高める運動の行い方及び体力の高め方を書き出したりしている。」(A:28% B:68% C:4%)		運動に対する理解はおおむねできたものと判断した。(後)				運動処方への理解は、トレーニング器具を使っでのトレーニング方法も盛り込めばさらに理解が深まった。	方法について個別に指導することにより、理解できるようにはなってきた。
	運動処方の知識・理解 「体力を高める運動の目的に合った運動の組み立て方、活用の仕方を書き出したりしている。」(A:22% B:72% C:6%)		目的に合った運動を選択することはできるが、効果的に組み立てることについては難しいようであった。(後)				評価規準は現在までの段階では高かった。学習ノートを生徒が記入しやすい形式に工夫すれば良かった。運動処方的な内容は難しく、時間をとる必要があった。	できることから少しずつ聞き取り自分で計画できるように促した。

達成状況の欄は、最後の授業で判断したものは(後)、単元を通して判断したものは(全)を記入する。

評価規準は適切であったか

どの観点においてもおおむね適切な規準を設定することができたが、次のようにいくつか修正が必要なものもあった。

関心・意欲・態度の「仲間と協力できる」については、生徒の学習のはじめの状況から考えると達成が難しく、この単元においてはおおむね満足の実現状況をもう少しやさしいものに設定することも検討する必要がある。

思考・判断の「効率性を考えて運動の内容を選んだり構成したりする」については、「効率性」という言葉が具体性に欠けていたため、見取るための観点が曖昧となってしまった。そのため、単元を通じて一定した規準で評価することが難しかった。

技能の観点では、技能をタイム等で量的に表すと評価しやすくなる。しかし、体力を高める運動では、結果として高まった体力・運動能力を評価するのではなく、「体力を高めていくための技能」がどの程度身に付いたかを評価することがねらいなので、今回設定した規準でよいと思われる。

知識・理解の「運動の組み立て方・活用の仕方」については、おおむね満足の実現状況を達成することが難しかった。原因としては、まず実現状況のレベルの設定が高かったのではないかとすることが考

えられる。また、知識・理解の学習を重点化し、生徒の実態を踏まえて、具体的な例を示しながら説明を加える等の指導の工夫も必要であったのではないだろうか。

評価の場面は適切であったか

表21は、今回の単元における評価の場面を観点別にまとめたものである。

表21 観点別に見た評価の場面

観 点	評 価 の 場 面	
	学習活動	学習の段階
関心・意欲・態度	グループでの活動 個人の取り組み	単元を通して継続的に
思考・判断	課題の設定 運動の選択・工夫	ねらい1～ねらい2 ねらい2を重視
技能	運動の実践	ねらい1～ねらい2 ねらい2を重視
知識・理解	発言やカードへの記入	主として学習の最後

当然のことながら各観点毎に見取る場面に違いが見られるが、どの観点もおおむね適切に設定することができた。

関心・意欲・態度の観点では、グループでの活動を重視したために、各自の課題に取り組む場面が少なく、個々を見取ることが難しかった。また、「協力や

励まし合い」については、形成的評価についての考察でも述べたように、走っている場面での観察は困難であった。走っている場面以外で協力し合う場面を多く設定し、そこで観察し評価する工夫が必要であった。

評価方法は適切であったか

知識・理解では、観察と学習ノートの記述から見取り、総合的に適切に評価することができた。ただし、教師の観察による評価と生徒の学習ノートによる自己評価の結果に多少のずれが生じてしまうことがあった。

技能は、やはり観察が中心となるが、「柔軟性を高める運動」については、学習ノートの記録による評価に偏りがちになってしまい、観察による評価をもっと用いるべきであった。持久走の場合も観察によって見取ることは難しいが、今回は学習ノートの心拍数の記録も参考にすることでそれを補い総合的に評価することができている。

知識・理解は、ペーパーテストが一般的であるが、学習ノートの記述である程度は見取ることができている。しかし、生徒の実現状況をより正確に把握するためには、発問や記述方法にさらに工夫を加えたり、知識・理解の度合いを確かめるテストを実施したりすることも必要である。

全体的に見ると、評価の方法として、どの観点も主として観察、学習ノート、事後アンケート(自己評価)を用いている。一つの方法だけで評価するのではなく、複数の方法を用いることでより精度の高い評価をすることができるが、今回の実践においても多角的に評価することで精度を高め、おおむね適切に評価することができたと考えられる。

総括的評価はどうであったか(まとめ)

生徒が単元を通じてどの力がどの程度身に付いたか。その実現状況を総括的に見取るためには、観点ごとの特性を十分に踏まえ、それに応じて評価の場面を設定する必要がある。また、様々な方法を用いて多角的に見取ることで、より客観的な評価となる。

今回は、以上のことを踏まえて計画的に授業実践が行われ、細部ではまだまだ課題が残されているものの、おおむね適切な総括的評価ができたと考えられる。

(2) バドミントン (B高校)

ア 学習評価の計画(単元計画)の立案

(ア) 生徒の現状分析

B高校の保健体育科では、1年生については運動に取り組む姿勢と学ぶ姿勢を身に付けさせることを重点目標としている。生徒の実態を把握するため、4つの項目でアンケート調査を行った結果、「楽しむ」という随意目標と「できる」という運動目標については普通、「まなぶ」という認識目標と「まもる」という社会的行動目標については高いという傾向が見られた。学び方を理解し、学習には一生懸命に取り組んでいるが、運動ができるという自信が持てない女子生徒が多いようである。バドミントンの学習経験は出身中学校によって異なり、全く経験のない生徒も見られる。

(イ) 学習のねらい(評価規準)の設定

表 22 バドミントンの評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元 の 評 価 規 準	バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目し、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わえるようにする。 また、自分の役割を受け止め、協力しようとするとともに審判の判定や指示に従い、勝敗の結果を受け止めようとする。 さらに、活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。	自分やパートナーとの連携の仕方に適した課題を設定し、その課題を解決するための方法を選んだり、見つけたりする。 相手との攻防に合った作戦を立てたり、練習やゲームで新しい課題を選んだり、見つけたりする。	各種フライトやサーブの技能、パートナーとの連携の仕方を身に付け、練習やゲームをすることができきる。	バドミントンの特性や学び方、個人的な技術やパートナーとの連携の技術の構造、合理的な練習の仕方、ゲームや審判法の方法を言ったり、書き出したりしている。

(ウ) 学習の道すじと評価計画の作成

表 23 具体的評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
学習活動における具体的評価規準	<p>バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。</p> <p>A)バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に自ら進んで取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。</p> <p>練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。</p> <p>A)練習やゲームで、自分の役割を果たしながら、協力して励まし合いや教え合いをしようとする。</p> <p>審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとしている。</p> <p>A)ルールを守り、自ら進んで受け入れようとしている。</p> <p>活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとしている。</p> <p>A)自ら活動場所の安全を確かめ、仲間の健康安全にも留意しようとしている。</p>	<p>練習やゲームで自分の課題を選んでいる。</p> <p>A)練習やゲームで自分に適した課題を見つけている。</p> <p>課題を解決する方法を提示したものなどから選んでいる。</p> <p>A)課題を解決する適切な方法を見つけている。</p> <p>練習内容の見直しや新たな方法を提示したものの中から選んでいる。</p> <p>A)練習内容の見直しや新たな方法を見つけている。</p>	<p>クリアー・ドロップ・スマッシュ及びサービスが打てる。</p> <p>A)クリアー・ドロップ・スマッシュ及びサービスがタイミングよく打てる。</p> <p>相手の攻撃をリターンできる。</p> <p>A)相手のいないスペースを見つけてリターンできる。</p> <p>ダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションの動きができる。</p> <p>A)相手の攻撃や守備に応じたフォーメーションの動きができる。</p>	<p>バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>A)バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを説明している。</p> <p>バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>A)バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を説明している。</p> <p>ゲームの運営やルール、審判の方法を言ったり、書き出ししたりしている。</p> <p>A)ゲームの運営やルール、審判の方法を説明している。</p>

表 24 単元計画(領域:球技 単元:バドミントン)

分	1時	2・3・4・5・6時	7・8・9・10時	
	ねらいと活動			
10	<p>《オリエンテーション》 学習のねらいや道すじ、具体的な進め方を理解する。</p> <p>視聴覚教材を使い、バドミントンの競技・特性についての導入を行う。</p> <p>学習上の約束と用具の準備やマナー・安全への配慮について理解する。</p> <p>用具の名称・内容の確認</p> <p>学習カードの使い方と活用方法について理解する。</p>	<p>ねらい1 基礎知識を理解するとともに、いろいろな基本的な技能を身に付ける。学習上の約束とマナーの確認、安全に対する注意事項を知る。今できる技能を使って簡易ゲームを楽しむ。 セッティング(ボール、ネット、シャトルの用意) 体づくり運動(ウォーミングアップ) ラケットとシャトルに慣れる練習(ラケットの握り方、シャトルすくい、シャトルをラケットの上のにせる、直上打ち上げ、ラケットによるシャトルキャッチ、ラケットの振り方) フットワーク(前後、左右、ななめ) 基本的技能の練習(クリアー、ドロップ、ドライブ、ヘアピン、ブッシュ、スマッシュ) フォアハンド・バックハンドの練習(シャトルノック手投げ・ラケット出し) サービスの練習(ショート・ロング) 簡易ゲーム1 (コートを半面に分けてのシングルゲーム) ・サブ権ありの3点先取制(7ジャッジ) ・時間の許す限り試合を行う。 簡易ゲーム2 (コートを半面に分けてのシングルゲーム) ・サブ権ありの5点先取制(7ジャッジ) ・リーグ戦を行い、記録表に記入。 協力をして後片付けを行う。</p>	<p>ねらい2 種々の練習により基本的な技能を身に付ける中で、個人の課題に応じて工夫して取り組む。ゲームをする中で練習の成果を確かめ、パートナーとも話し合いながらラリーを楽しむ。 セッティング(ボール、ネット、シャトルの用意)準備運動(ウォーミングアップ) 2人組を作り、ウォーミングアップをかねて各種ショットの練習。(今まで行った基本的技能を使う。) ダブルスのルールの説明 審判方法の説明 試しの試合(ウォーミングアップを行っている人とペアを組む。) ダブルスフォーメーションの説明。(試しのゲームを行った結果と反省や疑問等を踏まえての説明) ダブルスの試合 ・ペアはくじ引きによって決定。 ・5点先取 ・審判は試合を行っていない2チームで行う。 作戦タイム (試合の結果の反省や今後の作戦を立てる。) 協力をして後片付けを行う。 (学習カード提出は2日後なので、記入はそれまで行う。)</p>	<p>《まとめ》 ビデオ等の視聴覚教材を見ての反省と振り返り。 学習のまとめ ・バドミントンの特性に触れ、仲間と楽しく学習できたか。 ・ゲームや練習の仕方を工夫することができたか。 ・学習の進め方を理解し、自己やチームの課題解決に向けての取り組みができたか。 ・自己やダブルスでの技術が向上したか。 ・マナーや競技規則を守り、安全に留意して学習できたか。</p>

表 25 観点別評価規準表 第1学年 単元(バドミントン)

具体的評価規準		具体的活動内容	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況(生徒への手立て)
関心・意欲・態度	バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。	簡易ゲーム ダブルスの試合 作戦タイム	バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に自ら進んで取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。	バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。	技能の未習得が原因と考えられるケースがあるので、個人的な会話を通して欠点を探りアドバイスを する。
	練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。	基本技能の練習 簡易ゲーム ダブルスの試合	練習やゲームで、自分の役割を片しながら、協力して励まし合いや教え合いをしようとする。	練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。	ダブルスにおけるチームワークとコミュニケーションの大切さを説明し、体づくり運動を通して仲間作りの機会を設ける。
	審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとしている。	ダブルスの試合	審判の判定や指示に冷静に対処し、どのような相手に対しても意欲的にゲームに取り組みようとしている。	審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとする。	ルールの必要性を説明し、集団活動とその社会性等を理解させる。
活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとしている。	セッティング 準備体操 簡易ゲーム 基本技能の練習	自ら活動場所の安全を確かめ、仲間の健康安全にも留意しようとしている。	活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。	準備運動不足から大きな怪我につながることやラケットを振る危険性などを客観的に授業を見させ、その危険性を認識させる。	
思考・判断	練習やゲームで自分の課題を選んでいる。	簡易ゲーム ダブルスの試合 作戦タイム	練習やゲームで自分に適した課題を見つけている。	練習やゲームで自分の課題を選んでいる。	個人技能やゲームでの様子を解説し、課題の発見を導き出せるよう助言する。
	課題を解決する方法を提示したものなどから選んでいる。	簡易ゲーム ダブルスの試合 作戦タイム ダブルスの練習	課題を解決する適切な方法を見つけている。	課題を解決する方法を提示したものなどから選んでいる。	個人技能についてうまくいかない部分をアドバイスし、その課題解決に向けての練習法などの資料を提供する。
	練習内容の見直しや新たな方法を提示したものの中から選んでいる。	作戦タイム ダブルスの練習	練習内容の見直しや新たな方法を見つけている。	練習内容の見直しや新たな方法を提示したものの中から選んでいる。	ダブルスにおいてはそのパートナーと共に目標に応じた練習法を選択しているかどうかを確認させ、話し合いの場を設け、学習ノートや教科書を使って考えさせ、場合によってはアドバイスを与える。
運動の技能	クリアー・ドロップ・スマッシュ及びサービスが打てる。	基本的技能練習 各フライトやフットワーク・サーブ等の練習	クリアー・ドロップ・スマッシュ及びサービスがタイムよく打てる。	クリアー・ドロップ・スマッシュ及びサービスが打てる。	個人技能については周囲がアドバイスを積極的に行うような雰囲気作りをし、場合によっては配慮しながらの個別指導を行う。
	相手の攻撃をリターンできる。	簡易ゲーム ダブルスの練習	相手のいないスペースを見つけてリターンできる。	相手の攻撃をリターンできる。	勝敗に固執することなく、失敗を恐れないように助言する。実際にショットが決まったときの効果を体験させる。
	ダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションができる。	ダブルスの練習 ダブルスの試合	相手の攻撃や守備に応じたフォーメーションができる。	ダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションができる。	声におけるコミュニケーションの大切さを体験させ、ダブルスにおけるフォーメーションの重要性を説明する。
知識・理解	バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出したりしている。	オリエンテーション 学習ノート	バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを説明している。	バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出したりしている。	個人的に会話をしながら原因を探り、ゲームや練習法を工夫して楽しむことのできる雰囲気作りを努める。
	バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を言ったり、書き出したりしている。	ダブルスの試合 学習ノート	バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を説明している。	バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を言ったり、書き出したりしている。	学習ノートや教科書を使ってルールの確認を行わせ、周囲には相互指導ができるように助言する。
	ゲームの運営やルール、審判の方法を言ったり、書き出したりしている。	作戦タイム ダブルスの練習 学習ノート	ゲームの運営やルール、審判の方法を説明している。	ゲームの運営やルール、審判の方法を言ったり、書き出したりしている。	学習ノートや教科書を使ってフォーメーションを理解させ、その練習法をチームやダブルスで話し合いを持つような機会を与える。

表 26 指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
1	《オリエンテーション》 学習のねらいや道すじ、具体的な進め方を理解する。 視聴覚教材を使い、バドミントンの競技・特性についての導入を行う。 学習上の約束と用具の準備やマナー・安全への配慮について理解する。 用具の名称・内容の確認 学習ノートの使い方と活用方法について理解する。				バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出したりしている。 (A)バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを説明したりしている。	【知識・理解】 バドミントンの特性を「スピードに緩急をつけたりしながら、相手の予測をはずし、ラリーを楽しむ」等の記述がある等。 (学習ノート・観察)
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	ねらい1 基礎知識を理解するとともに、いろいろな基本的技能を身につける。学習上の約束とマナーの確認、安全に対する注意事項を知る。今できる技能を使って簡易ゲームを楽しむ。 セッティング(ボール、ネット、シャトルの用意) 準備運動 体づくり運動 ラケットとシャトルに慣れる練習 フットワーク(前後、左右、ななめ) 基本的技能の練習 フォアハンドストローク・バックハンドストロークの練習(シャトルノック手投げ・ラケット出し) サーブの練習 簡易ゲーム 後片付け まとめ	活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとする。 (A 自ら設備の点検やゲーム時の安全確保に向けて周囲へ声をかけたり、気を配ったりする。) バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。 (A、バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して、自ら進んで学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。)	練習やゲームで自分の課題を選んでいる。 (A 練習やゲームで自分の課題を見つけている。) 課題を解決する方法を提示したもののなどから選んでいる。 (A 課題を解決するための適切な方法を見つけたり、考え出したりしている。)	クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサーブが打てる。 (A クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサーブがタイミングよく打てる。) 相手の攻撃をリターンできる。 (A相手の攻撃に応じたリターンができる。)	バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を書き出したりしている。 (A)バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を説明している	【関心・意欲・態度】 用具の準備・片付けをしている等。(観察) コート調整等を図りながら、試合を行っている等。(観察) 「学習した技能を使って試合ができてうれしい」「パートナーと連携ができて楽しい」等の記述。(学習ノート) 個人的な技能を獲得していく学習やパートナーとの連携を身に付けていく学習を、意欲的に行っている等。(観察) 【思考・判断】 自己の技能の自己採点と反省、今後の課題等の記述。(学習ノート) 【運動の技能】 各種のショットがラケット面に当たり、相手コートに返っている等。(観察) 相手から返ってくるシャトルを各種技能を使って打ち返すことができる。(観察)
13 14 15 16 17 18 19	ねらい2 種々の練習により基本的技能を身に付ける中で、個人の課題に応じて工夫して取り組む。ゲームをする中で練習の成果を確かめ、パートナーとも話し合いながらラリーを楽しむ。 セッティング(ボール、ネット、シャトルの用意) 準備運動 2人組を作り、ウォーミングアップをかねて各種ショットの練習。(今まで行った基本的技能を使う。) ダブルスのルール・審判法の説明 試しの試合 ダブルスフォーメーションの説明。 ダブルスの試合 作戦タイム(試合の結果の反省や今後の作戦を立てる。) 後片付け まとめ	練習やゲームを通して、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。 (A 練習やゲームを通して、相手の立場を配慮しながら、励ましたりしようとする。) 審判の判定に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとする。 (A 審判の判定に従い、勝敗や結果を自ら進んで受け入れようとする。)	練習内容の見直しや新たな練習方法を提示したもののの中から選んでいる。 (A 発見した課題に合わせた練習内容の見直しや新たな練習方法見つけている。)	ダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションの動きができる (Aダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションの動きがスムーズにできる。)	ゲームの運営やルール、審判方法を言ったり、書き出したりしている。 (A)ゲームの運営やルール、審判方法を説明している。 ゲームの運営やルール、審判方法について、言ったり、書き出したりしている。 (学習ノート・問いかけ・観察)	【関心・意欲・態度】 教え合ったりして互いに協力しながら、練習やゲームをしようとしている等。(観察) 審判の判定に素直に従っているか。正しいマナーで活動している等。(観察) 【思考・判断】 課題を解決するための練習方法について、学習資料を使い選んでいる等。(観察・学習カード) 【運動の技能】 二人の連携ができています。(観察) 攻撃・守備の形ができています。(学習ノート・観察) 【知識・理解】 ゲームのルールや審判方法について、言ったり、書き出したりしている。 (学習ノート・問いかけ・観察)

20	ビデオ等の視聴覚教材を見ての反省と振り返り。 学習のまとめ				の内容について の知識・理解	【知識・理解】 についての評価問題 (評価問題)
	・バドミントンの特性に触れ、仲間と楽しく学習できたか。 ・ゲームや練習の仕方を工夫することができたか。 ・学習の進め方を理解し、自己やチームの課題解決に向けての取り組みができたか。 ・自己やチームの技術が向上したか。 ・マナーや競技規則を守り、安全に留意して学習できたか。					

(エ) 学習資料(学習カード・評価補助簿)について

観点				関心・意欲・態度															
評価方法				(B)学習に取り組んでいる(参加して活動している)	(A)学習に自ら進んで取り組んでいる。(積極的・意欲的・粘り強くなど)	(B)自分の役割を受け入れながら協力している	(A)役割を果たし、教え合い、励まし合いながら(学習に対しての声かけなど)	(B)審判の判定に従っていたり、マナーを守っていたりする。	(A)判定を進んで受け入れていたり、マナーを進んで守っていたりする。	(B)用具の準備片付けを行っている。 コートの安全を確かめながら練習や試合を行っている。	(A)進んで(積極的に、率先して)行っている。 コートの調整を行いつながら～								
月日				/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	2	21																	
2	3	14																	
3	3	20																	
4	3	22																	
5	3	27																	

図 18 バドミントンの評価補助簿

イ 各評価時期における学習評価の結果と振り返り

(ア) 診断的評価

表 27 授業者による診断的評価結果の記録<学習開始前の評価結果と振り返り>

	具体的評価規準 <アンケート項目> (結果%)	本学習の 重点 項目	学習は じめで 確認 する 項目	評価結果を基に工夫する 学習指導の内容等	評価の振り返り		
					だ っ た か	評 価 規 準 は 適 切 だ っ た か	
関心・意欲・態度	種目特性への興味・関心 「体育の授業に関心を持ち、 取り組んでいる」 (A:21% B:58% C:21%)			関心の薄い生徒については、今もっている技能で楽しめるゲームを設定しながら取り組ませる。クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサーブの技能を身に付けさせるための練習を1単位時間の前半に行う。後半は練習した技能を使いながらシングルのゲームをコート半面を使って行い、技能の獲得状況を確認しながら楽しく練習やゲームができるようにする。			評価規準...アンケート項目が、具体的な内容について質問していないので、関心のなさが何に起因しているのかが分からない。 評価方法...一つの傾向として受け止め、再度学習のはじめで見えていく必要がある。
	学習における協力 「自己の役割を受け入れ、仲間と協力しながら練習やゲームを行っている」 (A:25% B:75% C:0%)			多くの生徒が、自己の役割を受け入れ、仲間と協力しながら体育学習に取り組んでいると考えているようだ。 仲間と課題を解決するなどの協力的な学習を位置付ける。			評価規準...質問項目も生徒の実態を捉えられる観点であったと考えられる。 評価方法...アンケート調査により、全体の傾向がつかめた。再度学習のはじめで見えていく必要がある。

	<p>勝敗や結果の受け入れ 「審判の指示に従って勝敗や結果を受け止めようとしている」 (A:75% B:25% C:0%)</p>		<p>多くの生徒が、素直に結果を受け入れていることが分かった。 ゲーム運営を自分達で行えるようにする。</p>		<p>評価規準...「受け止めようとしている」と「受け入れようとしている」との違いが明確ではなかった。 評価方法...アンケート調査により全体の傾向はつかめた。再度学習のはじめで見えていく必要がある。</p>
	<p>健康・安全への配慮 「自分の健康・安全に留意して運動しようとしている」 (A:54% B:46% C:0%)</p>		<p>多くの生徒が、健康・安全に留意していることが分かった。 セッティングや準備運動はもとより、練習やゲーム場面などの健康・安全への配慮について留意していく。</p>		<p>評価規準...「自分自身の健康への配慮」と「自分自身はもとより、仲間への配慮」の観点の違いは、生徒に理解されたようだ。 評価方法...アンケート調査により全体の傾向はつかめた。</p>
思考・判断	<p>課題の設定 「自己(チーム)の課題を考え、授業に取り組んでいる」 (A:17% B:75% C:8%) 練習方法や作戦の選択 「練習方法や作戦を提示(教科書や資料)したものの中から選んでいる」 (A:54% B:46% C:12%)</p>		<p>全種目既成の学習カード(個人カード)を使用しており、課題解決方法に関する内容の提示までは至っていなかった。 既成の学習資料だけではなく、学習の流れに沿った学習カードを作成し、課題を解決していく取り組みができるようにする。 また、学習カードについては、種目の特性に応じたカードを作成する。</p>		<p>評価規準...質問項目も生徒の実態を捉えられる観点であったと考えられる。 評価方法...アンケート調査により全体の傾向はつかめた。 評価規準...前時までの学習では、課題解決方法に関する提示までは至っていなかった。そのため、評価規準そのものがアンケート項目になり得ていなかった。 評価方法...アンケートだけでは把握できない。</p>
	<p>練習方法や作戦の振り返り 「練習方法や作戦を振り返っている」(A:38% B:58% C:4%)</p>				<p>評価規準...設問が難しかったようである。「練習方法や作戦」というように、複数の場面や質問内容にならないように留意する必要がある。今までの学習内容を踏まえた具体的な設問にしたほうが良かった。 評価方法...アンケート調査だけでは把握できない。</p>
知識・理解	<p>特性への理解 「バドミントンの特性を理解している」 (A:0% B:58% C:42%) 個人的な技術、パートナーとの連携の仕方、練習の仕方 「バドミントンの技能のポイントやダブルスのフォーメーションがわかる」 (A:12% B:46% C:42%) ゲームの運営、審判方法 「バドミントンのルールを理解している」 (A:4% B:25% C:71%)</p>		<p>多くの生徒がバドミントンについての知識がないことがわかった。基礎的な内容から学習していく。 知識としては、中学校等での学習経験が少ない状況なので、バドミントンの特性やルール、技術について基礎的な内容から学習する必要がある。学習のはじめの段階なので知識・理解度は低い。</p>		<p>評価規準...質問項目も生徒の実態を捉えられる観点であったと考えられる。 評価方法...バドミントンの特性や技術、ルールや審判法については、聞き取り調査だけでは把握できない。このような事前調査をすることによって、具体的に生徒の状況が把握できる。全体の傾向はつかめた。</p>

表 28 授業者による診断的評価の記録<学習のはじめの段階での評価結果と振り返り>

	具体的評価規準 (アンケートだけでははっきりと確認できなかった項目)	見取る場面(方法)	評価結果を基に工夫する 学習指導の内容等	評価の振り返り			診断的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)
				切 だ た か	評 価 規 準 は 適 切 だ た か	評 価 の 場 面 は 適 切 だ た か	
関心・意欲・態度	バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。	練習場面(観察) シングルス簡易ゲーム(観察) 事後(学習カード)	あえてランダムにゲームをさせることにより、その消化した試合数に取り組む状況を見ようとしたが、人数の少ない男子は女子とのゲームに消極的で消化試合数が少なくなり、適切な判断がつきにくかった。 勝敗を競わせることで興味付けを行った。生徒はその結果に一喜一憂しながら楽しんで行っていた。しかし、ゲーム結果にのみ、生徒の興味関心がいきがちになる点は配慮が必要である。				評価規準...楽しさや喜びの具体的な行動目標が定めづらい。練習やゲームの取り組み状況において、楽しさや喜びの質的な違いを設定する必要がある。 評価場面...練習や簡易ゲームで見取ることができた。 評価方法...行動観察から見取ることができた。学習カードには「楽しい」等の記述が多かったが、学習カードの記述から具体的に読み取ることはできなかった。

	練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。	練習場面(観察) シングルス簡易ゲーム(観察) 事後(学習カード)	「自分の役割」の具体的な内容が分かりづらかった。役割の内容を具体化していく必要がある。 シングルス半面の簡易ゲームは試合場所を指定していないので仲間同士調整し、かつ協力しながらゲームを消化させる。			評価規準...「自分の役割」の規準が具体的でないため、判断しづらかった。 評価場面...セッティングや準備運動、練習やゲーム場面で見取ることができた。 評価方法...主に観察で見取ることができた。 具体的な状況を示しきれなかったため、学習カードからは読み取りづらい。
	審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとしている。	シングルス簡易ゲーム(観察)	簡易ゲームをセルフジャッジで行わせ、ルールや勝敗に対しての意識付けを行った。学習の進度に合わせて、具体的なルールを適用していく。			評価規準...「受け止める」と「自ら受け入れる」の違いが明確でない。 評価場面...シングルス簡易ゲームで見取ることができた。 評価方法...観察で見取ることができた。
	活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとしている。	セッティング・準備運動、練習や簡易ゲーム(観察)	セッティングや片付けの方法を説明し、分担を決めて取り組ませた。準備運動など健康・安全に留意して活動することを確認し、取り組ませた。学習内容や進度に合わせて、留意事項をその都度確認していく。			評価規準...適切であった。 評価場面...セッティング、準備運動、練習や簡易ゲーム場面で見取ることができた。 評価方法...観察で見取ることができた。
思考・判断	練習やゲームで自分の課題を選んでいる。 課題を解決する方法を提示したものなどから選んでいる。 練習内容の見直しや新たな連練習方法を提示したものの中から選んでいる。	事後(学習カード)	学習のはじめの段階なので、適切な課題を設定できていない生徒が多い。学習カードに記入する時間を設定していく。 自己の課題が明確になるように、技能チェックカードを作成し、生徒に活用させる。また、シングルス簡易ゲームの時間を短縮する等の工夫をし、技能チェックカードを活用した練習時間を設ける。 課題を解決する方法の提示や見直しまではできなかった。			評価規準...適切であった。 評価場面...学習終了後、学習カードによりおおむね見取ることができた。 評価方法...技能課題を確認できる資料があると、より課題が明確になる。 評価規準...解決方法の提示までは至らなかった。 評価場面...評価場面を設定しなかった。 評価方法...「解決方法・練習内容の見直し」の評価はしなかった
技能	クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサーブが打てる 相手の攻撃をリターンできる ダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションができる	練習場面(観察) シングルスのトーナメント戦(観察)	学習していく技能の内容を説明し取り組ませたところ、多くの生徒はやり方を理解しようだが、実践してみると約半分の生徒ができていないようであった。 技術指導について、個々に指導していくと全体が見えづらくなってしまふ。学習ははじめということで、生徒の氏名が分かれば問題はなくなると考える。 生徒が自己評価できる技能チェック表を作成し、自分の技能課題を明確にさせ、取り組ませる。 ゲーム結果だけに生徒の興味が注がれるのではなく、現在の技能課題を明確にしていく学習であることを再度強調していく必要がある。 評価補助簿に評価観点のキーワードを入れておき、評価できるようにする。			評価規準...「打てる」と「タイミングよく打てる」の規準が明確でない。判断していくためには、肘の使い方や手首の使い方、面の当て方等、タイミングよく打てるための技術段階について順を追って見る必要がある。 評価場面...練習や簡易ゲームで見取ることができた。 評価方法...主に観察で見取るが、技能チェックカードなどを参考にすると精度が高まる。 評価規準...規準は適切と考える 評価場面...「リターン」と「連携」については評価場面を設定しなかった。 評価方法...主に観察で見取ることができると思われる。学習カードを活用すると精度が高まると考える。
知識・理解	評価場面を設定しなかった。					

評価規準は適切であったか

アンケートによる自己評価では、関心・意欲・態度の「健康・安全への配慮」についての質問に対し、回答の選択肢が、「自分自身の健康・安全への配慮」と「自分自身もより、仲間への配慮」という表現で、それぞれの違いが明確であったため、回答しやすかった。

また学習のはじめでは、「活動場所の安全を確かめる」「健康・安全に留意する」といった生徒の姿が具体的に表現されていることから評価しやすかった。

思考・判断の「課題の設定」についても、「課題を設定している」という具体的な姿を表しているため、アンケートでは回答しやすく、適切な自己評価ができ

たとえられる。そして、その評価を踏まえた教師の学習はじめの評価においても、生徒の状況を見取りやすかった。

また、「技能」の観点については、学習前の評価は行わず、学習はじめで評価を行った。「相手の攻撃をリターンできる」は、具体的な行動を表している観点であったため評価しやすかった。

知識・理解の3つの規準では、おおむね生徒の実態を捉えられたことから、評価規準に沿って作成したアンケート項目は妥当であったと考える。

これまで見てきたように、具体的な学習状況を表している評価規準であれば、生徒も自己評価しやすく、

また教師も評価しやすいと考える。

課題としては、アンケートでは、具体的な学習状況を表す設問でなかったため回答しづらいものや、設問が難しかったものもあった。設問は、複数の場面を設定したものや、漠然とした内容ではなく、具体的な学習活動が想定できる内容を表現したものが良い。

学習のはじめで評価しづらかった規準に、関心・意欲・態度の「学習における協力」と「勝敗や結果の受け入れ」、技能の「クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサービスが打てる」がある。これらは、「自分の役割」の具体的な学習活動が明確でなかったことや「受け止める」「打てる」とした「おおむね満足できると判断される」状況(B)と「受け入れる」「タイミングよく打てる」とした「十分満足できると判断される」状況(A)の違いが明確でなかったことが原因であると考えられる。

これまで見てきたように、具体の評価規準を設定する際は、行動目標的な表現や学習活動が具体的にイメージできる表現にする必要があると考える。

評価の場面は適切であったか

これから学習しようとする内容について、学習前にアンケートを実施して生徒の力を把握したことは、実態に応じた指導計画を設定する上で有効であったと考える。また、学習はじめにおいて、関心・意欲・態度の「学習における協力」や技能の「クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサービスが打てる」など、学習行動が明らかとなっている規準では、準備や片付け、練習や簡易ゲーム等の場面で見取ることができた。

規準によっては学習のはじめの段階では見取ることができないものもあったが、その内容が学習内容に現れる段階で見取ることが可能と考える。

課題としては思考・判断の観点において、学習終了後の学習ノートによる評価において、生徒がどのような過程を経て課題を設定していくのかを見取ることが難しいことがあげられる。学習後、生徒が課題をどのように設定していくのかなど、課題設定の過程を把握するためには、学習中の課題への取り組み状況も見取っていく必要がある。

評価方法は適切であったか

学習のはじめでは、生徒の現在の力を把握するためアンケート調査において、生徒の学習への全般的な傾向をつかむことができ、指導計画を見直すことに有効であったと考える。

また、学習のはじめでは、「関心・意欲・態度」「技能」の観点において、主に観察で評価をした。生徒の全体的な傾向を把握する上で、おおむね見取ることができたと考える。

課題としては、アンケートでは、全般的な傾向はつかめるが、「思考・判断」のように、課題の設定や解決方法を考えていく思考過程の評価は難しいということが挙げられる。また、具体的な設問を設定した場合、実施時間が相当にかかってしまうと思われる。調査する内容を4観点ごとに絞込み、設問については、具体的な行動を表している内容とする必要があると考える。

「関心・意欲・態度」「技能」の観点では、観察と学習カードを使って評価をしたが、観察だけでは評価できない場面が多かった。学習カードの記述内容を参考にしながら観察と合わせて評価していくなど、評価方法を組み合わせることが必要と考える。

また、学習カードは「自己評価を容易に行える」「学習した結果の振り返りが具体的にできる」「自己の課題の達成状況を確認しやすい」というポイントをおさえて作成することが必要だと考える。

診断的評価について(まとめ)

以上のように、評価規準、評価場面、評価方法について分析・考察を進めてきた結果、診断的評価について次のことが明らかになった。

- ・学習前に実施したアンケート調査によって、生徒の全体的な傾向を把握することができ、学習過程や学習内容を見直すことができた。
- ・学習のはじめでは、学習前に実施したアンケート調査で判断できなかった技能などの観点を観察により把握でき、学習内容や学習資料を修正していくことができた。

(イ) 形成的評価

表 29 授業者による形成的評価の記録 < 評価結果と振り返り >

	具体の評価規準	見取る場面 (方法)	指導およびねらいの達成状況	評価の振り返り					C「努力を要する生徒」への手立てはどうだったか
				評価規準は適切だったか	評価の場面は適切だったか	評価の方法は適切だったか	評価規準に基づいて評価できたか	形成的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)	
関心・意欲・態度	バトミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。	ダブルスの試合・作戦タイム (観察・学習ノート)	楽しさ・喜びをどのように表現してよいかわからない生徒が多く見られたため、喜びを表現するためにハイタッチをしようなど、パートナー同士で喜びを表現する方法をルール化した。					評価規準・評価の規準が明確でない。また、楽しさ喜びには様々な要因(人間関係がうまくいかない、技能が未熟で楽しめないなど)が影響している。特に形成的段階では楽しさ喜びを味わえない原因を捉え、改善していくための評価活動が行われるべきである。 評価場面・喜びの表現方法をルール化したため見取る場面を設定しやすかった。断片的に見るのではなく、継続的に見ていく必要がある。 評価方法・喜びの表現方法をルール化したため観察しやすかった。しかし、観察だけでは見取れない面もある。 評価できたか・活発な生徒に高い評価が行きがちであり、おとなしい生徒の情意面を観察で見取るとは難しいと感じた。	楽しさや喜びをどの様に表現してよいか分からない生徒が見られた。ハイタッチなど表現方法をアドバイスした。
	練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。	基本技能の練習・ダブルスの試合 (観察)	学習の内容やそれぞれの役割を確認していくことで、何をすればよいか理解することができた。					評価規準・さらに「役割」の取り組みの姿を具体化する必要がある。 評価場面・練習や試合の場面で見取ることができた。 評価方法・観察で見取ることができた。 評価できたか・おおむね評価できたが、取り組みの姿をさらに具体化することによって評価しやすくなる。また、技術面の理解が深まるとともに、教えあい活動が活発に行われていくと思われる。	観察をしながら声かけをし、学習ノートにコンピネーションの重要性を記入した。
	審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとしている。	ダブルスの試合 (観察)	ルールの理解が十分ではなかったため、ルールの説明をし、練習試合の中で審判の練習を繰り返し行った。					評価規準・「受け止める」と「自ら受け入れる」の違いが明確ではなかった。具体的行動例に置き換え、評価規準を明確にする必要がある。 評価場面・場面は適切であった。 評価方法・方法は適切であった。 評価できたか・評価規準が明確でなく、評価しにくかった。	声かけ
	活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとしている。	セッティング・準備運動・練習・ゲーム (観察)	観察で見取ることができたため、不十分な点は声かけをしようとした。					評価規準・評価規準は適切であった。 評価場面・セッティングや準備運動の場面では観察できるが、練習場面や試合の場では評価しにくい。 評価方法・方法は適切であった。 評価できたか・観察で見取ることができたが、学習ノート等へ記入することによって、健康・安全への意識化を図っていきたい。	
思考・判断	練習やゲームで自分の課題を選んでいる。	学習ノート・技能チェック表	技能チェック表への記入により、自分の課題を確認することができた。					評価規準・規準は適切であった。 評価場面・授業後の学習ノートの読み取りだけでなく、活動場面でのアドバイスが有効であった。 評価の方法・適切であった。 評価できたか・評価することはできた。技能の段階を追った技能チェック表の作成が大切である。	練習の場面で課題発見の手がかりをアドバイスした。
	課題を解決する練習方法を提示したのだから選んでいる。	学習ノート(記述)練習場面(観察)	技能チェック表とテキストブックを配付し、課題解決のための練習方法を提示した。しかし、活動欲求が優先し、配付されたテキストを見ている生徒は少なかった。					評価規準・規準は適切であった。 評価の場面・場面は適切であった。 評価の方法・学習ノートの記述方法など工夫を要する。 評価できたか・規準・場面・方法はおおむね適切であった。多くの生徒は今までの学習の中で行われた練習方法を選び、すぐに活動に移った。活動を妨げないように、資料やテキストをどのタイミングでどのように提示していくかが、学習効果を高めるポイントになると思われる。	

技能	クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサービスが打てる。	練習場面・試合（観察） 技能チェック表	段階を追った技能チェック表に記入することによって、技能のポイントは理解できていた。しかし、自己評価の判断基準に個人差を感じた。			評価規準・規準は適切であった。 評価場面・練習や試合の場面で見取ることができた。 評価方法・観察による見取りはできた。技能チェック表に記入していくことで、自分でも技能の上達を感じられたようだ。 評価できたか・おおむね評価できたが、技能チェック表による自己評価と教師の評価の整合性をみながらチェックする必要がある。ショットごとの評価補助簿が必要になる。また相互評価もあわせて行うことが、効果的であると思われる。	個別に声をかけをし、技能チェックの確認や具体的な練習方法を提示した。また、学習ノートにコメントを記入し指導をした。
	相手の攻撃をリターンできる。	練習場面・試合（観察）	試合の場面で見取ることができた。決まらなくても試そうとしていることを評価していきたい。			評価規準・規準は適切である。 評価場面・練習と試合の両方の場面で見取ることが必要である。 評価方法・観察は適切である。 評価できたか・相手の攻撃によって技能レベルが変わる。試合場面では条件が異なり、一律評価することは難しい。練習場面での評価が必要となる。	
	ダブルスにおいてパートナーとの連携が取れている。	ダブルスの試合（観察）	ダブルスの連携について説明。経験のない生徒にとっては、動きが難しいため、空いているスペースをカバーしているかどうかの1点に絞った。			評価規準・どの程度できていればAかBかの違いがわかりにくかった。パートナーとの連携について評価の規準をさらに具体化していく必要がある。 評価場面・適切であった。 評価方法・適切であった。 評価できたか・空いているスペースをカバーしているかどうかを見取ることができたが、「おおむね満足」と「特に優れている」との違いが明確でなかった。	
知識・理解	バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出した入りしている。	練習場面・試合（観察） 学習ノート 知識テスト	ダブルスの試合では必ず審判を行い、理解できていない生徒にはお互い教えあうように指導。練習場面や試合の中で観察できた。しかし、学習ノートの自由記述の中では読み取ることができなかった。			評価規準・規準は適切であった。 評価場面・技能評価と重なる場面が多く困難であった。 評価方法・観察だけでは十分に評価できなかった。 評価できたか・審判法やルールの理解度を試合の中から観察して評価することはできるが、試合中は他の観点を見ることが優先されるため、同時に観察することは難しい。また、学習ノートに審判について自由に書かせた場合、知識・理解として評価できなかった。小テストや定期テストなどルール・審判についての作問をし、理解度を確認する必要がある。	小テストの結果、理解できていなかったところを個別に説明したり、練習試合の時、理解できている生徒と審判と一緒に組ませ教え合いができるようにしたりした。
	バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を言ったり、書き出した入りしている。	練習・ゲーム終了場面					
	ゲームの運営やルール、審判方法を言ったり、書き出した入りしている。						

評価規準は適切であったか

診断的評価を踏まえ、生徒の実態に即した評価規準を作成したことによって、おおむね適切な評価規準を設定することができた。

「楽しさ・喜び」「勝敗や結果の受け止め」(関・意・態)の情意面の評価は、教師の主観的な評価に陥りやすく、ねらいに対する実現状況の段階も明確でなかった。また、「パートナーとの連携」(技能)についても実現状況の段階が不明確であった。それぞれの学習場

面における生徒の具体的な行動例を挙げ、評価の段階を明確に示す必要がある。特に「楽しさ・喜び」に関する指導に当たっては、現れた行動の背景にある要因をとらえ、指導に生かしていかなければならない。

評価の場面は適切であったか

評価の場面については全てにおいて、おおむね適切であったと判断できた。「関心・意欲・態度」「技能」については、練習や試合の活動場面での観察から見取ることが容易であり、継続的に評価していくことで、

より正確に評価することができる。

「バドミントンについての知識・理解」については、試合の様子から見取ろうとしたが、技能評価と重なる場面が多く困難であった。試合終了時に口頭で質問するなど、他の場面での評価も工夫する必要がある。

評価方法は適切であったか

成果として挙げられることは、評価方法はおおむね適切と判断できたことである。「関心・意欲・態度」「技能」については、練習や試合の活動場面での観察から見取ることができた。また、技能の段階を示した資料等を用いた生徒への自己評価は、的確に行われ、この結果を教師の評価に活用することができた。

「関心・意欲・態度」については観察法が有効であったが、うまく自己表現ができない生徒の情意面を十分に見取ることができなかったことが挙げら

れる。観察法だけでなく、学習ノートへの記述や発言などからも評価する必要がある。「思考・判断」「知識・理解」の評価方法は、学習ノートやペーパーテストなどが中心となるが、どのような思考や知識を求めるのか、そのねらいを明確にして指導することが必要である。

形成的評価はどうであったか(まとめ)

形成的評価において、学習内容の習得状況を明らかにするためには、各学習場面における生徒の具体的行動例を基にわかりやすい評価規準を作成することが重要であることを再認識することとなった。また、学習のねらいを達成するためには、指導のタイミングを考えた評価計画が必要であることが示唆された。

(ウ) 総括的評価

表 30 授業者による総括的評価の記録<評価の結果と振り返り>

	具体的評価規準	見取る場面(方法)	学習のねらいの達成状況	評価の振り返り					C「努力を要する生徒」への手立てはどうだったか
				評価規準は適切だったか	評価の場面は適切だったか	評価の方法は適切だったか	評価規準に基づいて評価できたか	総括的評価が有効に機能したか(具体的内容・理由・その他)	
関心・意欲・態度	バドミントンの個人的な技能とパートナーとの連携の仕方に着目して学習に取り組み、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わおうとする。	簡易ゲームダブルスの試合 作戦タイム (観察) (学習ノート)	結果として、どの生徒も意欲的にゲームに取組み、おおむね全員が満足できる状況であった。 今回は得点をした際のパートナー同士の喜びの表現をルール化したのが、パートナーを換えて試合を行ってもほとんどの生徒が最後まで継続をして行っていた。(全・後)					評価規準...ここでは、学習に取り組んでいる状況であれば「おおむね満足できる状況」とし、個人的技能を意欲的に高めようとしていたり、パートナーとの連携を積極的に行動しようとしていたりする状況については「十分満足できる状況」として判断した。評価規準は適切であった。 評価場面...練習やゲーム場面で見取ることができた。 評価方法...主に観察で見取ることができた。学習ノートに関しては、生徒が何に関心を持っているのかを判断する目安となった。 評価できたか...おおむね評価できた。学習の積み重ねにより身に付く力であるので、学習全体を通じて評価をした。また、パートナーとの連携については、学習の後半に評価した。	取り組めない生徒はいなかった。学習のはじめで、どのように取り組めばいいのか戸惑っていた生徒については、再度学習の内容を説明し、取り組ませた。パートナーとの連携では、男女で組むと恥ずかしさからぎこちないペアもあったが、周りの生徒のほとんどができていたため、声をかけにより解消された。
	練習やゲームで、自分の役割を受け入れながら協力しようとする。	基本技術の練習 簡易ゲーム ダブルスの試合 (観察)	おおむね全員が満足できる状況であった。 ダブルスの試合を多く重ねていくうちに自然と声かけや教え合いなどができるようになった。(全)					評価規準...協力している状況と積極的に仲間やパートナーに声かけしている状況で判断できた。 評価場面...練習やゲーム場面で見取ることができた。 評価方法...観察で見取ることができた。生徒の自己評価を参考にして観察していくことにより、精度が高まると思う。 評価できたか...おおむね評価できた。一場面だけでは評価できないので、学習全体を通じて評価した。	協力する内容が分からない生徒には、声をかけ合う視点を説明して取り組ませた。

関心・意欲・態度	審判の指示に従い、ルールを守り勝敗や結果を受け止めようとしている。	ダブルスの試合 (観察)	全員が満足できる状況であった。 (全)			評価規準...「受け止める」と「受け入れる」の違いが明確ではなかった。進んで受け入れたときの状況を具体的ににする必要がある。 評価場面...特にゲーム場面で見取ることができた。 評価方法...観察で見取ることができた。自己評価を参考にして観察していくことにより、精度が高まると思う。 評価できたか...おおむね評価できた。ゲームの一面面だけでは評価できないので、学習全体を通して評価した。	全員がおおむね満足できる状況であった。
	活動場所の安全を確かめ、健康・安全に留意しようとしている。	セッティング準備体操 練習・ゲーム (観察)	セッティングや準備運動の実施、練習やゲームへの安全への配慮については、おおむね全員が満足できる状況であった。 (全)			評価規準...自分自身の健康・安全への配慮と周りへの配慮やコートへの配慮など、自分以外への配慮の判断がつきにくかった。 評価場面...セッティングや準備運動の場面で評価できた。また、試合や練習でも周りに気を配る態度や試合中のコートへの配慮などから評価が可能であった。 評価方法...観察で見取ることができたが、周りへの配慮については、具体的な取り組みを学習ノート等で記録し、それを参考にして評価したほうがよい。 評価できたか...おおむね評価できた。学習後半の取り組み状況だけでは判断できないので、学習全体を通して評価した。	全員がおおむね満足できる状況であった。
思考・判断	練習やゲームで自分の課題を選んでいる。	練習・ゲーム (観察) (学習ノート)(技能チェック表)	おおむね満足できる状況ではあった。技術チェック表を毎回使用したが、もう少し回数を少なくして、その都度課題を設定させたほうが良かった。 (全)			評価規準...技術チェック表の内容をそのまま課題として捉えている場合とより具体的に設定している場合とで判断できた。 評価場面...技術チェック表を毎回書かせていたが、もう少し回数を少なくしてその都度課題を設定させたほうが良かった。 評価方法...観察だけでは見取ることができない。学習ノートを活用したが、課題を具体的に設定するためには書式を再考するべきだった。 評価できたか...おおむね評価できた。	
	課題を解決する方法を提示したものなどから選んでいる。	練習・ゲーム (観察) (学習ノート)	おおむね満足できるが、本来はもう少し達成目標を高くしたかった。 (後・全)			評価規準...全ての生徒が提示したもの中から選択できていた。生徒の実態を考えると、自ら練習方法を考えていけると思う。学習内容を含めて、評価規準をもう少し高める必要があった。 評価場面...個人的な技能やパートナーとの連携の仕方を身に付けていく練習場面で評価できた。 評価方法...学習ノートに記述された内容を参考に、観察で見取ることができた。 評価できたか...おおむね評価はできた。学習内容に合わせて、技能チェック表や学習ノートの書式を作成するとより効果的である。	
運動の技能	練習内容の見直しや新たな練習方法を提示したものの中から選んでいる。	学習ノート 練習 (観察)	今回はできませんでした。作戦タイムの場面をゲームの中で多く取り入れられなかったのが残念であった。			評価できたか...学習場面がなかった。 1年生の段階では、課題解決へ向けた取り組みと成果の確認までとし、具体的な練習方法の工夫は2年次で行っていきたいと考える。3年間を見通した学習内容と評価規準の設定が必要である。	
	クリアー、ドロップ、スマッシュ及びサービスが打てる	練習・ゲーム (観察) (技能チェック表) (学習ノート)	おおむね全員が満足できる状況であった。 (全)			評価規準...技能チェック表を基にした評価規準であるので、生徒にも理解されやすかった。 評価場面...各種練習やゲームの場面で見取ることができた。 評価方法...練習やゲームの中で十分に観察できた。また、技術チェック表だけでは評価が難しく、教員の技術評価と整合性をみながら評価しなければならぬ。目標や学習の達成状況を確認する上で、スキルチェック等を行うことも効果があると思う。 評価できたか...ねらい1の練習と簡易ゲームの場面で評価できた。	技能チェック表を活用させて、技能の段階を確認させた。また、ラケットの扱い方や体の使い方について、個別指導を行った。

	相手の攻撃をリターンできる	ゲーム (観察)	おおむね全員が満足できる状況であった。 リターンについて失敗しても良いという事や課題を与えることによって取り組み方が積極的になった。(全)				評価規準...リターンができることによってゲーム内容が高まった。また、相手の攻撃についても意識することから、評価規準は適切であった。 評価場面...各種ゲームや練習場面で見取ることができた。 評価方法...ゲーム場面で、観察によって見取ることができた。 評価できたか...ねらい1の簡易ゲームとねらい2のダブルスのゲームで見取ることができた。	勝負だけにこだわらないことを指導した。
	ダブルスにおいて、パートナーと決めたフォーメーションができる	ダブルスの試合 (観察)	パートナーとの連携の仕方については、生徒の習得状況をみながら段階的に指導ができ、また生徒もおおむね満足できる状況であった。 (全)				評価規準...連携の仕方を説明し、どういった状況がスムーズなのかを理解させたことから、生徒も意識して取り組んでいた。また、評価規準も適切であった。 評価場面...ねらい2の練習やゲーム場面で見取ることができた。 評価方法...観察によって見取ることができた。また、学習ノートの自己評価も参考にし、評価すると精度が高まると思う。 評価できたか...段階的に課題を設定することによって、評価しやすくなった。	学習ノートへの記載。試合中の助言
知識・理解	バドミントンはシャトルのスピードに緩急をつけたり、相手の予測をはずしたりしてラリーを楽しむ特性があることを言ったり、書き出したりしている。	学習ノート 練習場面 試合(観察)	おおむね全員が満足できる状況であった。(全) ほとんどの生徒が、ただ打ち合うという状況ではなく、相手のいないところを狙う姿勢や各種のショットを打とうとしていた。				評価規準...規準は適切であった。 評価の場面...練習・試合の場面を観察で見取ることができた。 評価の方法・学習ノートでは「楽しい」等の記述は多いが、知識・理解についての記述が明確でなく評価はしにくかった。 評価できたか・学習ノートからは読み取れず、観察だけでも評価がつけにくいのではないかと思う。知識テストだけでも項目が少なく判断しづらい。独自で設問を作成する必要がある。学習ノートでは判断できないので知識テストを行う事によって、知識・理解の評価をすることができた。	
	バドミントンの個人的な技術やパートナーとの連携の仕方、合理的な練習の仕方を言ったり、書き出したりしている。	学習ノート 練習場面 試合(観察)	学習ノート等から判断できなかった。				評価規準...規準は適切であった。 評価の場面...練習・試合の場面を観察で見取ることができた。 評価の方法・学習ノートでは、評価規準についての記述が明確でなく判断できなかった。 評価できたか・学習ノートからは読み取れず、観察だけでも評価がしにくかった。学習ノートでは判断できないので知識テストを行う事によって、知識・理解の評価を行うことができた。	
	ゲームの運営やルール、審判方法を言ったり、書き出したりしている。	学習ノート 練習場面 試合(観察) 知識テスト	学習ノート等から判断できなかったが、事後アンケートや知識テストから判断しておおむね満足できた。 (後)				評価規準...規準は適切であった。 評価の場面...練習・試合の場面、最後のまとめの場面でおおむね評価できた。 評価の方法・学習ノートでは、評価規準についての記述が明確でなく判断できなかった。アンケートや知識テストは有効であった。 評価できたか・学習ノート等から判断できなかったが、事後アンケートや知識テストから判断しておおむね満足できた。	

達成状況の欄は、最後の授業で判断したものは(後)、単元を通して判断したものは(全)を記入する。

評価規準は適切であったか

成果としては、形成的評価において明確にならなかった規準に修正を加えたことで、実現状況を確認することができた。具体的には「楽しさ・喜び」や「受け止める」については、学習の取り組み状況を、行動目標的な内容に置き換えることで、判断がつきやすくなった。

課題としては、「健康・安全への配慮」(関・意・態)について「おおむね満足」と「十分満足」の違いが明確でなかったことが挙げられる。また、「課題解決の

方法の選択」(思・判)では、生徒の実態と教師の分析に誤差があり、総括的評価を行った結果、1学年の段階での規準としては低い内容であったと思われる。

評価の場面は適切であったか

成果としては、「関心・意欲・態度」「思考・判断」の観点を、断片的に見るのではなく継続的に見ていくことによって精度が高まった。「技能」「知識・理解」については、その学習活動の総括的時期に評価を行うことによって達成度を評価することができた。

評価方法は適切であったか

成果としては、学習内容に合った評価方法(学習ノートや技能チェック表)を事前に準備しておくことで、おおむね予定通りの評価活動はできた。

練習や試合の様子を観察で見取ること、学習ノートや技能チェック表で読み取るとは、総括的評価においても有効な評価方法であった。しかし、1つの評価方法では不十分であり、いくつかの方法を組み合わせることで評価の精度が図れると思われる。

総括的評価はどうであったか(まとめ)

総括的評価は学習のねらいに照らして指導の経過や結果のまとめを行うものであるが、診断的評価結果に基く評価規準の作成、形成的評価過程における修正によって、より精度の高いものになったと思われる。今回得られた評価結果を今後の学習に役立てていく具体的内容を考えていかなければならない。

<科目保健>

(3) 保健：社会生活と健康「環境と食品の保健」

(C高校)

ア 学習評価の計画(単元計画)の立案

(ア) 生徒の現状分析

表31 1学期保健授業の総括的評価の結果

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・4クラスとも出席状況は良好であった。(長欠1名) ・一斉授業の際の授業態度は特に問題なし。良好である。 ・グループでの討論形式では、クラス替えの後でまだ打ち解けていないせいか、最初は戸惑うグループが多かったが、打ち解けてくると意見が出始めた。特にリーダー的な存在の生徒がいる班では、活発な意見を出し合い、議論も深まっていった。逆にリーダー不在の班ではなかなか意見交換がすまなかった。(しかし提出プリントには自分の意見がしっかり記入されている)グループの仕方に工夫が必要である。 ・1学期の授業を終えての感想文を読むと、自分の体のメカニズムや受精・妊娠・出産、家族計画の意義や避妊法、人工妊娠中絶について等、自分が生きていくうえで必要なことを学び、またそのことが印象に残っているという意見が多かった。授業形態については、賛否両論あったが、グループ討議や視聴覚教材を用いた授業がおおむね好評であったと考える。 ・保健の授業が「好きでない6人」の生徒に対する働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR(受胎の神秘)について、感想についてはそれなりのことが書かれており、視聴覚教材の効果は得られていたと思われる。 ・グループ討議は、グループ間で差はあったが、仲間との意見交換から自分の適切な行動を選択したり、課題を見つけようとしたりという姿勢が随所に感じられた。 ・グループの仕方や、全員に発言の機会が与えられるような工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR(受胎の神秘)を見たインパクトはあったが、内容についての理解度に関しては、差が出ていた。記入プリントについて工夫が必要である。 ・ペーパーテスト(期末テスト)では4クラスの平均が71.6点で授業内容の知識の定着はおおむねなされていると思われる。

(イ) 学習のねらい(評価規準)の設定

表32 評価規準(単元:社会生活と健康「環境と食品の保健」)

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単元の評価規準	環境と食品の保健についての関心を持ち、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換しながら課題を見つたりして、意欲的に学習しようとしている。	環境と食品の保健について、自分の学習や経験をもとにしたり、資料や仲間の意見・考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。	環境と健康が深く関わっていること、学校や地域、労働の環境を健康に適したものにしたり、食品の安全性を確保したりする必要があることを理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
学習活動における具体の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 環境と食品の保健について、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。 環境と食品の保健について、教科書や図書室の関連資料、インターネットの関連サイトなどから情報を集めたり、調べたりしようとしている。 環境と食品の保健について、仲間の考えや意見を聞いたり、集めた資料を活用したりして、自分の意見や班でまとめたことを発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境と食品の保健について、自分の学習や経験をもとにしたり、VTRや関連資料、仲間の意見・考えなどを参考にしたりして、課題を設定している。 環境と食品の保健について、教科書や図書室の関連資料、インターネットの関連サイトなどから情報を集めたり、分析・整理したりするなど、課題を解決するための方法を考えている。 環境と食品の保健について、学習したことを日常生活に当てはめ、選択すべき行動を判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性と食品衛生行政の仕組みや、衛生管理方法、食品の安全性を確保するための情報や廃棄物対策の基本的方向等について言ったり書き出したりしている。

(ウ) 学習の道すじと学習評価計画の作成

表 33 単元計画 社会生活と健康「環境と食品の保健」

時間	ねらい	学習活動
1	学習の進め方を理解し、環境と食品の保健の現状や課題についての基本的な内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと学習の進め方を理解する。 ・VTR学習「食の安全と私達」を観る。 ・VTRの内容を学習カードに記入し、感想をまとめる。 ・学習班の編成と班内の役割分担を話し合う。
2	環境と食品の保健について基本的な内容を整理し、班ごとの課題や個人の課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と食品の保健についてのポイントを整理する。 ・班ごとに学習の課題を決める。 ・班の課題に迫るための個人の課題を設定する。
3	個人の課題に応じて課題解決のための資料を集め情報をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題を解決するための方法を班で話し合う。 ・インターネットや図書室を利用して資料を集める。 ・集めた資料から情報を収集する。
4	情報を分析し課題の解決方法を考え、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各人が調べた情報を分析し、まとめ、課題の解決を図る。 ・班で協力して次回の発表の資料を作成する。 ・発表時の役割分担と発表方法を検討する。
5	班ごとに発表し、環境と食品の保健の課題とその解決について発表し、共有化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・班の課題と調べた内容について、発表する。 ・他の班の発表を聞き、理解を深める。

表 34 目標に準拠した評価における判断の目安<第2学年 単元：社会生活と健康「環境と食品の保健」>

評価観点	学習活動	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する生徒への指導の手立て	
関心・意欲・態度	環境と食品の保健について、仲間と協力したり、意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。	積極的に発言をしたり、班の仲間にアドバイスをしたりして他の模範となって学習を進めている。(観察)(学習カード)	話し合いに参加ながら学習を進めている。(観察)(学習カード)	声かけをして活動内容に関してアドバイスをする。	
	環境と食品の保健について、情報を集めたり、調べたりしようとしている。	率先して教科書や図書室の関連資料、インターネットなどの関連サイトを利用しようとしている。(観察)(学習カード)	教科書や図書室の関連資料、インターネットなどの関連サイトを利用しようとしている。(観察)(学習カード)	声かけをしてインターネットの検索の仕方などについてアドバイスをを行う。	
	環境と食品の保健について、仲間の考えや意見を聞いたり、集めた資料を活用したりして、自分の意見や班でまとめたことを発表しようとしている。	発表資料を作成する 発表する 発表を聞く	自分の意見や班でまとめたことをわかりやすく発表しようとしている。(観察)(学習カード)	自分の意見や班でまとめたことを発表しようとしている。(観察)(学習カード)	班内の役割分担の方法についてアドバイスし、班内で協力し合って発表するよう指示する。
思考・判断	環境と食品の保健について、自分の学習や経験をもとにしたり、VTRや関連資料、仲間の意見・考えなどを参考にしたりして、課題を設定している。	各種資料を的確に分析・整理したり、仲間の意見・考えを参考にしたりして、明確な課題を設定している。(観察)(学習カード)	各種資料を参考にしたり、仲間の意見・考えを参考にしたりして課題を設定している。(観察)(学習カード)	班内の活動時に全員に発言の機会を与えるように設定し、期間巡視中にアドバイスをを行う。	
	環境と食品の保健について、教科書や図書室の関連資料、インターネットの関連サイトなどから情報を集めたり、分析・整理したりするなど、課題を解決するための方法を考えている。	調べ学習を行う 発表資料を作成する	課題の解決に向けて、率先して教科書や図書室の関連資料、インターネットなどの関連サイトを利用し、課題を解決するための適切な方法選んでいる。(観察)(学習カード)	教科書や図書室の関連資料、インターネットなどの関連サイトを利用し、課題を解決するための方法を選んでいる。(観察)(学習カード)	課題を解決するための方法についてアドバイスをする。
	環境と食品の保健について、学習したことを日常生活に当てはめ、選択すべき行動を判断している。	発表する 発表を聞く	発表において、課題の設定理由とその解決方法にも触れるとともに、学習したことを日常生活に当てはめ、今後の適切な行動選択について促している。(観察)(発表用資料)	発表において、課題の設定理由について発言があり、日常生活に当てはめ、今後の行動選択についても触れている。(観察)(発表用資料)	学習カードにアドバイスを記入する。
知識・理解	食品の安全性と食品衛生行政の仕組みや、衛生管理方法、食品の安全性を確保するための情報や廃棄物対策の基本的方向等について言ったり書き出したりしている。	VTRを観る 班で話し合いをする 調べ学習を行う 発表をする 発表を聞く テストを受ける	授業で行った内容について、しっかりと理解し、説明することができる。(学習カード)(発表用資料)(ペーパーテスト)	授業で行ったことについて、言ったり書き出したりしている。(学習カード)(発表用資料)(ペーパーテスト)	学習カードへのアドバイス。復習課題を用意し、理解を助ける。

表 35 指導と評価の計画 単元：社会生活と健康「環境と食品の保健」

時間	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準			評価方法等
		関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解	
1	環境と食品の保健1 ・学習のねらいと学習の進め方を理解する。 ・VTR学習「食の安全と私達」を観る。 ・VTRの内容を学習カードに記入し、感想をまとめる。 ・学習班の編成と班内の役割分担を話し合う。	環境と食品の保健について、仲間と協力したり、意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。		食品の安全性と食品衛生行政の仕組みや、衛生管理方法、食品の安全性を確保するための情報や廃棄物対策の基本的方向等について言ったり書き出したりしている。	【関心・態度】 観察・学習カード 【知理】 学習カード
2	環境と食品の保健2 ・環境と食品の保健についてのポイントを整理する。 ・班ごとに調べ学習の課題を設定する。	環境と食品の保健について、仲間と協力したり、意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。	環境と食品の保健について、自分の学習や経験をもとにしたり、VTRや関連資料、仲間の意見・考えなどを参考にしたりして、課題を設定している。		【関心・態度】 観察・学習カード 【思判】 学習カード
3	環境と食品の保健3 ・自分の班の課題について課題を解決するための情報を集め、まとめる。	環境と食品の保健について、情報を集めたり、調べたりしようとしている。	環境と食品の保健について、教科書や図書室の関連資料、インターネットの関連サイトなどから情報を集めたり、分析・整理したりするなど、課題を解決するための方法を考えている。		【関心・態度】 観察・学習カード 【思判】 学習カード
4	環境と食品の保健4 ・自分の班の課題について、各人が調べた情報を分析し、まとめ、課題の解決を図る。 ・次回の発表の資料を作成する。 ・発表時の役割分担と発表方法を検討する。	環境と食品の保健について、情報を集めたり、調べたりしようとしている。			【関心・態度】 観察・学習カード
5	環境と食品の保健健康5 ・自分の班の課題について、発表する。 ・他の班の発表を聞き、理解を深める。	環境と食品の保健について、仲間の考えや意見を聞いたたり、集めて資料を活用したりして、自分の意見や班でまとめたことを発表しようとしている。	環境と食品の保健について、学習したことを日常生活に当てはめ、選択すべき行動を判断している。	食品の安全性と食品衛生行政の仕組みや、衛生管理方法、食品の安全性を確保するための情報や廃棄物対策の基本的方向等について言ったり書き出したりしている。	【関心・態度】 観察・学習カード 【思判】 観察・発表用資料 【知理】 学習カード (ペーパーテスト)

(エ) 学習資料(学習カード、評価補助簿等)について

2年()組()番 【 】班
氏名()

単元：環境と食品の保健

1 日本の食 その現状

2 食をめぐる様々な問題

3 消費者にできること

4 食の安全確保

感想・今後の課題

知識・理解を深めるために、学習した内容を記録できるように配慮

今日の授業について振り返ってみましょう。 アイウの中で当てはまる項目を で囲んでください

1 始業前に授業の準備をすることができましたか。
ア 余裕を持ってできた
イ ぎりぎりだった
ウ できなかった

今日の学習の目標は?

2 学習の目標を理解して学習に取り組むことができましたか。
ア 理解して取り組んだ
イ 理解して取り組もうとした
ウ 目標を理解できず取り組もうとしなかった

3 仲間と協力したり意見を交換したりしながら学習を進めることができましたか。
ア 積極的に協力や意見交換ができた
イ 協力や意見を交換しようとした
ウ 協力ができず発言もできなかった

どんな意見が出ましたか?

4 本日の学習内容を理解することができましたか。
ア 十分理解し説明できる
イ 知識として理解している
ウ よくわからなかった

意見交換の内容を把握

図 19 保健学習カード

[年 組座席表]			教 卓			月 日()		
【関=関心、思=思考、知=知識】								
	関	思	知		関	思	知	
A				B				C
く	A			さ	C			く
ん				ん				ん
D		A		E				F
さ				く			A	さ
ん				ん				ん

「おおむね満足できる状況」をB()とし、Bは無記入。
「十分満足できる状況」をA()
「努力を要する状況」をC()として記入。

図20 観察補助簿(座席表を利用して教師用補助簿を作成。)

イ 各評価時期の学習評価結果と振り返り

(ア) 診断的評価結果の結果と振り返り

今回は授業前に「保健の授業に関するアンケート」を実施し、1学期の評価の総括と併せて生徒の実態把握を行った。このアンケートは平成14年度県立体育センター長期研修員、佐々木が作成したものを参考に、今回の単元に合った内容に編集したものである。結果は表36のとおりである。

表36 保健授業についてのアンケート調査結果

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 保健の授業に対しては、好き4%・まあまあ好き41%・あまり好きでない47%・好きでない8%であった。 授業の形態は、グループ形式での課題学習や討議、ビデオやパワーポイント等視聴覚教材を使用した授業をやりたいと答えた生徒は60%、一斉授業が40%である。 授業の中で夢中になって勉強したり、もっと知りたい・調べたい・もっと続けて勉強したいと思ったりする生徒は、25~30%である。 ふだんの生活では、自分の考えを持って行動する生徒が(時々含む)約70%いるが、学校生活において自分からすすんで行動する生徒は、約45%と少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 90%(時々55%)を超える生徒が、保健の授業は大切なことがあり、これからの生活に役に立つと感じており、新しい発見や驚きを72%(時々が約60%)の生徒が感じている。 授業の中で「なぜ」「どうして」の疑問を持ち(55%)、65%(時々50%)の生徒がそれを解決しようという姿勢がある。 グループ討議の際に、自分の意見を持ち、考えを述べ、友達の意見を聞き、自分の考えを深めることができる(65%)。 性に関する授業は、約90%の生徒が役に立つと感じているが、避妊や人工妊娠中絶、高校生のセックスなどについて自分の意見や考えを述べることができる者は、約20%で少しできるが40%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習した内容40項目についてわかる20%、だいたいわかる38%、あまりわからない32%、わからない10% 2学期に学習する内容71項目についてわかる18%、だいたいわかる32%、あまりわからない34%、わからない16% 期末テスト4クラス平均71.6点

- 保健という科目は好きですか?
1 好き 2 まあまあ好き 3 あまり好きでない 4 すきではない
- 保健の授業をどのような方法でやりたいですか?
1 一斉授業 2 討論形式 3 課題学習 4 ビデオ教材 5 その他
- 保健の授業はどのような形態でやりたいですか?
1 グループ 2 個人 3 どちらでもよい
- 保健の授業の中で夢中になって勉強することがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で「もっと知りたい、もっと調べたい」と思うことがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で「もっと続けて勉強したい」と思うことがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で「なぜ」「どうして」と疑問を持つことがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で抱いた疑問について「あっわかった」とか「ああそうか」とその疑問を解決していますか?
1 よくしている 2 ときどきしている 3 あまりしていない 4 全然していない
- 保健の授業の中で大切なことがらだと思えることがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中でこれからの生活に役立つことはありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で新しい発見や驚きがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で「あっわかった」とか「ああそうか」と思うことがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で自分の意見や考えを持つことができますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 保健の授業の中で友達の見解や考えを知って自分と同じところや違うところに気づくことがありますか?
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全然ない
- 健康についての自分の意見や考えを述べることができますか?
1 できる 2 すこしできる 3 あまりできない 4 まったくできない
- ごみ処理の過程を簡単に説明することができますか?
1 できる 2 すこしできる 3 あまりできない 4 まったくできない
- ごみ・し尿や上下水道の整備について問題点と対策を具体的に上げることができますか?
1 できる 2 すこしできる 3 あまりできない 4 まったくできない

(2クラスで実施・n=76)

図21 保健の授業についてのアンケート(抜粋)

表 37 現状分析を基に工夫する学習指導の内容

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
グループ討議やビデオ学習に興味・関心が高いので、 <u>グループ学習を中心とした授業を行い、ビデオ教材や利用したり、話し合い活動ができる学習を展開していく。</u>	課題解決学習を進めていく中で、 <u>班の課題に対する個人の課題の設定やその課題解決に向けて、様々な資料を参考にしながら学習が展開できるよう配慮する。また、グループ内の意見を参考にできるよう学習カード等を工夫する。</u>	知識・理解についてはおおむね良好であるが、さらに理解を深めていくためには、 <u>学習カードに学習した内容を記録できるように工夫が必要である。</u>

< 診断的評価の振り返り >

評価規準は適切であったか

今回アンケート項目を 3 観点で整理して調査した結果、1 学期の評価結果だけでは把握できなかった具体的内容を把握できた。このようにアンケート項目と評価規準を関連させることにより、生徒の実態をより具体的に把握できることが分かった。

評価の場面は適切であったか

単元に入る前にアンケートを実施したことにより、生徒の実態を把握でき、指導内容や学習評価に反映で

きたことはよかった。しかし、すべての単元で実施することは難しいと思われるので、単元終了後に簡単な振り返りをし、次の単元に活用できる方法を考える必要がある。

評価の方法は適切であったか

アンケートと 1 学期の評価の総括から実態を把握したが、アンケートについては項目が多すぎ集計に時間がかかったため、項目を精選する必要がある。また、すべての単元前にアンケートを実施し実態を把握するのは難しいと思われる。

評価の方法は適切であったか (まとめ)

授業前にアンケート等を実施することによって、3 観点ごとに生徒の学力を把握でき、授業で重点をおいて指導すべき点が明らかになった。また、どのような授業形態、方法を行うことが生徒の興味・関心を引き出し、意欲的な学習を展開できるかが把握できた。

以上のことから、単元計画・評価計画を立てる段階で、診断的評価によって生徒の実態を多面的に把握できたことは、指導内容や指導方法に生かすことができ有効であった。

(イ) 形成的評価

表 38 授業者による形成的評価の記録 < 評価結果と振り返り > (1 時間目)

	具体的評価規準	見取る場面 (方法)	結果及び見直し内容	評価の振り返り					
				評価規準は適切だったか	評価の場面は適切だったか	評価の方法は適切だったか	評価の基が適切だったか	評価規準を基として適切だったか	形成的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)
関心・意欲・態度	環境と食品の保健について、仲間と協力したり、意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。(アンケート: 保健の授業で自分の意見や考えを述べることができず A 14%・B 43%・C 43%)	班内の意見交換の観察	リーダー的な生徒がいる班は話がスムーズに進んでいたが、そういう生徒がいない班はなかなか話し合いに入れなかった。話し合いのポイントについてのアドバイスをもっとするべきであった。					チェックシートに緑ペンで十分満足できる状況を A、努力を要する生徒を C とした。話し合いにスムーズに入った班に関しては、そのリーダー的な生徒について十分満足できる状況とした。	授業中に声かけを行った。また、授業終了後に呼び、話をした。
		学習カードの授業後の振り返り設問 3 に対する回答	話し合いになかなか入れなかった班も最終的には意見交換に入ることができた。話し合いのポイントについてのアドバイスをもっとするべきであった。(学習カード設問 3: 仲間と協力したり意見を交換したりしながら、学習を進めることができましたか = 積極的に協力や意見交換ができた 27%、協力や意見を交換しようとした 68%、協力できず発言もできなかった 5%)				話し合いのポイントについての投げかけが足りなかったと思われる。班長の役割の重要性を感じた。	授業終了後に呼び、話をした。	
知識・理解	食品の安全性と食品衛生行政の仕組みや、衛生管理方法、食品の安全性を確保するための情報や廃棄物対策の基本的方向等について言ったり書き出ししたりしている。	学習カードの授業の振り返り設問 4 に対する回答	自己評価では全員がおおむね学習内容について理解を示している。(学習カード設問 4: 本日の学習内容を理解することができたか = 十分理解し説明できる 92%、知識として理解している 8%、よくわからなかった 0)					観察で C がついた生徒も、自己評価項目の「知識として理解している」にチェックが入り、学習カードの 1-4 への記入も少ないながらもなされていた。教師の観察と生徒の自己評価された原因を再度検討する必要がある。	授業中に声かけを数回行った。授業終了後に呼び、話をした。該当なし
		学習カードの 1-4 への記入状況	ビデオの内容 (約 20 項目) についての記載は、6-20 (平均 13.2) という結果だった。記入の仕方についての説明をもっとするべきであった。					記入項目数は、平均 13.2 であったが、記入の仕方は、細かく内容まで記載した生徒と、単語だけで終わっている生徒がいた。ビデオを見ながらの作業だったので、やむをえないところもあるが、後者については本当に学習内容を理解したかどうかという点では疑問が残った。	記入の少ない生徒に対して、学習カードへコメントした。

表 39 授業者による形成的評価の記録<評価結果と振り返り> (2時間目)

	具体的評価規 準	見取る場面 (方法)	結果及び見直し内容	評価の振り返り						
				評価規 準は適 切だ ったか	評価規 準は適 切だ ったか	評価規 準は適 切だ ったか	評価規 準は適 切だ ったか	評価規 準は適 切だ ったか	形成的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)	C「努力を要す る生徒」への手 立てはどうだ ったか
思考・判断	環境と食品の保健について、自分の学習や経験をもとにしたり、VTRや関連資料、仲間の意見・考えなどを参考にしたりして、課題の設定をすることができる。	「班の課題」「設定理由」への記入(学習カード)	「班の課題」については、すべての生徒が記入していた。「設定理由」に関しては未記入が2名いた。1名は授業中に意欲的な取り組みが見られずに、注意を促した生徒であった。					x	「日本の食 - その現状」を希望する班が4班出たため、2つの班に他の課題へ変更してもらった。積極的な変更でなかったため、設定理由に消極的な意見が書かれていたが、それについてマイナスの評価はできなかった。班の課題設定の仕方について、問題が残った。	授業終了後に呼び、話をした。
		「自分の分 担」への記入 (学習カード)	全員が記入していたが、班の中で課題が重なっている者が数名いた。						個人の課題の設定の仕方について全体に説明した。「課題の設定」の十分満足できる状況の「明確な」は、単語で答えているのではなく、具体的な説明も記入している場合とした。	注意事項をコメントし、学習カードを再提出させた。
		授業後の振り返り設問5に対する解答	個人の課題については、全員記入していたが、「回答ア、班の課題、個人の課題とも見つけることができた」と答えた生徒が15人と思ったより少なかった。(学習カード設問5:今後の課題を発見することができましたか=班の課題、個人の課題とも見つけることができた39%、班の課題、個人の課題を見つけようとした58%、課題を見つることができなかった3%)						個人の課題について、ただ割振られたという感じの生徒が意外に多かったようである。次回からの調べ学習の際に、課題の調べ方やまとめ方についての指導の必要性を感じた。	授業終了後に呼び、話をした。

評価規準は適切であったか

成果としては、グループ活動を中心とした学習活動を展開し、学習内容に合わせて評価規準を設定したため、3観点ともおおむね評価しやすかった。

課題としては、「おおむね満足できる状況」と「十分満足できる状況」との評価規準の違いを生徒の学びの姿に合わせて、より具体的に表現する必要があった。

知識・理解に関しては、単元の始めの段階では「説明することができる」という評価規準は高すぎたようである。学習の実現状況に合わせた評価規準の必要性を感じた。

評価の場面は適切であったか

成果としては、学習場面に応じて評価規準を設定したため、3観点とも見取りやすかった。

グループ学習による意見交換や教え合いの場面では、少人数での活動のため意見を出しやすく、観察や自己評価をしやすかった。

関心・意欲・態度に関しては、毎時間の取り組みを観察することによって、学習の実現状況を正確に把握することができ、一人ひとりの生徒への支援もしやすかった。

課題については、グループ活動の場面では、リーダー的存在の生徒がいない班はスムーズに話し合いに入れなかった。班編成の仕方について課題が残った。

ほとんどの生徒が情報の収集をインターネットで

行っていたため、観察では取り組み内容の把握が難しかった。

評価方法は適切であったか

成果としては、教師用補助簿を座席表を利用して作成し、3色ボールペンで記入したことは、生徒の学習状況を評価するのに役立った。

また、評価の観点に合わせて学習カードの自己評価欄を作成したため、生徒も毎時間のねらいを振り返りながら自己評価することができた。

課題としては、思考・判断に関しては、観察と学習カードによる評価を行ったが、観察で生徒全員の課題設定とその解決へ向けての取り組みを見取ることは難しく、学習カード中心の評価となった。

知識・理解に関しては、レポートの提出や小テストの実施などにより、学習の深まりを把握する必要があった。

形成的評価はどうであったか(まとめ)

形成的評価については、学習場面に応じた評価規準を設定することにより、生徒一人ひとりの学習の実現状況を把握でき、指導に生かすことができた。また、評価の方法については、観察だけではなく、学習カードによる自己評価・相互評価や記述による評価方法、発表用資料等、複数の方法を使って評価したことにより、より信頼性が高まったと感じた。

(ウ) 総括的評価

表40 授業者による総括的評価の記録<評価の結果と振り返り>

	具体的評価規準	見取る場面 (方法)	学習のねらいの達成状況	評価の振り返り					
				評価規準に基づいて評価できたか	評価の方法は適切だったか	評価の場面は適切だったか	評価の方法は適切だったか	総括的評価が有効に機能したか (具体的内容・理由・その他)	C「努力を要する生徒」への手立てはどうだったか
関心・意欲・態度	環境と食品の保健について、仲間と協力したり、意見を交換したりしながら学習を進めようとしている。	授業時の生徒の様子(観察) 授業の振り返りの回答 学習カードへの記入(学習カード)	おおむね満足できる状況であった。最初の頃は、なかなか活動に入れない班があったが、授業が進むにしたがって、スムーズに活動に入るようになった。ただ、もともとグループ行動が苦手な生徒もあり、そうした生徒への支援が課題となった。(全)					総括的評価としては特に問題はなかったように思うが、授業を行う上で、いくつかの課題が残った。クラスの間関係の把握(グループングの際)リーダー(班長)の人選。グループで活動する際には、その進め方やポイント等をアドバイスする必要がある。グループ行動が苦手な生徒に対する支援。	状況に応じて次の指導をした。 ・授業時に注意する ・授業時にアドバイスする ・授業後に話を ・学習カードへコメントする
	環境と食品の保健について、情報を集めたり、調べたりしようとしている。	授業時の生徒の様子(観察) 授業の振り返りの回答 学習カードへの記入(学習カード)	おおむね満足できる状況であったが、ほとんどの生徒が、コンピューターでの検索となり、他の方法で資料を集める生徒が少なかった。調べ学習の方法について、説明が足りなかった。(全)	x				「率先して」を「授業中のインターネット以外の様々な資料を用意して調べ学習をしている」として評価した。調べ学習の方法について、説明不足であった。授業中にインターネットで検索する以外の方法をもっとアドバイスするべきであった。4時間目の授業では、調べ学習2時間目と当初位置付けていたが、実際には発表へのまとめの時間となったため、それに応じた評価規準を設けるべきであった。	
	環境と食品の保健について、仲間の考えや意見を聞いたり、集めて資料を活用したりして、自分の意見や班でまとめたことを発表しようとしている。	授業時の生徒の様子(観察) 授業の振り返りの回答・学習カードへの記入(学習カード)	声が小さく、わかりづらい発表もあったが、概ね満足できる状況であったと思う。(全)	x			x	「わかりやすく」は、発表内容ではなく、「大きな声でわかりやすく」意欲的な態度で」として評価した。判断の目安に、発表を聞く態度についての評価項目を挙げるべきであった。	
思考・判断	環境と食品の保健について、自分の学習や経験をもとにしたり、VTRや関連資料、仲間の意見・考えなどを参考にしたりして、課題の設定をすることができる。	授業時の生徒の様子(観察) 学習カードへの記入(学習カード)	おおむね満足できる状況ではあったが、班の話し合いにスムーズに入れた班は少なかった。(全)				x	課題が重なり、変更してもらった班が出たため、その班は、課題の設定理由の記載について、評価規準を適用することができなかった。	状況に応じて次の指導をした。 ・授業時に注意する ・授業時にアドバイスする ・授業後に話を ・学習カードへコメントする
	環境と食品の保健について、教科書や図書室の関連資料、インターネットの関連サイトなどから情報を集めたり、分析・整理したりするなど、課題を解決するための方法を考えることができる。	授業時の生徒の様子(観察) 学習カードへの記入(学習カード)	多くの生徒に積極的に取り組む姿勢が見られ、おおむね満足できる状況はクリアしていた。(全)	x			x	十分満足できる状況の「率先して」は、「授業中のインターネット以外の様々な資料を用意して調べ学習をしている」として、見取ることができたが、「適切な」については、観察では見ることができなかった。	・学習カードへコメントし、再提出させる

	環境と食品の保健について、学習したことを日常生活に当てはめ、選択すべき行動を判断している。	授業時の生徒の様子（観察） 学習カードへの記入（学習カード）	観察では、おおむね満足できる状況に満たない生徒（調べた内容をレポートしているだけ）が約30%いた。学習カードの記入では、ほとんどの生徒が、おおむね満足できる状況以上であった。（後）	×		×	学習カードの方で、調べた内容が課題に沿って適切であったかを判断したが、 ・課題設定の理由 ・調べ学習の中で気づいた新たな問題点 ・自分の意見 ・今後の課題 等の記入事項があれば生徒の学習の深まり具合がより判断できたのではないかと思う。 十分満足できる状況とおおむね満足できる状況の設定がわかりにくかった。
知識・理解	食品の安全性と食品衛生行政の仕組みや、衛生管理方法、食品の安全性を確保するための情報や廃棄物対策の基本的方向等について言ったり書き出したりしている。	学習カードへの記入（学習カード）	ビデオの内容についての記入は、すべての生徒がおおむね満足できる状況を満たしていた。（全）	×		×	A規準の「しっかりと理解し」は、細かく内容まで記載できたかどうかで判断できたが、「説明することができる」については、判断できなかった。 また、1時間目の規準としては、高すぎるようにも思う。
		発表資料の内容（発表資料）	自分の発表については、全員がおおむね満足できる状況以上の結果であった。				発表資料と発表の仕方では判断した。「しっかりと理解し」は、資料を棒読みするのではなく、要点をまとめわかりやすく発表することで判断した。
		ペーパーテストの結果（期末テスト）	人の発表の理解については、学習カードからはおおむね満足できる状況を満たしていると思われる。（後） 未実施	×		×	学習カードの中の評価記入欄の横に「感想欄」ではなく、各班の発表内容の重要項目の説明を書かせるようにしたほうがよかった。

達成状況の欄は、最後の授業で判断したものは(後)、単元を通して判断したものは(全)を記入する。

評価規準は適切であったか

評価規準としては生徒の実態や学習内容に合った適切なものであったため、総括的にはすべての生徒がおおむね満足できる状況に達していた。

課題としては、「おおむね満足できる状況」と「十分満足できる状況」との評価規準の違いを、生徒の学びの姿に合わせてより具体的に表現する必要があった。また、グループ活動を進めていく上で、クラスの間関係の把握、リーダー（班長）の人選の方法、グループ活動が苦手な生徒への支援の仕方などの課題が残った。

評価の場面は適切であったか

成果としては、各観点とも、課題設定、情報収集・分析、まとめ・発表の学習活動に合わせて評価計画を設定したため評価しやすかった。

関心・意欲・態度に関しては、毎時間、観察を行い、グループ内の意見交換の状況や学習内容に対する興味・関心等の取り組み姿勢を把握することができた。また、グループ活動中は一人ひとりの生徒への支援もしやすかったため、学習が進むにしたがってスムーズにグループ活動ができるようになった。

発表では、調べた内容や意見について、それぞれが発表したため、一人ひとりの発表の仕方や発表内容について評価でき、学習の実現状況を把握することができた。

課題としては、評価の場面としては特に問題はなかったが、インターネットによる情報の収集・分析がほ

とんどであったため取り組み内容の違いがわかりにくかった。様々な方法や資料を活用できるように学習環境を整え、学習活動の広がりをもたせる必要性を感じた。

評価方法は適切であったか

成果としては、各観点について、観察、学習カード、発表用資料などにより、複数の方法で評価したため、観察では見取ることができなかった部分も評価することができた。

観察については、補助簿を工夫したことにより評価結果を記録しやすかった。また、学習カードについても評価の観点に合わせて記入しやすいように作成したため、生徒も毎時間のねらいを振り返りながら、自己評価することができた。

課題としては、学習カードに、「課題設定の理由」「調べ学習の中で気付いた新たな課題」「自分の意見」「今後の課題」などの記述欄があれば、生徒も学習の深まり具合が判断でき、教師も実現状況をより正確に把握できたと思う。

総括的评价はどうであったか（まとめ）

形成的評価を学習指導に生かすことができたので、総括的评价としては、各観点ともすべての生徒がおおむね満足できる状況に達していたと思われる。より信頼性・客観性の高い評価や指導と評価の一体化を図った学習活動が展開できるよう、綿密な指導計画と評価計画を立てることが必要である。

まとめと今後の課題

前段の「授業実践の結果と考察」では、今年度行った、3つの授業実践の結果（授業者による記録）をもとに、成果や課題を整理したが、ここではそれらの成果と課題を踏まえて、総合的にまとめることにする。

1 各評価時期における評価活動について

（1）アンケートによる学習開始前の評価

今回、学習前の診断的評価は意識調査（アンケート）を主として行った。意識調査の結果から、ねらいの重点化を行い、計画段階での授業改善を行ったが、全体的な傾向の把握としては、保健・体育ともにある程度有効に働いた。さらに、生徒がこれから学習する内容に関して、どの程度の学力があるかを把握したり、授業の展開にあたって生徒の学習上の難点を効果的に発見したりするためには、さらに具体的な質問項目が必要となる。関心・意欲・態度の観点とは、意識調査の形式で評価できるが、思考・判断の観点では、実際の場面を想定して、生徒がどのように思考し、判断するか具体的に分析できるように質問内容を考える必要がある。技能については具体的な技能段階を例示して、生徒が現在どの段階にあり、どの程度できると判断しているか分かるようにする必要がある。知識・理解は生徒の知識・理解度が判断できる問題形式の質問を行えば、より具体的な資料となる。

また、より客観的な資料を獲得するには、アンケートの記名についても、検討する必要がある。生徒の実態によっては、成績を意識して正直に答えられない場合もあると思われる。全体の傾向をつかむため、あるいは個人の指導に役立てるため等、アンケートの目的によって、記名式にするか無記名式にするかを選択する必要がある。アンケートの内容はいわゆる自己評価ということになるが、学習前の診断的評価における見取りは客観性が重視されるべきであろう。

アンケートだけでは診断しにくい観点としては運動の技能が挙げられ、実際に運動している場面を観察する必要がある。しかし、アンケートにより、今までの経験や理解している技能を把握することは可能であり、これから行おうとする学習内容についての技能習得の意識や経験などを調査することは有効である。体育の授業への興味・関心は、種目によって好き嫌いがあることが多いので、前単元までの学習の様子を集約しておき、種目別の傾向などをあらかじめつかんでおくことも必要である。

（2）学習のはじめの段階での評価の位置づけ

アンケートを中心とした評価の後は、次は実際の意識と実態との相違を埋める作業が必要となる。しかし、学習のはじめの段階での評価は1～2時間目の短い間で判断する必要があり、実際今回行った、体づくり運動、バドミントンの学習のはじめの段階で見とれた内容は少なく、保健ではここでの評価は行わなかった。

学習開始前の評価で全ての評価規準の観点についてある程度見取ることができたら、ここでの評価は確認ということになる。できる限り学習前の評価で、全体傾向を十分に把握し、学習のはじめの段階では「確認」でだけにしておきたい。さらに学習開始前の評価で、十分見取ることができなかった観点について、見取る行動を具体化し、その行動を予想してから評価に臨む必要がある。

ここでの評価は「関心・意欲・態度」「技能」の部分、特に「技能」の習熟状況については、種目選択の状況等により、生徒間の違いがあることが予想されるため、必ず確認が必要であると考えられる。

（3）形成的評価の要点

授業の進行過程で学習の実現状況を把握するためには、各学習場面における生徒の行動目標とその具体的な例示があらかじめ言語化されている必要がある。そして、指導と評価のタイミングを系統的に考え、つまづいている生徒への支援を含んだ詳細な評価計画が必要である。停滞する原因をあらかじめ想定しておくことで生徒の変容や、つまづきに対して迅速に対応することができる。何につまづいているのかを正確に把握するためには、評価規準に基づき、観点別に原因を探り、必要な手立てを講じる。

努力を要すると判断された生徒について今回の授業で行った手立てを整理すると、一つ目は教師が個別に指導する方法が挙げられる。具体的にはつまづいている生徒に寄り添い、会話をしながら、ポイントをアドバイスしたり、励ましたり、また学習ノートにコメントしたりしている。

二つ目は意図的にグループの中で教え合いの場を仕組んでいる。理解できている生徒とペアを組ませることで、学び合いによる課題解決を目指している。いずれの方法も有効に働いた。

（4）総括的評価の要点

今回、3つの実践において、細かい課題は残されたが、おおむね生徒の学習の実現状況を確認できた。診断的評価の結果に基づき評価規準を作成し、形成的な評価の過程において学習のねらいの達成度を確認するという一連の作業をすることによって、総括的評価の段階では、ある程度精度の高い評価を行うことができた。

生徒自身が単元等の全体を振り返り、その目標に照らしての学習の実現状況を把握するためには、総括的な評価の段階で、知識・理解度テスト等を行うことも考えられる。また、診断的評価の段階で行ったアンケートと対応させた内容の調査を行うことで、生徒の変容を数値で具体的に示すことができる。

2 評価が有効に機能したか判断する3つの視点

(1) 具体的評価規準の設定について

評価規準は数量的な達成、到達の度合いを指す「基準」ではなく、学習指導要領の目標に照らした実現状況、即ち新しい学力観に立って生徒が自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な実現状況とすることが基本的な前提となる。

また、多面的に評価するため、「おおむね満足できると判断される状況」(B)を複数の視点から設定し、それぞれに「十分満足できる」及び「努力を要する」状況と判断できる学習行動(方法的側面)の例を学習形態・内容等とのかかわりで予測し、明らかにしておく必要がある。

評価規準については国立教育政策研究所の資料に示されている内容を参考にするが、その内容や捉え方も改善されてきている。それらを踏まえつつ、各学校において、それぞれの種目・領域ごとに3年間を見通した学習内容と評価規準を計画的、系統的に設定することが必要になる。

そして各学校で設定した評価規準(B)及び(A)(C)の具体的な姿を元に、生徒の多様な学習行動を想定し、授業を通してそれをより具体的に加筆、訂正し、必要があれば評価規準などを修正するなどの作業を繰り返しながら、評価をより客観的で確かなものにしていく必要がある。

また、理論で示しているとおり、**縦**(教科・領域 単元 具体例の一貫性)、**横**(観点間の表現の重複や紛らわしい表現を避ける)及び**高さ**(同じ軸で質の高まりを表現する)については、評価規準を設定する上で、最も考慮すべき事項の一つといえる。評価規準の設定に当たっては4観点(保健は3観点)がそれぞれ、混在することのないよう、「横」の関係を整理していくことが必要である。

さらに、使用する用語は、判断基準、生徒の学びの姿を思い浮かべ、より具体的な表現を用いる必要がある。今回の実践における具体例としては、「保健」で用いられていた、十分満足できる状況の「率先して」や「適切な方法を」などがそれにあたる。また、十分満足できる状況の「説明することができる」も、説明する場面や方法を明確にしておかないと評価することができない。

(2) 評価の場面の妥当性

効果的に評価結果を指導に生かしていくためには、評価結果をフィードバックできるサイクルを成立させる場面設定が必要である。

評価は、指導の適時性を考え、あらかじめ計画して場面設定して一斉に行う評価と、生徒の変容に合わせてその都度行う評価とが考えられる。

あらかじめ計画する評価に関しては、指導の流れに準拠するとともに、評価に追われない適正な、評価場面を設定する。

生徒の変容に合わせてその都度行う評価については、即応性が求められる。即応できない場合は、学習後に補充指導が必要な場合も考えられる。いずれにしても、生徒の変容や、つまずきに対する手立てがあらかじめ考えられているかが鍵となる。

(3) 評価方法の妥当性

ア 関心・意欲・態度をどのように見取るか

「体づくり運動」の「体力を高める運動」における関心・意欲・態度は、必要・充足の観点であり、「楽しさ」や「喜び」は観点としないことが妥当と判断したが、「体力を高める喜び」と「運動する喜び」との関連性は深く、今後検討される必要がある。今回の実践では「必要性を意識して」という観点で、学習カードの記述を参考にしながら観察で評価した。

バドミントンでは喜びの表現方法をルール化し、観察で評価したが、「喜び」にはさまざまな要因(人間関係がうまくいかない・技能が未熟で楽しめないなど)が影響しているため、ルール化しただけでは、様々な要因を把握することはできない。「楽しさ」や「喜び」を味わえない要因は学習全体の課題であり、そこを改善していくための手立てが重要と考えられる。

「保健」では、班のテーマを決める際に希望が重なった班がいくつかあり第2希望へ移動してもらった。そのため、学習意欲が多少薄れた生徒がおり、その生徒の適切な評価はできなかった。体育でも、選択制授業の際は第一希望が通らず、同じことが起こる可能性がある。生徒の興味に沿った内容を選択できたり、提示できたりするシステムの工夫も重要であろう。

イ 思考・判断について

「思考・判断」の観点は、授業中の観察で全員を把握することは困難であり、主に学習終了後の学習ノートによる評価となるが、学習後では、生徒が課題をどのように設定していくのかなど、課題設定のプロセスを把握することは難しい。生徒がどういった過程で課題を設定していくのかを見取るためには学習中の課題への取り組み状況

を評価し、合わせて学習ノートの記述の両面で評価する必要がある。

ウ 技能をどうとらえ、評価していくか

「体づくり運動」の「体力を高める運動」では、量的なものではなく、質的な高まりを判断するという原則を確認しつつ、技能を考える必要がある。筋力、柔軟性を高めることについては、行っているフォーム等を観察で見取ることができるが、持続走については実際の心拍数や、主観的運動強度などを目安に判断しなければならないので、学習ノートでの見取りが必要になってくる。その際、関心・意欲・態度や思考・判断の観点が入り込まないように数値を見ていく。例えば、目標心拍数を算出し、その数値に、自分の運動強度を合わせていけるかどうかを、基本的な技能ととらえる考え方である。

バドミントンなどの、対人種目では、試合の際相手の攻撃ごとに技能レベルが変わるので、練習場面での評価が重要となる。ダブルスにおける技能は、思考・判断、知識・理解の要素に大きく左右されるので、それらを考慮する必要がある。

エ 観察法と学習資料による評価

理論で示したとおり、評価方法には様々な方法が考えられるが、本実践の形成的な評価では、観察法と学習資料の記述により評価した。

「バドミントン」の実践では、技能のチェック表の活用が有効と考えられており、生徒自身も技能の高まりを感じることができると思われる。「体づくり運動」は、技能のとらえ方が大変難しい種目なので、教師側が系統的な技能段階を示したチェック表が作成できれば有効に働くであろう。技能を示した資料やテキストを提示・活用するタイミングは、学習効果を高める重要な要点となる。また、教師の評価補助簿についても、技能の種類ごとに細分化しておく記録がしやすいであろう。

学習ノートには、評価計画に沿って、学習のねらいに合わせ、生徒自身がポイントを確認できるものでありたい。分かりやすく意図的に答えを引き出すような工夫をすることで、学習の方向付けができるとよいであろう。

「保健」の実践では、教室での授業のため全体を把握しやすいが、動きが少ない活動であったため、「おおむね満足できると判断される状況」と「十分満足できると判断される状況」との学びの姿の違いを観察によって判断することの難しさを課題に挙げている。このような場合、学習資料の記述で授業後に判断することになる。本実践では学習カードの記述が、課題に沿って適切であったかを判断したが、「課題設定の理由」「調べ学習

の中で気付いた新たな問題点」「自分の意見」「今後の課題」等の具体的な記入欄があれば生徒の学習の深まり具合がより判断できたのではないかと考えられる。

オ 合理的で簡便な評価方法とは

「体づくり運動」の実践では、ひとつの評価規準について複数の方法を用いて評価することによって、より詳細に見取ることができ、個に応じた細かい指導ができたが、非常に労力が必要であった。診断的評価においてアンケート調査を行ったり、授業後に学習ノートのチェックを行ったりすることは、時間のやりくりはできたが、作業としてはかなりの量であった。また、実際の授業において観察法で見取るには、評価結果を即座に指導に生かしたり、記録簿に記録したりしなければならない。よって全ての段階における評価は、最も有効な方法という観点で精選し、実際の指導の状況に即した方法及び回数等を設定する必要がある。

これらは一回の実践で完成されるものではなく、試行錯誤が繰り返されて出来上がってくるものであると考える。

また、忘れてはならないことは、ねらいの明確化が、合理的で簡便に評価を行う最も基本的な要点であるということである。生徒にどのような力を身に付けさせるのかを明確にすることによって、初めて言葉で表される規準、場面、方法等が具体化する。さらに、学習中に生まれる課題をあらかじめ想定し、事前に手立てを考案しておくことができる。周到的な評価計画をすることこそ、授業実践において最も簡便に行う要点であろう。指導の流れに沿った評価計画を行うことで、指導と評価の一体化が図られ、合理的な評価が実現できる。

おわりに

今回の研究は、各高等学校に配付する学習評価の参考資料「学習評価ハンドブック」を作成するにあたって、評価理論のまとめと3名の協力者による授業実践を行った。各校で元々計画されている学習を、本研究のために改善したため、各取り組みにおいて、全て共通したまとめ方にはなっていないが、まとめに示されているように、種目ごとの課題や、共通した課題がいくつか明らかになった。

3名の県立高校の保健体育科教諭には、協力者として、毎回、評価を意識しながら実践するとともに、学習評価活動について詳細に記録をとり、評価終了後に成果と課題について振り返っていただいた。「学習評価ハンドブック」では、この研究で得られた、貴重な成果や課題、そして意見を集約し、それらの内容を十分生かして作成したいと考える。

学校教育では、アカウントビリティ(説明責任)が問われる中、神奈川県では平成17年度より生徒による授業評価も始まり、まさに評価の時代を迎えている。このような中でも、教師は評価のための評価に陥ることなく、子どもたちの成長を見据え、あくまでも指導に生かすための評価という基本原則を常に心がける必要がある。

最後に、今回協力していただいた3名の協力者、及び各校の保健体育科の先生方に感謝を申し上げます。

協力者(順不同)

県立岸根高等学校 重本 英雄

県立大師高等学校 斎藤 史洋

県立座間高等学校 元橋 洋介

引用・参考文献

- 1) 宇土正彦他編著:「体育科教育法講義」大修館書店
1992.10
- 2) 日野 宏:「保健体育ジャーナル」68号 学習研究社, 2004.1
- 3) 川崎市教育センター:「新学習指導要領とこれからの評価」～評価を授業に生かすために～平成13年11月
- 4) 佐野金吾・児島宏編著:「新しい評価の実際」-生きる力を育てる評価(第2巻)- ぎょうせい 2001.7
- 5) 新潟県教育センター:「これからの学習評価」平成14年5月
- 6) 佐野金吾・児島宏編著:「新しい評価の実際」-生きる力を育てる評価(第1巻)- ぎょうせい 2001.7
- 7) 神奈川県立総合教育センター:「高等学校シラバス例示集」平成16年2月
- 8) 文部省:「学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動 授業の考え方と進め方」平成12年3月
- 9) 戸田芳雄:「平成16年度全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事研究協議会資料」平成16年9月